

平成 29 年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール

実施報告書

平成 30 年 3 月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015 年度受賞

【表紙写真】 第四中学校セカンドスクール（長野県飯田市）

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱	5
プレセカンドスクール実施要綱	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	12
平成 29 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	14
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校	16
第二小学校	21
第三小学校	26
第四小学校	30
第五小学校	35
大野田小学校	40
境南小学校	45
本宿小学校	50
千川小学校	55
井之頭小学校	60
関前南小学校	65
桜野小学校	70
<中学校セカンドスクール>	
第一中学校	76
第二中学校	80
第三中学校	84
第四中学校	88
第五中学校	92
第六中学校	96
<プレセカンドスクール>	
第一小学校	102
第二小学校	106
第三小学校	110
第四小学校	114
第五小学校	118
大野田小学校	122
境南小学校	126
本宿小学校	130
千川小学校	134
井之頭小学校	138
関前南小学校	142
桜野小学校	146

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度 ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度 ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度 ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度 ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度 ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度 ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度 ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度 ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度 ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度 ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。

- 平成14年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- 平成15年度
 - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール*を4校にて試行。
*プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
 - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）
- 平成23年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。

- 平成25年度
 - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。
- 平成26年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われた（長野県飯山市）。
- 平成27年度
 - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施した。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行った。
- 平成28年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力した。
- 平成29年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。

武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。

(活動内容)

第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舍内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童及び生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。
- (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

(活動内容)

第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成14年度)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					
第一中学校		東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2 平成4年 ……長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

※3 平成5～6年……岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成15年度～)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校						新潟県魚沼市		(6泊7日)
第二小学校		平成16年11月1日 南砺市へ新設合併						
第三小学校				群馬県片品村			(7泊8日)	
第四小学校								(6泊7日)
第五小学校	群馬県川場村							
大野田小学校								
境南小学校	(7泊8日)							(6泊7日)
本宿小学校								
千川小学校					山形県鶴岡市			(6泊7日)
井之頭小学校						長野県飯山市 戸狩		
関前南小学校							(8泊9日)	(7泊8日)
桜野小学校	山形県遊佐町 (7泊8日)						(5泊6日)	(7泊8日)
第一中学校	長野県北安曇郡 白馬村							
第二中学校			平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併					
第三中学校								
第四中学校								
第五中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					
第六中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	(平成17年11月1日) 甲州市へ新設合併					千葉県 館山市
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市					
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)							
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)						
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)						
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市	
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	(平成18年3月27日) 香取市へ新設合併	東京都檜原村			
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村					
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)							
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)					

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
東京都 檜原村	→	山梨県富士河口 湖町西湖				
山梨県富士 河口湖町						
山梨県 山中湖村						
山梨県 北杜市			→	山梨県 山中湖村		
				→	山梨県 山中湖村	
			→	山梨県 富士河口湖町		
山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村					

平成 29 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

(平成29年5月現在)

種別	学校名	実施日	実施場所	現地宿舎	
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月27日(水)～10月3日(火)	6泊7日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9月24日(日)～10月1日(日)	7泊8日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	9月25日(月)～10月1日(日)	6泊7日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	6月1日(木)～6月7日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校	9月14日(木)～9月20日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校	9月28日(木)～10月4日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9月20日(水)～9月26日(火)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	本宿小学校	9月21日(木)～9月27日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9月21日(木)～9月27日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9月28日(木)～10月4日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	9月22日(金)～9月28日(木)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校	9月24日(日)～9月30日(土)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月26日(火)～9月30日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、 ホテル1泊
	第二中学校	5月23日(火)～5月27日(土)	4泊5日	新潟県十日町市	農家2泊、旅館2泊
	第三中学校	10月2日(月)～10月6日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿
	第四中学校	9月26日(火)～9月30日(土)	4泊5日	長野県飯田市	キャンプ1泊、農家1泊、旅館2泊
	第五中学校	9月22日(金)～9月26日(火)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、 ホテル1泊
	第六中学校	9月6日(水)～9月10日(日)	4泊5日	長野県安曇野市	農家1泊、 公営宿泊施設3泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	9月20日(水)～9月22日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第二小学校	10月11日(水)～10月13日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	5月24日(水)～5月26日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	9月6日(水)～9月8日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	9月27日(水)～9月29日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6月21日(水)～6月23日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校	10月9日(月)～10月11日(水)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	本宿小学校	10月4日(水)～10月6日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	千川小学校	10月4日(水)～10月6日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校	10月11日(水)～10月13日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	関前南小学校	9月13日(水)～9月15日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	9月13日(水)～9月15日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月27日～10月3日(6泊7日)

参加人数 男子38名 女子32名
計 70名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然とのふれ合いを通して、物質的な豊かさの中で失われてきている自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験し、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・長期の宿泊による生活時間を活用し、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けるとともに、一人一人の児童の創意を喚起し、情操を養い、個性の伸長を図る。
- ・学習の場を移し、自然や地域の特性を生かした教材開発や学習方法を工夫し、一人一人の児童に新たな興味・関心を喚起し、体験に裏付けられた生きた学力の向上を図る。
- ・自主的な集団生活、地域の人々との交流、児童の相互の協力を通じて、児童・教師との間の信頼関係・人間関係を深め、また、保護者や地域の人々に対する感謝の念を育てる。

○日程表

9月27日(水)		9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床 朝食	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	9:00	農耕舎見学	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	11:30	須原小訪問	9:00	課題別学習①	10:00	駒見山ハイキング
13:30	開校式	12:30	昼食	12:00	昼食	12:30	昼食 教員交代
15:00	守門地区散策	13:30	農業体験	12:40	課題別学習②	14:15	目黒邸見学
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	14:30	学習内容報告	15:15	昔話を聞く会
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	健康観察・入浴	16:30	健康観察・入浴
19:00	はじめましての会	19:00	手紙書き	17:30	夕食	17:30	夕食
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	19:30	天体観測	19:00	語らいの時間
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
10月1日(日)		10月2日(月)		10月3日(火)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:30	林業体験 薪割り等	9:00	わら細工作り	8:00	荷物整理・大掃除		
12:00	昼食	11:30	郷土食作り体験	9:30	セカンドスクールまとめ		
13:00	林業体験 伐採	12:00	昼食	10:30	閉校式		
16:15	班長会議	13:30	宿別体験	11:00	守門発		
17:00	健康観察・入浴	15:30	セカンドのまとめ	12:40	昼食(赤城高原SA)		
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	14:00	トイレ休憩		
20:00	語らいの時間	18:00	夕食 感謝の会	15:30	学校到着		
21:00	就寝準備	20:30	語らいの時間		帰校式		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	16:00	解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・5月から児童一人一人にバケツ稲に取り組みせ、米作りの過程や、米作りの難しさなどを実感させた。また、学校の水田では、魚沼から送っていただいたコシヒカリを育てた。
- ・夏休みに入る前に、現地の情報を集め、そこから特に深めたいことについて、グループごとに分かれて調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学習したこと、お世話になった方への感謝の気持ちを劇化し、発表する機会を設定した。また、4年生にセカンドスクールについて知りたいことをアンケート調査し、その回答を活かして、パネルディスカッションを行い、質問についての回答やアドバイスを考えた。
- ・国語科の学習で、セカンドスクールで学んだことを文章に表現した。7日間を通して自分が一番努力したことや成長したことを考えてまとめた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

現地の3名の講師の方にグループごとについてもらい、小出スキー場の駒見山の頂上を目指してハイキングをした。ハイキング中に見かけた植物の名前の由来や、昆虫の種類などを説明していただいた。危険な植物や動物、昆虫などの説明も受け、子どもたちは楽しさの中に危険もあることを感じた。また、自然の中での遊び等を教えてもらいながら、自然の楽しみ方を実感できた。自然の知識を得ながら、興味をもってハイキングをすることができた。



【駒見山から見た魚沼の景色】

2 星空学習

須原高原スキー場の「星の家」という施設で、最初に天体望遠鏡を見学し、3名の講師の方に使い方や、どの程度観測できるのかを説明していただいた。

当日は、残念ながら雨が降ってしまい星空を見ることができなかったが、急きょ全員でスクリーンを見て惑星や星座についての話をしていただいた。講師の方々が様々な資料を提示してくださり、星座や宇宙への興味・関心が深まった。

＜社会体験活動＞

1 農業体験

魚沼農耕舎の方の指導のもと、稲刈り、はざ掛けを行った。鎌の使い方、束ね方等を丁寧に説明していただき、友達と協力して稲刈りを行った。当日は雨が降り足場が不安定で体力的にも厳しかったが、ただ力任せに稲を刈るのではなく、コツを知ることでスムーズに作業ができるようになった。最後に落ち穂を拾うことも教わり、米を大切にする姿勢も学ぶことができた。

稲穂を実際に足踏み式の脱穀機（大正～昭和初期の物）で脱穀したときには、難しさに驚いている児童がいた。また、脱穀で飛んでしまった米を拾い集めるとかなりの量になり、一粒一粒を大切にするという実感ももてた。わらを使用して生活に役立つ物を作っていたことを知り、宿ごとに実際にわらを編んで鍋敷きを作成した。昔の人の知恵と工夫を学ぶことができた。

2 林業体験

福山森林体験の森に出かけ、炭焼き窯から炭をかき出す作業や、丸太を短く切ったものを斧で薪にする作業などを行った。炭焼き窯での作業を通して高温の中で仕事をする大変さを、また、薪割り体験では、想像以上に力が必要なことを実感した。ブナ林で、伐採した木をのこぎりで短く切り分け、運び出す作業も行い、友達と協力して作業を行うことができた。



【福山森林の家 薪割り体験】

3 課題別学習

魚沼（新潟）を知る学習として、「歴史」「産業」「自然」の3グループに分かれて学習した。歴史グループは、鉄道のJR只見線についての話を聞き、塩沢で鈴木牧之記念館や牧之通りの見学をした。産業グループは、山菜加工工場、ゆきくら館を見学した。また、魚沼そばパスタについて開発者の方からお話を伺った。自然グループは、魚沼が発祥と言われている流雪溝や除雪車の見学をした。各グループが学習を終えて集合した際には、児童同士で各グループの内容を交流し合う時間をもつことができた。



【鈴木牧之記念館見学】



【そばパスタについてのお話】



【流雪溝についてのお話】

4 須原小学校との交流体験

2日目には、魚沼市立須原小学校の5年生と交流をした。須原小学校の5年生とは、セカンドスクールに行く前からメールや手紙などで情報交換をしてきた。自分の写真や紹介文を互いに送って見ていたので、すぐに打ち解けていた。

交流会では、最初に須原小学校の校長先生に須原小学校や武蔵野市との違いについて紹介していただいた。一小の子どもたちは、武蔵野市の特色を伝えた後、「だいだらぼっちの春」をプレゼントとして合唱した。須原小学校の5年生は、魚沼に関するクイズを出したり、須原小学校の校内を案内したりしてくれた。互いの小学校の違いや共通点を語り合っ、驚いたり共感したりしている子どもたちの姿がたくさん見られた。昼食は、グループに分かれて交流しながら食べた。事前に送った紹介文に書いてあったことを話題にして、好きなものや今流行っていることについて楽しそうに話していた。交流会の最後には、温かく迎えてくれた感謝の気持ちを伝え、今後も交流を続けていこうと約束をした。

セカンドスクールでは、魚沼の大人の方と関わる機会が多いが、同年代の子どもたちと関わる機会が少ない。環境が異なる子ども同士で素直な気持ちを話したり、行動を共にしたりする貴重な機会となった。



【合唱「だいだらぼっちの春」】



【須原小学校グループ交流】

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

6日目の昼食は、各宿で郷土食の五目御飯作りを行った。米、山菜、クルミなど地元でとれた食材を使う地産地消の考え方の大切さを改めて実感した。家庭科で学んだ調理法や社会科で学んだ食糧生産のことなどを生かすことができた。食材をいろいろな調理法でおいしく食べようとする昔の人々の工夫にも気付くこともできた。

2 宿別体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験をしたり、近くを散策して植物についてお話しをしていただいた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験し、食べ物のありがたさを改めて実感できる機会となった。

○児童の感想

・須原小学校に訪問した時は、私たちが温かく迎えてくれました。お互いに一生懸命考えた出

し物をしたり、校内を案内してもらったりしてとても仲良くなれました。せっかく友達になれたので、これからも交流を続けていきたいです。

- ・稲刈り体験のときは、地面がぬかるんでいて歩きづらくて大変でした。でも最後までできたのでよかったです。稲刈りの大変さが分かったのでご飯を残さず食べようと思います。
- ・炭焼きは本当に熱くて驚きました。教えてくださった方は全然大丈夫そうで、とても素早くてすごいと思いました。薪割り一つを割るのにとても時間がかかりました。一つ割るだけで疲れてしまいました。機械でやったときは楽で、機械の便利さを実感しました。
- ・わら細工は、最初うまくできなくて大変でやめたくなりました。けれどお母さんが励ましてくれたり、お父さんが優しく手伝ってくれたりしたのでがんばろうと思いました。最後までできたときは達成感がありました。あきらめないでよかったです。
- ・友達と宿で過ごすのは大変でした。時間を守れなかったり、忘れ物をしたりすることが多くて、どうやったら皆できるようになるか考えました。語らいの時間に真剣に話したら、皆が少しずつ気を付けるようになったので、きちんと話し合うことは大切だなと思いました。
- ・宿の方や指導員の先生は本当に優しくて私たちにいろいろなことを教えてくれました。私たちのことを考えてくれるので、感謝の気持ちをもってこれから頑張りたいと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

1学期の総合的な学習の時間に学校の水田やバケツで稲を育て始め、2学期に稲刈りを行い、東京でも実際に継続して育てる活動を行った。2学期の総合的な学習の時間では、学習したことや感謝の気持ちを劇にして発表した。また、第4学年を対象に「セカンドスクールについて知りたいこと」アンケートをとり、分かる範囲で応える活動をした。下学年の児童が来年度への活動に対して興味・関心がもてるようにした。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・須原小学校との交流内容を事前に十分検討し、連絡を密にとるようにした。互いの学校の児童にとって意味のある体験となり、交流が深まった。今後もこのつながりを大切にして継続して連絡を取り合っていくことが課題である。
- ・課題別学習では、魚沼に密着した場所を選んで学習したことで、地元の方たちがより身近な存在になった。多くの方々がつながって協力して工夫や努力していることが学べた。しかし、課題別学習は、児童の主体性を大切にしたいので、選択肢には余裕をもっておき、児童の実態に合わせて柔軟に対応できるようにしておく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

9月24日～10月1日(7泊8日)

参加人数 男子 33名 女子 36名
計 69名

○セカンドスクールのねらい

- ・利賀村の自然や人々の生活などについて自ら課題をもち、主体的に追究する力を付ける。
- ・利賀村の人々と心の交流をし、自然の中で豊かな体験活動を行うことを通して、自然や利賀村の暮らしに対する興味関心を高める。
- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきをもとに環境と人とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・学習したことを工夫してまとめ、伝える力を付ける。
- ・体験を通して、健康・安全及び集団生活や公衆道徳のルールやマナーを学ぶ。

○日程表

9月24日(日)		9月25日(月)		9月26日(火)		9月27日(水)	
7:30	集合(武蔵境駅)	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:02	武蔵境駅発	8:30	地域散策	9:00	山登り始め	10:00	朝会
9:32	東京駅発	9:30	そば打ち体験	12:00	昼食		林業体験
12:20	新高岡駅着	11:30	昼食	13:00	峠の一本杉発	13:00	昼食
13:40	新高岡駅発	13:00	稲刈り体験	15:00	そばの郷着	13:45	岩魚つかみ体験
14:30	利賀村着 開校式	16:00	民宿着	16:00	民宿着	16:30	民宿着
15:30	民宿着 はし作り	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
17:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	20:00	民宿の方のお話	20:00	手紙書き(家族へ)	20:00	民宿の方の話
21:00	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝
9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)		10月1日(日)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	課題別学習	9:15	利賀小との交流	10:00	相倉合掌集落見学	9:00	閉校式
12:00	昼食	12:00	給食	12:30	民宿着	12:10	新高岡駅発
13:30	そばの郷資料館見学	13:35	わら細工		昼食		車内昼食
14:30	民宿別活動	15:45	民宿着	13:30	民宿別活動	14:52	東京駅着
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	15:17	東京駅発
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	15:54	武蔵境着
20:00	ありがとうの会準備	20:00	ありがとうの会準備		ありがとうの会		解散式
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	16:20	解散

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - ① 二小にある樹木を観察し、種類とその特徴について調べる。
 - ② 「武蔵野の森を育てる会」の方を招いて、実際に樹木や森林の話をしていただく。
 - ③ 森林について課題を設定し、社会科の学習につなげる。
 - ④ 利賀村について、自然や特産物、伝統、歴史などを調べる。
- ・1学期後半から2学期にかけて社会科で農業について学習し、米作りの工夫や仕事をしている人の思いを学ぶ。
- ・社会科の単元を入れ替え「森林とわたしたちの暮らし」の学習を2学期に行う。
 - ① 人工林や天然林のはたらきなどを調べ、その役割について学ぶ。
 - ② 林業について学習し、林業の仕事をしている人の工夫や思いを学ぶ。
 - ③ 土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについて学ぶ。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文や新聞にまとめる。
- ・お世話になった方々へ手紙を書き、感謝の思いを伝える。
- ・展覧会の立体作品「セカンドスクールの思い出」では、セカンドスクールの思い出を粘土作品で表現する。また、造形活動「わら細工」では、利賀村から講師をお招きし、縄のない方や初午の作り方を教えて頂きながら、活動に取り組む。
- ・自分たちで刈ったお米を炊き、おにぎりパーティーをする。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 山登り

今年度よりハイキングルートを変更した。昨年度までに比べ傾斜が少なくなった分、班ごとに、現地インストラクターの方に利賀の動植物についての話を聞きやすくなった。植物に触れながら、その植物の名前や特徴を学び、生活の中でどのように使われてきたのかについても知ることができた。また、熊の爪の跡や猪の通った形跡を見たり、鳥の鳴き声を聞いたりすることで、大自然に住む動物についても考えることができた。社会で学習した人工林、天然林についても、森林の中を歩いたり実際に樹木に触れたりすることで、その違いについて理解を深めることができた。



【ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 稲刈り

鎌を使って稲を刈る、わらで稲を結ぶ、結んだ稲をはさにかける、という一連の流れを体験した。また、脱穀も体験したことで、昔の農作業の大変さを実感することができた。稲刈り後は、ライスセンターで稲の精米行程を見学した。学校での学習と、利賀での農作業体験、ライスセンター見学を通して、米が食卓に届くまでの人々の努力や苦労を実感することができた。

2 林業体験

昨年度までの森林組合から今年度は moribio という会社による体験となった。木の伐採方法や枝打ちについて話を伺った後、一人一人のこぎりを使って「丸太玉切り体験」を行った。

20mの高さの木を、実際にチェーンソーを使って伐採する様子を見学させていただいた。ものすごい地響きとともに倒れる木の様子を見て、林業を営む人々の工夫や危険などを肌で感じることができた。さらに、やみくもに伐採しているのではなく、必要に応じて切るべき木を切っているという話を聞き、林業に携わる人たちの苦労と努力について学習することができた。

3 相倉合掌造りの見学

これまではグループごとに自由に散策させていたが、今年度は「相倉ミッション」と題して観るべきポイントを示したうえで見学を行った。あらかじめワークシートを用意しておき、それを埋めていく作業を通じて具体的に観るべきポイントを明確にすることができた。

ファーストスクールに戻ってきてから、実際に見学で埋めてきたワークシートの振り返りをした。話し合いを重ねていき、「なぜ合掌造りが世界遺産に登録されたのか」について学習することができた。

<生活・文化体験活動>

1 岩魚つかみ

キャンプ場の百瀬川の浅瀬に3つの区切りをつくっていただき、生きた岩魚をつかむ体験に取り組んだ。児童は、苦戦しながらも、普段はできない活動に積極的に取り組んでいた。その後、つかまえた岩魚をさばき、内臓を取り除く作業を行った。一人一人が岩魚の命と向き合い、真剣に取り組むことができた。普段何気なく食べている食べ物も、すべて命をいただいていることを改めて実感し、「いただきます」の本当の意味を考えながら一口一口しっかりと味わって残さずにいただくことができた。

2 利賀小との交流会

現地の小学生12名と直接交流する機会があった。発表会を成功させるために、ファーストスクールで事前に練習を重ねた。お客さんを第一に考え、「二小の事を知ってもらいたい」「自分ができることを教えてあげたい」「70名という人数がいるからこそその活動を見せたい」との思いから、「二小クイズ」「昔遊びの披露」「運動会での表現運動」を発表した。

一生懸命に発表した結果、多くの拍手をもらうことができ、子どもたちも大満足であった。利賀小からの発表を見たり、お弁当と一緒に食べたりして、さらに絆を深めることができた。

3 民宿での体験活動

8つの班に分かれ、各民宿に分泊した。1週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができたようになった。同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを、身をもって感じる事ができた。

さらに、民宿の方との温かい触れ合いを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもちろん、普段お世話になっている方々に対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えることができた。民宿別活動では、野菜の収穫や選別する体験、裏庭の散策、五平餅づくりなど、各民宿の特色ある仕事や利賀の伝統的な活動を体験させていただいた。



【野菜の収穫】



【餅つき体験】

○児童の感想

- ・事前の調べ学習や民宿ごとのめあて決めなど、すべてのことがセカンドスクールにつながっていることがよくわかった。
- ・どんな人が民宿にいるのかわからなかったのですが、はじめは緊張していたけれど、たくさんの人たちがやさしく声をかけてくれたのですぐに打ち解けることができた。そのおかげで自分も積極的に動いて、様々なことを経験することができてよかった。
- ・事前に長靴を用意してくれたり、ハイキングのコースの草を刈ってくれたりするなど、多くの人の支えがあって活動が成り立っていることがよくわかった。わたしも自分がやるべき仕事をきちんとやらなければならないと強く感じた。
- ・実際に自分の手で岩魚をつかみ、さばくことによって、命のありがたみがよく分かった。これからは「いただきます」の意味を考えながら食べるようにしていきたい。
- ・利賀小との交流に向けて、一生懸命に練習してきた成果が出せてよかった。利賀小の人たちも少ない人数にもかかわらず、あいさつや発表会では大きな声が出ていてすごいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連

<総合的な学習の時間>

「利賀の森は地球を守る」

事前学習では、校庭や「独歩の森」の樹木観察・森林学習に取り組み、武蔵野市の樹木の種類や雑木林の役割などを学習し、自分たちが住む武蔵野市の自然への関心を深めた。

2学期に入り、社会科「わたしたちの生活と森林」で、日本における森林の割合やその実態、

林業、森林問題について学習し、視野を広げながら学習に取り組んできた。それらの学習をもとに、南砺市利賀村の森林に関心を持ち、自ら課題をもって調べ学習に取り組んだ。

セカンドスクールでは、山登りと林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりすることができた。また、民宿の方にも利賀村の森林や自然についてのお話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・昨年度の反省を生かし、今年度の時程や内容を確認しながら進めることができた。
- ・セカンドスクールに携わるたくさんの利賀村の方や指導員、看護師、引率教員で連携をとり、全日程ほぼ予定通り活動に取り組ませることができた。
- ・ファーストスクールのうちから1週間という長期宿泊を意識させ続けたことで、大きな病気や事故もなく、児童は友達と深く関わり、切磋琢磨しながら、様々なことを乗り越えることができた。

<課題>

- ・事前に学校側のねらいを明確に示し、内容の厳選や活動形態の工夫などにより、児童の活動時間を十分に確保し、活動の充実を図る。
- ・利賀の方々の高齢化などによる受け入れ民宿数の減少や、民宿によって受け入れ最大人数の違いもあり、クラスごとに民宿を配分するのが難しかった。現地の方々と早めに打合せをし、要望を伝えていくことを心がけていく。

第三小学校

群馬県利根郡片品村

9月25日～ 10月1日（6泊7日）

参加人数 男子44名 女子37名
計 81名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然とのふれ合いを通して、自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて考え、自然を大切にすることができる。
- ・自らの問題を持ち、体験活動に基づいて問題を解決し、探究的な学習を進めることで、意欲的に学習に取り組むことができる。

○日程表

9月25日（月）		9月26日（火）		9月27日（水）		9月28日（木）	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発	6:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:45	開校式	8:00	朝会	9:00	朝会	8:00	食材準備
12:15	各民宿あいさつ		尾瀬での自然体験	9:00	稲刈り体験	10:00	朝会（キャンプの森）
13:00	昼食（弁当）		鳩町峠			10:30	火おこし体験
14:00	周辺散策	12:00	昼食（弁当・牛首）	12:00	昼食（各宿）	12:00	昼食（キャンプの森）
16:00	尾瀬高校交流会	14:30	鳩町峠出発	14:00	魚つかみ・さばき体験	14:00	工芸体験
17:30	入浴	16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	16:30	夕方の会
18:30	夕食	17:00	入浴	17:00	入浴	17:30	入浴
19:00	学習の記録	18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	夕食
21:00	消灯	19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	19:30	学習の記録
		21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯
9月29日（金）		9月30日（土）		10月1日（日）			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会		
9:30	収穫体験（各宿）	9:30	武尊牧場自然体験	9:30	勤労体験活動		
12:00	昼食（各宿）	12:00	昼食（弁当）	11:00	昼食（各宿）		
13:00	牧場出発	14:00	焼き物体験	12:00	閉校式		
14:00	リンゴ狩り体験	16:30	夕方の会	12:30	片品村出発		
16:30	夕方の会	17:00	入浴				
17:00	入浴	18:00	夕食	15:30	学校着・帰校式		
18:00	夕食・学習の記録	19:00	感謝の会	15:45	解散		
21:00	消灯	21:00	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールのめあてや出発までに行う調べ学習について、スライドショーをもとに確認した。
- ・尾瀬ヶ原や片品村の自然や特産品、りんご、魚つかみなどセカンドスクールの活動の中から各々が課題を決め、図書資料やインターネットで情報を得て、事前の調べ学習をした。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成し、事前にそれを民宿へ送付した。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、レクリエーション係の係ごとに、各式の司会、朝会の司会、部屋の整理整頓表などを考え、準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・学校文集「ぶさんの子」で、セカンドスクールの思い出について作文を書いた。
- ・セカンドスクール報告会を学級および学年で行い、学んだことについて発表をし共有した。また、国語の「明日につなげる」と関連付け、提案書をグループごとに書き上げ、発表をした。
- ・3学期には、4年生に向けてセカンドスクール報告会を行う。自分たちが体験したことや学んだことを伝えるとともに、4年生へセカンドスクールの意欲付けを行う。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 尾瀬ハイキング

2日目の尾瀬ハイキングでは、尾瀬高校の高校生が班に3～4名付き、ハイキングを行った。山の歩き方のマナーや、尾瀬の歴史、植物の名前や由来、水中の生物、どのように尾瀬の自然を守っているのかなどのお話をしていただいた。尾瀬ヶ原の周りの山の名前や標高の覚え方を教えてもらったり、クイズをしながら覚えたりしようとしている班もあった。時折、足を止めて植物に関する高校生の話を一生懸命聞いたり、質問したりして充実した尾瀬ハイキングを行うことができた。

2 武尊牧場自然体験

6日目に武尊牧場でハイキングを行った。2班に1名のガイドの方がつき、牧場内を案内していただいた。尾瀬で見た植物と色違いの植物、ケムリダケや、ヤドリギの木、白樺など武尊牧場にある植物についてくわしく学ぶことができた。また、片品村の自然について児童が質問をしても、丁寧に教えてくださるので、積極的に学ぶことができた。



【武尊牧場で話を聞く児童】

<社会体験活動>

1 収穫体験

リンゴ収穫体験を行った。「つがる」という種類のリンゴをもぎ、その場で丸かじりした。事前にリンゴのもぎ方、おいしいリンゴの見分け方などを教えてもらってから収穫した。児童は「おいしくてみずみずしい。」「ジュースを食べているみたい。」と嬉しそうに食べていた。リンゴが赤くなる理由や、おいしいリンゴの見分け方などについて学ぶことができた。

5日目の午前には、各宿でじゃがいも、小豆、かぼちゃなどの野菜の収穫体験を行った。収穫した野菜が昼食で出されたので、どの児童もたくさん食べていた。苦手な野菜であっても、残さずおいしく食べる児童が多かった。

2 火おこし体験

4日目は雨のため、河原でのかまど作りができず、急きよ、屋根のあるキャンプ場で火おこし体験を行った。マッチ5本と新聞紙1枚、拾っておいた杉の葉や細い枝、薪で火おこしをした。小さな火を大きくするために薪の組み方を試行錯誤しながら取り組み、すべての班が火を起こせた。その火ですいとんを温め、昼食としていただいた。小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり温めたりすることができることを実感していた。



【稲刈りの様子】

3 稲刈り体験

3日目、稲刈りを行った。最初に、稲刈りのポイントを学び、鎌の扱い方を知ってから稲刈りを行った。児童一人一人が稲を刈り、10束ずつひもできつく結んだ。きつく結ぶのは、はざかけをしたときに稲が落ちないためだと知り、児童は農家の方の工夫を垣間見ることができた。また、稲刈りをした後の落ちていた稲穂もきれいに拾い、束にまとめることができた。

最後に、米作りについて農家の人に質問をし、苦労や工夫、この地域で育てられている米の種類についても学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 魚つかみ・さばき体験

魚つかみでは、川に放流されたニジマスを手でつかみとり、腹をさばいてはらわたを除き、焼いて食べる体験をした。まだ動いている魚を前に、苦戦しながらつかまえたり、腹にはさみを入れてさばいたりすることを行った。手が震えたり涙を流したりする児童の姿もあった。講師の先生や友達に助けをもらいながら、全員がさばくことができた。

普段は、魚をなかなか食べない児童も自分でさばいた魚をすべてきれいに食べていた。生きていた魚の命を人間はいただいているということを実際に目の当たりにし、食べ物を大切にすること、感謝の気持ちをもつことを体感することができた。



【魚をさばく児童】

2 勤労奉仕体験

最終日、お世話になった宿の方々に対して感謝の気持ちを込めて活動をした。お風呂や玄関の掃除をしたり、ごみ出しの手伝いをしたりした。「ありがとう」と言葉に表す以外にも、感謝の気持ちを表すためには相手のことを考えて活動するとよいことを学ぶことができた。

3 工芸体験

宿舎周辺の散策を行い、片品村の自然を堪能しながら、武蔵野市との違いを感じていた。花や葉を見付け、宿に持ち帰り、押し花にした。植物を紙やスポンジで挟んだ物を、さらに陶器に挟み、熱を加えて乾燥させた。デザインを楽しみながら、はがきサイズの画用紙の上に並べ、特製の和紙を載せ、アイロンで熱を加えることで作品が完成した。繊細な工芸体験は貴重な体験となった。

○児童の感想

- ・尾瀬ヶ原や武尊牧場では、吉祥寺では見ることができない自然の美しさ、空気のきれいさに感動し、自然の偉大さや大切さに改めて気付くことができた。
- ・友達と7日間、一緒に活動をしたり、生活をしたりする中で、自分の思いが通らなかつたり相手の思いに感心したりする中で、新たな信頼関係を築き、絆を深めることができた。
- ・魚つかみ・さばき体験では、ニジマス命を奪うことで、心苦しい気持ちになった人が多かった。現実と向き合い、命をいただいて自分たちが生きていることを理解し、食べ物の大切さに気付くことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールでの体験を通して、ファーストスクールでは味わえない自然や人と触れ合い、環境保全の必要性や自然に対する畏敬の念を抱くことができた。また、長期間の宿泊により、自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けたり、友達と協力したり、譲り合ったりすることの大切さを学ぶことができた。

総合的な学習の時間はもとより、社会科の学習では農家の方の工夫や苦勞、これからの食料生産について学び、国語の学習では、片品村と武蔵野市を比べ問題点を挙げて提案書を作成するなどの学習に取り組み、広く関連付けながら計画的に学習に臨むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・野菜の収穫体験では、自分たちが収穫したものを料理して食べさせていただくことができ、地産地消のよさや新鮮な野菜の味を堪能することができた。
- ・感謝の会では、リハーサルを行い教員が細かくアドバイスをすることで、宿の方への感謝の気持ちが伝わりやすく充実したものにする事ができた。
- ・児童の生活の様子をしっかりと把握するために、各宿を本部宿の近くにしたい。

第四小学校

長野県 飯山市

6月1日～6月7日(6泊7日)

参加人数 男子24名 女子28名
計 52名

○セカンドスクールのねらい

- ・豊かな情操や感性をはぐくむ。
- ・知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- ・生活の自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。
- ・学んだことや体験したことを学校に戻ってからの学習や生活に活かす。
- ・ふるさと武蔵野市や自然を愛する子どもに育てる。

○日程表

6月1日(木)		6月2日(金)		6月3日(土)		6月4日(日)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食	9:00	田植え体験	9:00	とん平ハイキング	9:00	ブナ林観察
13:30	戸狩到着・開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:00	飯山について	13:30	雪国のくらし	15:00	手すき和紙体験	13:30	料理名人に学ぶ
15:00	はし作り	15:00	遊び名人に学ぶ	16:30	手紙書き		
17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
	語らいの時間	19:30	星空観察		語らいの時間		語らいの時間
	今日の収穫		語らいの時間		今日の収穫		今日の収穫
			今日の収穫				
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

6月5日（月）		6月6日（火）		6月7日（水）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	飯山市内見学	9:00	焼き板作り	8:00	荷物整理
12:00	昼食		笹ずし作り		部屋掃除
13:30	わらざうり作り	12:00	昼食	9:30	閉校式
16:30	健康観察	13:00	里山の暮らし体験	10:00	戸狩出発
17:30	夕食	14:00	セカンドスクールのまとめ	12:00	昼食
19:00	キャンプファイヤー	16:00	宿の方への手紙	15:00	学校到着・到着式
20:30	入浴	17:00	健康観察	15:30	解散
	語らいの時間	17:30	入浴		
	今日の収穫		お別れ夕食会		
		19:00	感謝の交流会		
			今日の収穫		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・本やインターネットで調べ学習をして、目的地である飯山についてイメージをふくらませる。
- ・興味のあるテーマを選択し、新聞にまとめ、発表し合う。
- ・セカンドスクール全体を通しての課題を作る。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの体験や課題についての学びを新聞にまとめ、発表する。
- ・お世話になった方々をお招きし、飯山で学んだことと感謝の気持ちを伝える交流会を企画、運営する。
- ・総合的な学習の時間や社会科の学習と関連させ、新たな課題について調べ学習を行う。
- ・4年生が有意義なセカンドスクールを実施できるよう、自分たちの経験からのアドバイスやイメージづくりのヒントになるようにセカンドスクール発表会を行う。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 とん平ハイキング

とん平高原のハイキングを通して、都会では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむ活動プログラムである。各宿の方々から飯山で見られる植物や生き物の説明をしていただき、児童は都会との環境の違いに驚いた様子であった。草遊びも教えていただき、夢中になって遊

んでいる場面もあった。途中のリフト乗り場では飯山市内を一望し、人々が昔から守り抜いてきた里山について話を聞くことができた。とん平の頂上では、東京では見られない盆地の様子を一望できた。山と川が長い年月をかけて創り出した地形の美しさに、児童も感動していた様子だった。

2 ブナ林観察

標高の高い地域で見られる「ブナ林」について理解を深めていくための体験活動である。宿の方から、ブナの木が果たす役割や伐採の歴史など詳しく説明していただいた後、雪の残る美幻想的なブナの森を歩き自然に親しんだ。水を集めるためにできる根開きを見たり、以前ブナを「木では無い」といってたくさん伐採してしまったりしたという話は、特に児童の印象に残ったようで、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。

<社会体験活動>

1 田植え体験

体験前に宿の方々からおいしい米を作るには冷たい水やよい土作りが必要であること、また天候によって水の量を変化させるなど毎日の世話が重要であることなどを教えていただいた。田植え体験では、初めは土の感触に驚き、声を上げたり、入ることに抵抗をみせたりする児童もいたが、しばらくすると「楽しい」「土が気持ちいい」と夢中で活動に取り組む姿が見られた。一つ一つの苗を一つずつ揃えて植えることや、意外と時間がかかったことから、活動の楽しさを感じながらも「おいしい米を作るためにこのような努力があったんだ」と感じ取った児童が多くいた。飯山の棚田の様子も、その下に大きく広がる信濃平の田んぼの様子も見ることができ、帰京後、社会科の農業の学習への理解も深まった。

2 手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが盛んに行われていた。地域に伝わる伝統工芸に触れ、学んでほしいと考え、飯山市内でも数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行った。飯山和紙を折って染料で染める活動をするクラスと、実際に手すきで和紙を作るクラスに分かれて学習を行った。職人さんの和紙に対するこだわりがその場の雰囲気に出てきており、児童も緊張感をもって集中して作業をしていた。一つ一つのこだわりが伝統工芸を作り上げているということに対して、児童も理解を深めた様子であった。

<生活・文化体験活動>

1 はし作り

飯山市戸狩で宿の方々から歓迎を受けた開校式の後、児童が現地で初めて行う体験活動が「はし作り」である。セカンドスクール滞在中、毎日の食事で使用する箸なので、児童もよい箸を作ろうと真剣に竹を削っている姿が印象



【少しずつ小刀の使い方に慣れる(はし作り)】

的であった。小刀を使うことが初めてで、難しさを感じ、作業を思うように進まない児童もいたが、宿の方々に教えていただきながら、全員が箸を完成させた。宿の方々に遠慮がちであった児童も、徐々に打ち解けていった様子であった。

2 わらぞうり作り

雪国の暮らしの中では必需品であった「わらぞうり」を、手作業で作りに上げる体験活動である。わらぞうり一つを作り上げるために多くの時間を費やすことを感じ取ってもらいたいと考え、この体験活動を取り入れている。宿の方々から事前講習を行った指導員の先生方からアドバイスをいただきながら、児童は2時間以上座ったままわらぞうり作りに取り組んだ。根気のいる作業であった分、完成したときの喜びも大きかったようで、自分で作ったわらぞうりを履いて感触を確かめながら何度も地面を踏んでいた。



【昔の人の苦労話を聞く(わらぞうり作り)】

○児童の感想

- ・私がセカンドスクールで学んだことは、「努力して作り上げることの大切さ」です。特に心に残っているのはわらぞうり作りです。少しずつあみあげていき、最後には世界に一つだけの自分のわらぞうりができました。もちろん苦労もありますが、努力することでうれしさを得ることができます。
- ・私はこのセカンドスクールで動物や植物について覚えきれないほど学びました。その中で、私がすごいなあと思ったのは、農業（田植え）です。一つ一つ手作業でやっていくのは大変でした。でも、あとでどんどん早くできるようになって楽しくなりました。
- ・自由時間にはささ舟を作ったり、四つ葉のクローバーを探したり、自然を見たり都会ではできないことをやり、とても楽しかったです。お父さんはたくさん自然のことを教えてくれました。お母さんは料理を覚えてくれただけでなく、何でも相談にのってくれました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

本校では、セカンドスクールを第5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から2学期まで、今年度は51時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名（・は主な内容）
1学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』4月～6月（全40時間） 「飯山ってどんなところ？」 ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習のテーマを選択し、インターネットを活用した調べ学習を行う。 ・調べ学習でまとめたことを、1冊の冊子にまとめ、情報交換を行う。

	<p>「セカンドスクール」 6月上旬（27時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地での体験による課題の追求 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見
	<p>「セカンドスクールをまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習や現地で学んだことを新聞や報告書で表現する。
2学期	<p>『飯山からの贈り物①』 10月～11月（11時間）</p> <p>「セカンドスクールを伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクールを振り返り、新たな課題を話し合う。 ・新たな課題について調べ、まとめる。 <p>「セカンドスクール学習発表会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表したい体験活動を考え、グループごとに発表の内容や方法、発表の流れ、役割分担などを話し合い、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 <p>「セカンドスクール交流会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿の方たちへの感謝の気持ちを伝える。
3学期	<p>『飯山からの贈り物②』（全12時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクール見つけた新たな課題である環境についての調べ学習 <p>「総合の学習のまとめをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクールを中心とした1年間の総合まとめ ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事前に、現地の方との打ち合わせを十分に行うことができたため、どの体験でも今後の学習につながる貴重な話をたくさんしていただき、児童の理解が深まった。
- ・飯山の自然に親しみ、宿の方々の温かさに触れ、武蔵野市ではできない体験をすることができた。
- ・飯山市内見学だが、飯山の歴史や産業についての学習をもっと効果的に行うためにも、予習を効果的に行ったり、児童の実態に合わせた解説をお願いしていく。

第五小学校

新潟県 南魚沼市

9月14日～9月20日(6泊7日)

参加人数 男子 26名 女子 27名
計 53名

○セカンドスクールのねらい

- ・自ら進んで活動したり学習したりしようとする態度を養う。
- ・自然と触れ合ったり、体験したりすることを通じて、自然の大切さを学ぶ。
- ・家庭を離れ、自分の力でできることを増やしたり、感謝の気持ちを伝えたりする中で、心の成長を図る。
- ・長期にわたる集団生活を通じて、一人一人の良さを認め合い、協力し合うことの大切さを学ぶ。
- ・日本の文化や歴史に触れ、日本の良さを引き継ぎ、伝えていこうとする心情を養う。
- ・食料生産や地域の食文化を理解し、郷土への関心を深めるようにする。

○日程表

9月14日(木)		9月15日(金)		9月16日(土)		9月17日(日)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:30	バス出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	八海山到着	9:00	坂戸山登山	9:30	農業体験 稲刈り・はざ掛け	9:00	自然観察(六日町)
12:00	昼食	11:30	昼食	12:00	民宿帰着・昼食	11:00	民宿帰着 ぬか釜炊爨
13:00	八海山ロープウェイ	13:30	下山	13:30	民宿出発	14:30	郷土食(ちまき)作り
14:30	開校式	14:30	農業施設見学	14:00	雲洞庵到着 座禅体験		
15:00	各民宿へ(付近散策)	16:30	民宿帰着	16:00	民宿帰着	16:30	洗濯・入浴
16:30	入浴	17:00	洗濯・入浴		洗濯・入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ
20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

9月18日(月)		9月19日(火)		9月20日(水)	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:30	交流会練習 (民宿)	9:30	五十沢小学校との交流	9:30	学習発表会 (バレーボールアカデミー)
12:00	民宿帰着・昼食	12:30	昼食(給食)	11:00	荷物の整理
13:30	いたけパルクセンター見学	13:30	五十沢小学校出発	12:00	昼食(宿食)
16:00	民宿帰着 洗濯・入浴	15:30	民宿ごとの活動 夕食、感謝の会	13:00	閉校式
18:00	夕食			13:30	バス出発
19:00	学習のまとめ	19:00	入浴	16:30	学校着
				16:40	帰校式
20:30	健康観察	20:30	健康観察		解散
21:30	消灯	21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・テーマごとの調べ学習

班ごとに「米作り」、「新潟県の郷土料理」、「六日町の自然と地形」、「雪国の暮らし」、「植物と日本文化」の5つのテーマを設定し、担当のテーマについて調べた。さらに、調べた内容を交流し、他の領域を調べている友達と情報を共有した。

2 事後の学習内容

- ・事前の学習に加え、現地で学習した内容を付け加え、まずは、個人のテーマをリーフレットにまとめた。その後テーマごとに集まり、4年生にどのような内容を伝えればいいのか情報を精選し、パワーポイントを用いてまとめた。
- ・お世話になった六日町の方々を迎えて交流会を開き、感謝の気持ちを伝えた後、自分たちで刈った稲を精米して米を炊いておにぎりパーティーを開いた。
- ・4、5、6年生と六日町の方々との合同交流会を実施した。セカンドスクールで学んだことを4、6年生や六日町の方々、保護者に向けてプレゼンテーションをしたり、合唱や演奏の披露をしたりして六日町の方との交流を楽しんだ。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

初日に、ロープウェイに乗り八海山展望台まで登った。霧で絶景とはいかなかったが、新潟の気候を肌で感じるとともに、一週間過ごす南魚沼の地形を確認することができた。

2 坂戸山登山

スズメバチに対する安全面を考慮して尾根登山道コースで登山を行った。天候は曇りで涼しく、懸念されていた飲料水の不足も問題なく快適な登山ができた。また、1グループに1名ずつのガイドが付き、東京では見ることのできない植物を教えてもらうなど自然観察を行った。



【坂戸山登山】

3 ブナ林とキノコ

台風の影響もあり、上野原高原での自然観察を行った。雨だからこそ見られる植物に出会うことができ、植物への関心を高めた。また、東京の植物、自然環境との違いを通して、自然環境について考えるきっかけになった。

<学習体験活動>

1 農業体験(稲刈り・はざかけ体験)

民宿の方々や、講師の方々による指導のもと、一人一人が鎌を使って稲刈りを体験した。中腰になって行う作業を1時間以上にわたり続けることで、農作業の厳しさや苦勞を知るとともに、技術の進歩によるコンバインでの稲刈りが、生産力を上げる上で大きく貢献していることを理解することができた。事前指導で、農家の方から稲を育てる手間や苦勞を聞いた子どもたちは、刈った稲を束ねるとき、1本の落ち穂も出さないように丁寧に作業することができた。



【稲刈り体験】

2 カントリーエレベーターおよび精米所の見学

社会科で学習したカントリーエレベーターを実際に見学し、その大きさと迫力を改めて感じることができた。また、科学技術の力で、トラックに米を積んだまま米の重量が測れるシステムや、モミが付いた稲が、短時間で精米されていく様子を興味深く見学した。当日は、刈り取った稲を積んだ軽トラックが次々と訪れ、このカントリーエレベーターがこの近辺一帯の農業の中心として大事な役割を担っていることが実感できた。

<生活体験活動>

1 郷土食作り

民宿の方やインストラクターの方の指導のもと、ちまき作りやそば打ち、まいたけご飯づくり、もちつきなど日常生活ではできない体験ができた。特に、ちまき作りは、きな粉をつけて食べるという食べ方は児童にとって親しみのあるものではないが、実際に作ることで、郷土の味に親しむことができた。また、ぬか釜炊爨では、もみ殻やわらなど稲刈りから精米の過程で出たものを余すところなく燃料に利用していることに気づき、昔ながらの伝統の素晴らしさを感じることができた。

2 民宿での生活

自ら考えて、動くという意味の「考動」を学年のテーマとして、家庭を離れ、洗濯や布団たたみ等慣れない活動にも取り組んだ。初日は苦戦している様子が見られたが、指導員や民宿の方の協力のもと、最終日には各自でできるようになっている様子が見られた。また、友達と1週間寝食を共にすることで、お互いの知らなかった一面を発見したり、時にはぶつかり合いながら、次第に友情を深めていったりする姿が見られた。最終日前日には、毎日おいしいご飯を作ってくれたり、温かい言葉をかけたりしてくれたお父さん、お母さんに感謝の気持ちを「感謝の会」を通して表現した。

<文化体験活動>

1 雲洞庵での座禅体験

1300年の歴史を感じる雲洞庵の建物や庭園の雰囲気、子どもたちは「日本の伝統」を肌で感じ取った様子だった。座禅体験では「自然の音はこんな音だったのか。」と感想をもっていた。携帯電話やインターネットなどからたくさんの情報や音が入ってくる現代に生きる子どもだからこそ、座禅体験の時間はとても有意義なものと感じた。



【雲洞庵】

2 句会

毎日の学習のまとめの時間に、その日見た六日町の風景や、体験したことをもとに俳句を一句ずつ作る活動をした。毎日の夜の学習会で、みんなで作った句を披露しあい、みんなが一番良いと感じた「本日の特選句」を選び、その中からさらにより優れた句を最後の思い出の会で全体に披露した。

○児童の感想

- ・坂戸山登山では、友達と声を掛け合いながら、最後まで協力して登ることができた。頂上に着いた時の達成感、お弁当の味は格別でした。
- ・カントリーエレベーターでは、お米の質を保つために、多くの工夫や努力に気付くことができました。
- ・稲刈り体験は、実際に経験することで苦労が分かり、普段お米を一粒残さず食べなさいと言われて

- ることの意味を理解しました。今後、しっかりと生産者の思いを噛みしめて食べていきたいです。
- ・郷土食のちまきづくりでは、中華ちまきを想像していたが、きな粉をつけて食べる食べ方を初めてしました。やはり、写真や文章での創造ではなく、実際に食べて感じることができ、兄弟にこの郷土の味を伝えたいと思いました。
 - ・友達と1週間過ごすのは、最初は不安だったけれど、協力することで乗り越えることができた。この経験を生かして、学習発表会や連合音楽会に学年力を合わせて臨んでいきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールを通して、学年テーマでもある自ら考えて動く「考動」を意識して生活することができた。挨拶や人の話を聞く態度、公共の施設でのマナーなど児童同士で声を掛け合いながら取り組む姿が見られた。セカンドスクールのみならず、ファーストスクールにおいての最高学年になる心構えとして継続を期待したい。

宿での生活では、お父さん、お母さんから温かい言葉をかけられ、最終日が近づくにつれ、涙する児童が多くいた。そこから、感謝の気持ちを伝えるため、感謝の会や最後の掃除に力を入れ精一杯の感謝の気持ちを伝えた。また、共同生活の中で交友関係が広がったり、より深まったりしたことで、仲間意識が高まった。このような経験の中で、学習や生活を支えてくださる方に感謝する気持ちをもつことができるようになった。思いやりや温かい人間関係がもたらす心地よさに気付くことで、今後のファーストスクールでの人間関係にも良い影響をもたらすことが期待される。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

前半に、体力がいる活動を多く取り入れたことで、児童の負担や安全面のリスクを抑えることができた。そのため、後半の自然観察、施設見学にも集中を切らさずに取り組むことができた。来年度にも、この成果を伝えていく。

稲刈りをする前に、カントリーエレベーターの見学となった。社会科で学習しているとはいえ、稲刈りをした稲がカントリーエレベーターへ運ばれるという過程を実際にプログラム化する必要があった。

大野田小学校

長野県 飯山市

9月28日～10月4日(6泊7日)

参加人数 男子 59名 女子 56名
計 115名

○セカンドスクールのねらい

- ・飯山市の自然、文化、産業について興味関心を持ち、課題を見付けずすんで調べようとする態度を養う。
- ・人とよりよく関わったり自らずすんで取り組もうとしたりする意欲や実践力を育てる。
- ・課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。
- ・課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択し、課題追究を通して、最後までやり抜く達成感や充実感を味わうことができるようにする。
- ・自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力や、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

○日程表

9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)		10月1日(日)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
		7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
7:55	学校出発	8:50	トレッキング	8:50	課題学習①	8:50	課題学習②
9:00	高坂SA	11:50	昼食	12:30	昼食	12:30	昼食
10:30	佐久平PA	13:50	民宿到着	13:30	農業体験	14:00	自然体験
11:45	小布施SA 昼食	14:00	入浴		稲刈り、脱穀		川と親しむ
13:20	戸狩着、開校式	15:00	学習のまとめ	15:30	はがき書き	15:30	学習のまとめ
15:00	はしづくり	18:00	夕食		お礼の会準備	17:00	バーベキュー
18:00	夕食	19:00	今日のまとめ	17:00	入浴	19:00	入浴
19:00	今日のまとめ	21:00	消灯	18:00	夕食	19:30	今日のまとめ
21:00	消灯			19:00	今日のまとめ	20:45	星空観察
				21:00	消灯	21:00	消灯

10月2日(月)		10月3日(火)		10月4日(水)	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:50	課題学習③	9:00	宿別プログラム②	8:00	荷物整理、大掃除
12:30	昼食		郷土料理体験	9:00	学習のまとめ
13:30	宿別プログラム①	12:00	昼食	10:20	閉校式
	宿別農業体験	13:00	宿別プログラム③	10:35	戸狩出発
16:00	学習のまとめ		クラフト体験	12:20	横川SA 昼食
	宿での活動	15:30	お礼の会準備	14:20	高坂SA
17:00	入浴	17:00	入浴	15:45	学校着、帰校式
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	解散
19:00	今日のまとめ	18:30	お礼の会		
21:00	消灯	19:30	今日のまとめ		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の「地形や気候に特色ある地域の学習」と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用して、長野県飯山市戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。日本一長い千曲川の中間地点に位置し、豊かな水を生かして生活をしていることや、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることを知り、これらの特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・長野県飯山市の自然や伝統や文化、産業について本やパンフレット、副読本、インターネットで調べ、疑問に思ったことやもっと知りたいと思うことを見付け、個人のテーマを設定し、課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・「戸狩の観光大使になろう」というめあてをもち、セカンドスクールで「戸狩のよさ」を見付け、セカンドスクール後に4年生や戸狩の方に向けてプレゼンテーションソフトを使って「戸狩のよさ」を伝えるという見通しをもたせる学習を行った。
- ・班長や生活、入浴等の係ごとに分かれてセカンドスクールに向けての準備を進めた。事前に協力する場面を設定し、セカンドスクールで行う「友達のよさ」を見付ける活動につなげた。

2 事後の学習内容

- ・個人のテーマについて調べたことをまとめ、互いが調べたことや考えたことを報告し合った。
- ・セカンドスクールで学んだことを整理し、報告会ができるようにプレゼンテーションソフトでスライドを作成した。
- ・スライドを用いて、戸狩の民宿の方々と4年生、保護者に向けて報告会を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

2日目に民宿の方と共にとん平トレッキングを行った。日常生活では経験しない険しく長い道のりの中で、自然と声を掛け合い励まし合う姿が見られた。下山後には、達成感を味わうだけでなく、仲が深まったり新たな人間関係ができたりしていた。山頂から戸狩全体を見渡し、戸狩の地形や土地利用などを俯瞰することができた。山々の緑、田んぼなど、自然の美しさや豊かさを感じることもできた。



【トレッキングの様子】

6泊7日という長い宿泊行事に取り組むために、チームで協力し合うことを目的としたトレッキングを2日目に設定したことは効果的であった。このことは、子どもたち自身も感じており、まとめのプリントに友達の高さやチームワークの向上について書いていた。

2 川での自然体験

自然公園の小川に入り、川の生き物観察を行った。川の水の冷たさを肌で感じたり、生き物を夢中に探したりする姿が見られた。活動後は自然と触れ合っただけで感じたことを俳句にしたり、自然の豊かさを振り返りに書いたりする子どもたちが多かった。生き物や自然に関心をもつことができた。

<学習体験活動>

1 農業体験（稲刈り・脱穀）

秋にセカンドスクールを実施することができたため、農業体験として稲刈りと脱穀を行った。課題学習「稲作について」の学習では、コンバインなどの機械を使ったり、カントリーエレベーターに大量の米が運ばれたりしていることと比較し、機械を使わずに広い田の稲を鎌で刈っていく大変さを感じていた。脱穀は、千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないよう拾った。農家の人が熱い思いをもって米を育てていることを学ぶことができた。



【稲刈りをしている様子】

2 課題学習

「稲作に関すること」「川と森に関すること」「雪国の暮らし」の3つの課題について、学級ごとに分かれて見学を行った。3つの課題をすべて学習することで、雪、川と森、稲作が深い関係をもっていることや、人々が自然などの地域の特色を生かして生活していることに気付くことができた。「稲作に関すること」は、ちょうど収穫の時期なので、コンバインが作業している様子やカントリーエレベーターが稼働している様子を見ることができ、学習を深めることができた。「川と森に関すること」は、まず茶屋池周遊ハイキングを行い、ブナの特徴や水源林に

についての説明を受けた。実際にブナに触れながら、豊富な水を蓄えるブナ林が自然環境の中で果たす役割について体感し、学ぶことができた。「雪国の暮らし」は、宿や飯山駅周辺を散策して、豪雪地帯での暮らしや雪の対策を具体的に学んだ。ふるさと館の見学を通して、歴史的な視点で調べることもできた。

3 今日のまとめ

毎晩、「今日のまとめ」の時間を設定した。各自「今日のまとめ」の時間までに活動を振り返り、「自分のテーマについて」「戸狩や友達のよさ」「明日の自分、明日のわたしたち」の3つの項目について記述した。その日の体験をもとに「自分のテーマについて」考えることで、事前学習での学習を深め、事後学習での報告会に向けて意識を高めることができた。「友達のよさ」の発表を通して、子ども同士の結束を高め、相手を理解したり協力したりしようとする姿勢が見られるなどの成長があった。「明日の自分、明日のわたしたち」では、自分たちの生活をよりよくするためにはどうしたらよいか真剣に話し合い、日々の自分たちの成長を確かめ合い、さらに次の目標に取り組もうとする姿勢が身に付いてきた。

<生活体験活動>

1 郷土料理体験

長野県飯山市の郷土料理である笹ずしなどを作った。笹ずしの起源や地域ごとに笹ずしが工夫されて食べられていることについて説明を受けてから、調理を行った。家庭科で学んだ包丁の使い方を活用したり、自分たちで作った料理を食べ、食への興味を高めることができた。

2 クラフト体験（藁を使ったリース作り）

慣れない作業に、初めは戸惑う姿も見られたが、宿の方が丁寧に教えてくださったので、全員が完成させることができた。編むときに、2人組で協力して作業したり、三つ編みが得意な子が他の子に教えたりする姿も見られた。宿での友達との仲がさらに深まる活動であった。



【完成したリース】

3 民宿での宿泊

9つの班に分かれ、各民宿に分泊した。1週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに取り組み、自立した生活態度が見られるようになった。また、友達と協力する場面も多く、自分の言葉で相手に伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを感じることができた。さらに、宿の方との温かい触れ合いを通して、宿の方への感謝の気持ちを強くもつことができ、心を込めた「お礼の会」を実践することができた。

○児童の感想

- ・豊かな自然があり、東京にはない動植物が見られた。ブナの森と千曲川が深く関わっていて戸狩には豊かな水があることが分かった。自然を大切にする戸狩の人々の思いを学んだ。
- ・家の造りや雪を除雪する機械、雪から町を守る工夫について、現地の方から話を聞いたり、実際に見たりすることでより詳しく知ることができた。豪雪地帯である戸狩は、東京の生活と比べ大変さもあるが、雪解け水を利用しておいしい米を作ったり、雪を生かした観光を行ったりするなど、自然を生かして生活していることが分かった。
- ・友達と声をかけ合うこと、相手を認めること、相手の気持ちを考えることが大事だ。セカンドスクールを通して、「協力」や「思いやり」の大切さを学んだ。

○ファーストスクールの教育活動との関連

「戸狩の観光大使になろう」というめあてで戸狩のよさをたくさん学んできた。他の学習で、「戸狩でもそうだったように」や「セカンドでの体験と比べると」など、日本のよさや特徴を考えるときに、比較対象として学習したことを生かしたり、自分の意見の根拠としたりする場面に生かすことができた。

現地では、宿ごとの学びの時間に、学んだことを伝え合ったり、グループのめあてや行動の仕方について話し合ったりする活動を設けた。セカンドスクール後は、話し合いの際に相手の考えをしっかりと聞き、友達の意見につなげて話をする力に大きな高まりが見られた。発言が苦手な児童の中には、グループでの話し合いをきっかけに、自分の考えを発表しようとする意欲が見られる児童もいた。また、男女関係なく認め合ったり、より具体的に友達のよいところ見付けたりすることができるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・活動前、活動中に大事なポイントや見る視点を与えた。グループでの活動の際には、協力できるよう声かけをした。そのことで、児童同士の関わり合いが多く、人間関係が深まったり、協力しようとする意識や自立しようとする態度が見られたりした。
- ・座禅体験、奉仕活動を入れた雨天プログラムを考えた。今年は天候に恵まれ、実施しなかったが、活動の選択肢が増えた。また次年度はオリンピック、パラリンピック教育として、カヌー体験を活動として追加する。実施内容や安全面など、実施に向け相談していく必要がある。
- ・来年学級数が増え4クラスになるので、どのような形で分宿したり、課題学習を行ったりするかを検討する必要がある。宿の数はそのまま、実態に応じて、児童の割り振りを考えていく。
- ・本部での打ち合わせ時に、指導員1名を参加させ、各指導員への連絡内容をメール配信させた。指導員同士の連絡方法として有効であった。
- ・指導員がぎりぎりまで決まらず、実施直前で来られなくなった指導員もいた。事前打ち合わせで揃わず、共通認識を取ることが難しかったので、次年度は指導員を早めに決め、共通認識をしっかりとらせた形で、実施当日に臨めるようにする。

境南小学校

長野県飯山市

9月20日～9月26日(6泊7日)

参加人数 男子39名 女子38名
計77名

○セカンドスクールのねらい

- ①自分の健康及び生活をしっかり管理し、充実した生活体験をする。
- ・身の回りの整理整頓や生活していく上での仕事（掃除・洗濯など）をできるようにし、生活に必要な知識・技能を身に付ける。
 - ・3食きちんと食べ、好き嫌いを減らし、生活のリズムをつくる。
- ②豊かな自然体験をする。
- ・ぶな林散策やとんだいらハイキングなどを通して、豊かな自然を五感を通して味わう。
 - ・活動の合間の時間を使って民宿周辺でしっかりと遊び、植物や生き物と触れ合うことで知的好奇心や探究心を育てる。
- ③友達や飯山の方々との交流を深め、協力しながら社会体験をする。
- ・農業体験では作業をやり遂げることで、仕事としての農業の苦労や大変さを実感する。
 - ・誰とでも一緒に生活や活動ができる態度を身に付ける。
 - ・民宿の方々の温かさに触れ、自分を振り返り豊かな人間関係を築こうとする態度を培う。

○日程表

9月20日(水)		9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)	
7:45	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校発	6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
11:40	小布施SAにて 休憩・昼食	7:10	朝食	7:10	朝食	7:10	朝食
13:00	開校式	9:00	稲刈り体験(手刈り)	9:00	里山体験	8:30	とんだいらハイキング
13:30	各民宿へ	11:30	餅つき(昼食)	12:00	昼食	11:30	とんだいら着
14:30	箸作り	13:00	稲刈り体験(機械)	13:30	周辺散策	12:00	昼食
15:30	周辺散策	14:30	脱穀作業	14:00	野菜の収穫	14:00	とんだいら発
16:30	夕会	15:30	千曲川見学		たき火体験	15:30	夕会
16:45	入浴	16:30	夕会	16:30	夕会	16:00	入浴
17:00	学習の記録	16:45	入浴・学習の記録	16:45	入浴・学習の記録	17:00	学習の記録
17:45	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
21:00	就寝	17:45	飯山の自然文化の話	19:00	手紙書き	19:30	お別れ会計画
		21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月24日(日)		9月25日(月)		9月26日(火)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
7:10	朝食	7:10	朝食	7:15	朝食
9:00	ブナ林散策	9:00	「涌井」見学	9:15	閉校式
		11:30	伝統食作り	9:30	飯山発
12:40	昼食	12:00	昼食	11:20	昼食
14:00	宿別体験活動			14:40	学校着
16:00	夕会	14:00	民宿大掃除	14:55	帰校式
16:15	入浴・学習の記録	16:00	夕会	15:00	解散
17:00	お別れ会準備	16:15	入浴・学習の記録		
18:00	夕食	17:30	夕食(ハーフキュー)		
19:00	お別れ会リハーサル	19:00	お別れ会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「稲を育てよう」というテーマで、総合的な学習の時間に、実際にバケツに種もみをまき、稲を栽培する体験活動を行った。発芽や分けつの様子など、成長過程が分かるように観察記録をとり、水の管理に気を配って世話をした。夏休みには自宅に持ち帰り、友達と順番に世話をしながら観察を続けた。毎日熱心に観察を続け、成長の様子を喜んでいる姿が見られた。店で売られた状態の米しか目にしたことのない児童が多く、種もみから稲が育つことに驚き、本物の田んぼでの稲刈りを楽しみにするようになった。
- ・「ブナ林」に関連するテーマについて事前学習を行った。現地ガイドの方に来ていただき、ブナ林の自然や役割について教えていただいた。また、夏休み中には、それぞれのグループごとに必修テーマと自由テーマについて調べ、夏休み明けにそれぞれが調べてきたことを発表し、情報を共有した。事前に観察したいものや体験したいことを明確にしておいたことで、児童が意欲的に活動することができた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクール終了後、各自の学習課題に沿い、書籍やインターネットなどを利用して調べ学習を行った。同テーマの児童が集まってグループを作り、パソコンの発表ソフトを使ってスライド資料を作成した。資料作成にあたり、書籍やインターネットなどで調べた情報をそのまま使用するのではなく、セカンドスクールの活動を振り返り、実際に現地で体験したことや聞き取ったことを大切にするように指導した。
- ・セカンドスクールの発表会は、保護者や指導員を招いて学年合同で行った。パソコンを使

用した発表資料は、写真や図、イラストも大きく、伝えたいことをキーワードでまとめられていたため、分かりやすいものになった。保護者からは、各グループが意欲的に調べ、協力して活動した様子が分かること好評だった。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 とんだいらハイキング

宿の方々の案内で、冬はスキー場としてにぎわうとんだいらまでハイキングに出かけた。天気にもまれて日差しが強く、日陰で休憩し、水分をこまめにとった。歩く途中、宿の方からハイキングコースで見られる植物や生き物の話もしていただき、児童は実際に見たり触れたりしながら、飯山の自然を感じる事ができた。

スキー場を途中まで登り、振り返ると反対側には、野沢温泉のスキー場、そして盆地が開け、黄金色に色づいた田んぼが広がり、その中央を千曲川が蛇行して流れている様子を見ることができた。児童は、坂道を歩き続けた疲れも忘れ、景色の美しさに感動し、じっと眺めていた。

とんだいらに到着し、注意事項を確認してから遊び始めた。手打ち野球や鬼遊びをして思い切り体を動かしている児童、斜面を転がったり、すべったりする児童、虫を追いかける児童、草花を集める児童など、それぞれの遊びを楽しんだ。広々とした原っぱでのびのびと過ごすことができ、満足していた。休憩の時間、おやつとして、宿の方々から近くの川で冷やしたキュウリとトマトをいただいた。とれたての野菜をまるごと食べるおいしさに驚き、夢中でかじりつく姿が見られた。

2 ブナ林散策

5日目、バスで鍋倉山まで行き、ブナ林散策を実施した。事前に調べてきたことをもとにしながら、ブナ林の生物や植物の観察を行った。茶屋池からブナ林の中に入れば、枝葉が大きく広がり、少しひんやりとした場所であった。現地では、堆積した腐葉土の上を歩きながら散策を楽しんだ。雑木林の根が張り巡らされ、大雨が降っても少しずつ水を蓄える機能を持ち「緑のダム」と言われる理由、ブナの葉や実の特徴、生き物が共生する様子を実際に観察し、森林の役割を考えることができた。



【ブナ林を散策する児童】

<社会体験活動>

1 農業体験

丸ごと1日農業体験ということで、午前中は稲刈りを、午後は脱穀を行った。田んぼに行く前に、帽子、長ズボンに長袖、軍手、首に巻くタオル、長靴など、服装の確認をした。集

合場所では、宿の方から手順について説明を受けた。ここで手刈りの方法について、手ほどきをしていただいた。特に鎌の扱い方については、危険のないように気を付けることをしっかり確認した。田んぼに移動して、いよいよ稲刈りを開始した。宿ごとにご主人から説明を受け、子どもたちは張り切って田んぼに入って行った。始めはぎこちない動きで、苦勞しながら稲刈りをしていたが、時間の経過とともに鎌の扱いや稲の束ね方も慣れ、みるみる上手になっていった。班の仲間と声をかけ合って熱心に作業をしていた。また、落ち穂拾いをする宿のご主人を見て、一つ一つの稲を大切に育て、大事に扱っていることを知り、一緒に落ち穂拾いをしながら稲を束ねる姿も見られた。はぜかけが終わると、刈った場所に広い空き地が現れ、子どもたちは汗だくだったが、達成感や満足感に満ちあふれていた。民宿の方に、



とコンバインによる刈り取りの様子を見せていただいた。【手刈りを体験する児童】手刈りとは比べものにならない作業スピードに、機械が動き始めると一斉に歓声が上がった。機械での作業を見学したことで、農作業の機械化が生み出した効率性を改めて実感できた。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきは力への入れ具合が難しく、苦勞する子どももいたが、足踏み脱穀機ではリズムをつかみ、熱心に作業していた。こうした活動を通じて、お米が自分たちの食卓に届くまでには農家の方のさまざまな工夫と苦勞があることを再確認するとともに、昔の人々がその時代の技術に応じて知恵をはたらかせて稲作を行ってきたことに感心していた。

<生活体験活動>

1日目、それぞれ宿に着くと、セカンドスクール期間中に自分自身が使う箸を作った。ちょうど良い長さの竹を宿の方にご準備いただき、小刀とやすりをうまく使って、食べやすい細さに削っていった。小刀は普段使い慣れていない児童も多く、安全に十分注意しながら取り組んだ。熱心に取り組む、それぞれ納得いく箸が完成した。

また、6日目には、飯山に古くから伝わる郷土料理「笹寿司」と「おやき」の調理体験をした。笹寿司は、熊笹の葉の上に酢飯をのせ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを盛り付けていた。子どもたちは、昼食としてそれぞれオリジナルの笹寿司を作って食べた。好きなものを選んでのせることができた。

おやきは、小麦粉の皮で切り干し大根やゼンマイなどを包み入れ、蒸し器でふかすというものであった。宿によって中に入れる具材が違っていたり、蒸し器でふかす前にフライパンで焼き目をつけたりするなど、それぞれの方法があった。子どもたちは自分でどのように形を作るかを考えて作っていた。作るのも食べるのも大満足の子どもたちであった。



【笹寿司作りの様子】

○児童の感想

- ・はし作りでは、小刀を使って竹をご飯が食べやすい細さまでけずりました。最初は細くしすぎて、つまようじのようになってしまいました。最初は上手にできるかなと思ったけれど、小刀で削るのは難しいなと思いました。自分が作ったおはしは食べやすくはなかったけれど、セカンドスクールの思い出として、大切にしたいなと思いました。
- ・初めて稲刈りを行ったのでかまの扱いがうまくできませんでした。稲を刈り、結ぶということを何回も繰り返していると、慣れてきましたがどんどん疲れてきました。昔は全部手でやっていたのかと思うと、とても大変だなと思いました。午後には、機械での稲刈りを見学しました。バインダーは自動でひもでしばっていてすごいなと思ったけれど、コンバインはあっという間に稲を刈ることができていて、性能が良くなり、便利になったのだなと実感しました。
- ・飯山は、自然がいっぱいで美しいなと思いました。周辺散策で高いところから見渡すと、田んぼが一面に広がっていて、とても空気がおおいかったです。飯山は、自然が豊かで住みやすいなと思いました。
- ・稲を育てお米をとるだけでなく、わら細工に使ったり、もみ殻で焼き芋をし、その後は肥料としたりするなど、飯山の人は自然のものをむだなく利用していてすごいと思いました。
- ・一週間、友達と共同生活をして、友達とたくさん話しました。今まで以上に友達のことが知れて、仲が深まりました。いろいろなことを教えてくれた宿のお父さんやお母さん、生活指導員さんには、たくさんのことを教えてもらいました。感謝したいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・稲刈り、脱穀（丸ごと1日農業体験）⇒社会科「暮らしを支える食料生産」
- ・ブナ林散策（環境について考える）⇒社会科「人と自然がともに生きる国土」
- ・涌井見学（環境について考える）⇒社会科「わたしたちの生活と森林」
- ・千曲川見学⇒理科「流れる水のはたらき」

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・指導員を5軒の宿に男女2人ずつ確保したことで、児童の生活を細かく丁寧に見ることができ、個別の対応をすることができた。
- ・宿ごとに飯山の自然や文化についての話を聞く活動を行った。学習課題に沿った話になるよう、宿の方々と打ち合わせをし、児童の関心を高めることができた。
- ・食物アレルギーへの対応として、担任と宿の方と打ち合わせをした後、宿の方と保護者に打ち合わせをしていただき、変更点を保護者から連絡していただくことで、事故を未然に防ぐことができた。事故を防ぎ、児童や保護者が安心できるように、今後も十分な打ち合わせが必要になる。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月21日～9月27日(6泊7日)

参加人数 男子27名 女子19名
計46名

○セカンドスクールのねらい

- ・学校で学んだことをもとに、普段の生活ではできない体験を通してより学びを深めたり、広げたりする。
- ・宿舎での生活を通して、友だちと協力し助け合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。
- ・南魚沼の自然や文化・産業にふれ、豊かな人間性を育み、私たちの生活を支えてくれる人の工夫や努力について考える。
- ・現地校との交流を通して、人との付き合い方やコミュニケーション力を学び、高める。

○日程表

9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:00	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
11:30	上の原地区到着	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:00	稲刈り	9:00	わらぞうりづくり	9:30	塩沢宿ウォーク
12:30	開校式	12:00	昼食	12:30	昼食	12:30	昼食
13:30	箸づくり	13:30	大崎小学校交流 (学校紹介・交流)	14:00	しいたけパックセン ター見学	13:30	課題別グループ体験 (調査活動〈米・自然・川・郷土料理・雪国・歴史〉)
14:30	自然観察	16:00	周辺散策	16:00	周辺散策	16:00	周辺散策
16:00	周辺散策	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
19:00	入浴	20:00	民宿の方や友達との 交流	20:00	民宿の方や友達との 交流	20:00	民宿の方や友達との 交流
20:00	民宿の方や友達との 交流	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:00	健康観察・就寝	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯
21:30	消灯						

9月25日(月)		9月26日(火)		9月27日(水)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:00	朝食	7:30	朝食
8:15	大崎小と合流	9:30	カントリーエレベーター見学	8:15	大掃除
10:30	地引網体験	12:00	昼食	9:00	笹団子づくり
11:15	魚調理体験・昼食	13:30	出発	11:30	昼食
14:30	漁港・せり見学	14:00	雲洞庵 座禅体験	12:30	閉校式
19:00	夕食	17:00	入浴	13:00	上の原地区発
19:45	入浴	18:00	バーベキュー	16:30	学校着
21:00	健康観察・就寝	20:00	お別れ会		帰校式
21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝		
		21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別体験学習に向け、南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ関心のあるテーマを決めてグループづくりを行う。グループごとに事前に、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくる。
- ・大崎小学校との交流会で行う発表の練習をする。

2 事後の学習内容

- ・課題別学習のグループごとに体験して調べてきた内容をまとめ、保護者や4年生に紹介する。

○特色ある活動内容

<課題別体験学習>

自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりすることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。

1 米

「米作りがどのように行われているのか」「農家の人の苦労や工夫を知りたい」といった課題をもって活動に臨んだ。

手作業による稲刈りの体験から、実際に農家で行われている機械を使った米作りに興味をもった。刈取りの時期に訪問したのでコンバインが稼働するところを見学し、機械化による効率性を実感していた。また、米作り農家の方に、



【課題別学習（魚沼の米）】

様々な質問をし、答えていただいた。さらに、カントリーエレベーターや精米所見学から、社会の学習で学んだ米作りだけでなく、日本の農業についても深く学ぶ機会となった。

2 郷土料理

「郷土料理にはどのような工夫があるのか」「六日町ではどんな料理の仕方が主流なのか」といった課題をもって活動に臨んだ。

南魚沼に昔から伝わる粃殻を燃料にした「ぬか釜」による炊飯を体験した。米の後に残る粃殻が利用できること、杉の葉を使うと火が付きやすいことなども知った。また、漬け物を実際に作り、ぬか釜で炊いたご飯にのせて食べた。食材を余すことなく使いきること、上手に保管し長期間食べられるようにする等、様々な工夫が郷土料理にはあることを学んだ。さらに、塩につけて食品を保存する雪国の人々の知恵を知ることができた。

3 自然

「六日町にはどのような生き物がいて、どのような植物があるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。

いろいろなカエルを観察して、たくさんの種類を学ぶことができていた。また、生き物の食物連鎖や、ねじれた木があり、それがどうしてねじれたかなど、興味深い話をしてもらった。

「緑のダム」といった森の役割などについても興味をもち、自然や環境について考えるよい機会となった。

4 川

「六日町の川にはどのような栄養があるのか」「川にはどのような生き物がいるの」といった課題をもって活動に臨んだ。

川の源流である「雷電様の水」に行き、水が湧く付近で、サンショウウオを発見した。また、川の水の成分についての話を聞いたり、水の味を調べたりした。普段見られない生き物を見たり、話を聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

5 雪国

1,000 トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに驚いていた。また、民宿の方の話や写真などから、冬の上の原地区の様子や大雪に対しての備えなどについて知ることができた。また、住宅の屋根を丸くしたり、高床式にしたりしている様子を実際見ることで雪国のくらしの工夫を学ぶことができた。

6 歴史

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったかなど、坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら話を聞くことができた。講師の方には、子どもたちの事前の質問に答える形でわかりやすく説明していただいた。また、雲洞庵見学や座禅体験なども、上杉景勝や直江兼続の生涯を知る機会となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、はざかけなど)

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、刈り取った稲を昔ながらの乾燥方法「はざかけ」をした。今では機械を使って短時間で行われていることなどについても話を聞いた。米作りの作業の一端を体験することで米作りの大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけて米を作っているおかげで自分たちが米を食べられることを感じることができた。



【稲刈り体験の様子】

<自然体験活動>

1 上の原地区自然観察

周辺散策で毎日訪れるお松の池周辺の植物や生き物について詳しく学んだ。また、植物がどのように子孫を残すのか、いろいろな植物を例にして詳しく教えてもらった。その他にも触ってはいけない漆等の植物について教えてもらったり、東京では見ることができないオオナメクジを発見したりした。自然環境や自然と共に生きてきた人々の暮らしについても学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理作り(笹団子)

各民宿で、宿の方や地域の方に教わりながら、笹団子作りに取り組んだ。地元の方が講師として来てくださり、交流しながら笹団子作りを行っていた。笹団子作りでは最後は「しばる」作業があった。子どもたちは「しばる」作業に最初悪戦苦闘していたが、次第に慣れ、生き生きとした表情で活動に取り組んでいた。できあがった昔ながらの笹団子をおいしそうに食べていた。



【笹団子づくりの様子】

2 わらぞうりづくり

宿の方、地域の方に教わりながら自分の足の大きさに合うわらぞうりを作った。わらで履き物を作りあげる昔の人の知恵や、左右を同じ大きさに作ることを大変さ等にも気付き、最後まで根気強く作業をしていた。でき上がると、わらぞうりを履き、歩いて感触を確かめていた。

<大崎小学校との交流>

現地の南魚沼市立大崎小学校の5年生と交流を行った。大崎小学校の体育館で互いの学校紹介やグループで交流できる遊び、ドッジボールを行った。両校とも工夫した学校紹介を行った。最初はぎこちなかったものの、少しずつ打ちとけ、最後は楽しく活動していた。

交流2日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行った。昨年できなかった地引網体験が実施でき、短時間ではあったが意欲をもって取り組めた。また、魚調理体験やせりの見学、バスレク等を通して、さらに交流を深めることができた。

○児童の感想

- ・10分前行動をすることにより、時間を効率よく活用できることを学んだ。
- ・大崎小の子と、一緒に学習ができて楽しかった。また会いたい。
- ・みんなで頑張って稲刈りをして、それは少しのお米の量しか収穫できていないことを知り改めて食べ物大切さを知った。
- ・宿のお父さんお母さんとの時間、始めは緊張したけれど、とても楽しかった。また会いたい。
- ・新潟では、東京では見られない様々な自然に出会え、ふだんできないことができてよかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連

「課題別体験学習」では、事前学習において、社会科での「気候を生かした人々の暮らし」や「農業とわたしたちの暮らし」の学習、南魚沼の調べ学習等を通して、調べたい課題を各自設定し、6グループに分かれて学習を進めた。

事後学習では、4年生に課題別学習で学んだことを、模型を作り、実演等工夫して伝えることを通して、理解を深めることができた。

また、現地において行った自然観察は、社会科「わたしたちの生活と環境」等の学習の中でも活用していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・天候に恵まれ、昨年できなかった地引網を体験することができた。東京ではできない貴重な体験をし、漁業に取り組む人々の工夫や努力を学ぶことができた。
- ・1日目の自然観察時、校長と児童1名がスズメバチに刺された。観光協会の方が十分に準備をされていると思うが、危険な箇所や行動について、より適切な指示や案内がされるよう、次年度以降の連携の回り方や打ち合わせについて検討していく。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月21日～9月27日(6泊7日)

参加人数 男子34名 女子27名
計 61名

○セカンドスクールのねらい

- ・体験を通して、自然や文化とふれ合い、自然や文化を大切にしようとする心を育む。
- ・生活する上で必要な知識・技能や基本的生活習慣を身に付け、自立心を養う。
- ・活動を通して、児童の知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培うとともに、思考力・判断力を育てる。
- ・自主的な集団生活や地域の人々との交流を通じて、協力・信頼関係を深めるとともに、他の人への感謝の念を育てる。

○日程表

9月21日(木)		9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	7:00	朝食	6:30	朝会
13:00	八海山ロープウェイ乗車	9:30	稲刈り実習	9:00	坂戸山登山	7:30	朝食
14:30	開校式	12:00	昼食	11:00	昼食	9:00	わら細工作り
14:45	各宿到着	13:30	JAカントリーエレベーター見学			12:00	昼食
15:30	マイはし作り	15:00	各宿にてちまき作り	14:30	各宿での活動	13:00	わら細工作り
17:30	夕食	17:30	夕食	18:00	夕食	17:30	夕食
		18:45	天体観測			18:40	ナイトハイク
20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
20:15	入浴	20:15	入浴	20:10	入浴	20:15	入浴
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月25日(月)		9月26日(火)		9月27日(水)			
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	後山ブナ林トレッキング	9:00	三国川ダム見学	9:30	笹団子作り		
12:00	八色の森公園昼食	11:00	三国川頭首工見学	11:30	昼食		
		11:30	畔地浄水場見学	12:20	各宿お別れ式		
14:00	雲洞庵座禅体験	12:30	昼食	13:00	閉校式		
18:00	夕食	13:30	各宿での活動	13:30	レイホー八海出発		
18:45	感謝の会準備	17:30	夕食	16:30	学校着、到着式		
20:00	健康観察	18:45	感謝の会				
20:15	入浴	20:00	健康観察・入浴				
21:00	就寝	21:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の学習において、米作りのさかんな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えて育て、生長を観察した。自分たちが稲刈りをする稲は、どのように育つのかを体験から学ぶことができた。また、米の種類や料理など、米について自分で立てた課題について調べ学習を行い、興味を広げることができた。
- ・セカンドスクールでの活動や南魚沼市の特徴など、自らが興味をもったことについて調べた。事前に、体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への興味・関心を高め、学習を深められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを基にして、セカンドスクールの発表会を行った。自分が経験したことや事後にインターネットや本を使って深く調べたことを、実際の写真や図を使って分かりやすくプレゼンテーションソフトでまとめた。それを見せながら4年生に発表することで、これまでのセカンドスクールに関する学習のまとめをすることができた。また、南魚沼市から児童が刈った稲の一部を精米して送っていただいた。家庭科の学習で自分たちが関わった米を実際に調理することで、食への喜びとともに、農家の人の苦労や思い、食べ物の大切さを実感することができた。
- ・セカンドスクールでの思い出を作文にまとめたり、宿や観光協会の方々へのお礼の手紙を書いたりした。また、宿の方から葉書や写真をいただいたことで、より感謝の気持ちが深まった。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴（扇状地）や中央を流れる魚野川、流域の水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。

2 天体観測

隣接する天体観測所にて星空観察の学習をした。観測日はあいにく雲が多かったため、星を見ることができなかったが、実際に天体ドームを動かすところを見たり、望遠鏡をのぞいたりすることができた。また、星座早見表の使い方を事前に学習し、滞在中に各宿で星空を観察する際に活用し、天体について理解を深めた。

3 坂戸山登山

現地の登山ガイドの方と一緒に、坂戸山登山を行った。各宿（児童12人程度）に1人ガイドが付くことで、山登りの方法だけでなく、登山途中で見られる草花、きのこなどの説明も聞くことができ、自然を観察しながら登山することができた。疲れた友達には励ましの言葉をかけるなど、メンバーみんなで登頂を目指す姿が見られ、自然の中で友情を深める機会にもなった。



【坂戸山山頂にて】

4 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドの方3名と散策した。武蔵野市では見たことのない木の実やきのこを見付けて説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山に囲まれた地形ならではの山びこを体験したり、笹笛を作ってみみんなで遊んだりするなど、五感を使って自然を楽しむことができた。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、指導員の方に鎌の使い方を丁寧に教えていただいたことで、初めはぎこちなかった稲刈りも、素早く刈り取ることができるようになった。集めた稲をまとめ、藁で縛ることが難しかったが、一つの米粒も落とさないようにという指導員の方の言葉から、一生懸命に落穂拾いをする児童の姿が印象的だった。稲刈りやはざかけの体験を通して、手作業での米作りの苦労を実感することができた。



【稲刈り体験】

その後、カントリーエレベーターを見学することで収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。さらに、各宿でちまき作りをすることで、収穫から食べるまでを一日で体験することができた。

米だけでなく、各宿の畑で野菜の収穫体験も行った。宿の方から話を聞きながら一緒に畑仕事をする中で、野菜を育てることの苦労とともに、自分たちで収穫した野菜を食べる喜びやそのおいしさを感じることもできた。

2 水の再生プログラム(三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場を見学することができた。浄水場では武蔵野市と南魚沼市との水の採取方法の違いなどを学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 わら細工作り

地元の方を講師に迎え、各宿でわらぞうりを作った。作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が1足のわらぞうりを作り上げることができた。

作ったあとは実際に履いて歩き、履き心地を確かめながら、生活の知恵を肌で感じ、昔の人々の暮らしを想像することができた。



【わらぞうり作り】

2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際に作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。

最終日に行った笹団子作りは、宿の方との最後の交流となり、6泊7日の締めくくりの活動として、非常に有意義な時間となった。

3 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名利雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化財を見学することができた。

○児童の感想

- ・一番楽しかったのは稲刈りです。鎌を持ったとき、これで刈ることができるのか不安でした。初めは、鎌を一回引くだけで刈ることがむずかしく、何度も鎌を引いて刈っていました。でも、宿のお父さんにコツを教わってできるようになりました。稲刈りは思っていたよりも大変で、農家の人の苦労を知ることができたので、これからはお米を一粒も残さずに食べようと思いました。
- ・坂戸山の山頂での昼食はとてもおいしく、疲れが一気に吹き飛びました。達成感で胸がいっぱいになりました。山頂から下を見ると、町がとても小さく見えました。ガイドの方には、植物や虫のこと、天気のことなどを教えてもらい、楽しく登ることができました。
- ・宿のお父さん、お母さんは、温かい笑顔で私たちを迎えてくれました。私たちのために作ってくれるご飯は、いつもおいしかったです。二人はまるで、本当のお父さん、お母さんのように私たちに接してくれました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「高学年として責任をもち、様々な人と学びながら、共に成長しよう」というめあてを立てて、活動に取り組んだ。

家族から離れて過ごした6泊7日の集団生活は、貴重かつ大きな経験として、児童一人一人の力となっている。その力を事後の活動でも引き出すため、学級・学年活動や行事等、大勢で一つの目標に向かって活動するときには、セカンドスクールでの経験を想起させることで、仲間と協力したり、励まし合ったりすることができると思う。

また、現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方々との関わりを大切にしてきた。このような素晴らしい経験をする事ができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方々の協力があったからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分で課題を見つけ、それを解決していく力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

6泊7日の間、体験活動や各宿での集団生活を通して、武蔵野市では味わえない多くの貴重な経験をする事ができた。今年度は、11月に六日町観光協会の方と宿の方を本校に迎え交流会をすることができた。現地での交流だけでなく、自分たちの学校にお世話になった方々が来てくださったことは、自分たちが迎える側となり、校内を案内したり、合唱を聞かせたりするなど成長した姿を見てもらう機会となり、児童にとって大きな喜びとなった。

また、毎日の食事を通して、南魚沼の食文化や、それを支える人々の思い、自然の豊かさを十分に感じ取ることができた。食への関心が高まり、食料を大切にしようとする心を育てることができた。

次年度へ向けての課題として、個人の課題追究の時間がもっと必要だったことが挙げられる。事前学習で考えた自分の学習課題を追究していく時間として、課題別学習の時間を行程に組み込んでいきたい。今後、校内での打ち合わせを重ね、六日町観光協会の方とも連絡を取り合いながら、活動内容の詳細を考えていく。そうすることで、事前学習・現地での学習・事後学習と、児童一人一人が自分の課題と向き合い、一連の流れで学習できるような過程を組んでいけるようにする。

井之頭小学校

長野県 飯山市

9月28日～ 10月4日(6泊7日)

参加人数 男子 33名 女子 41名
計 74名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然体験学習を通して、工夫する態度や個性を大切にする姿勢を育てる。
- ・大自然の中で、自立に必要な知識や技能を身に付けさせる。
- ・学習の場を移し、自然や地域の特性を生かした体験に裏付けられた、生きた学力の向上を図る。
- ・集団生活のルールを守り、信頼や友情、協力し合おうとする気持ちを育てる。

○日程表

9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)		10月1日(日)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	9:00	田んぼの話	8:30	出発	8:30	カントリーエレベーター見学
12:00	戸狩到着	10:00	稲刈り体験	9:00	飯山オリエンテーリング(飯山シャンツェ見学、飯山仏壇体験、寺町巡り)	9:00	郷土食作り (笹寿司・おやつ)
12:30	昼食	11:30	昼食	12:00	昼食	11:30	昼食
13:00	開校式	13:00	脱穀	13:30	和紙すき体験	13:00	わらざうり作り
13:30	飯山の学習	15:30	入浴	15:15	とんだいら散策	17:00	健康観察
15:00	箸作り	16:00	雪国の暮らし	18:00	夕食	18:00	夕食
16:00	宿の方々のお話	18:00	夕食	20:00	手紙書き	19:00	入浴
18:00	夕食	19:00	暗闇体験		ふり返りの時間	20:00	ふり返りの時間
19:00	入浴	20:00	ふり返りの時間	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
20:00	ふり返りの時間	21:30	消灯・就寝				
21:30	消灯・就寝						

10月2日（月）		10月3日（火）		10月4日（水）	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:30	出発	9:00	課題別学習	7:45	荷物整理・大掃除
9:00	ブナ林散策	12:00	昼食	9:30	閉校式
11:30	グリーンパルで昼食	13:30	宿ごと勤労体験	10:00	戸狩出発
13:00	飯山のすてきスケッチ	15:30	感謝の会準備	12:00	横川SAで昼食
17:00	健康観察	16:00	健康観察	14:30	学校到着
17:30	夕食（バーベキュー）	17:30	夕食	15:00	帰校式
19:00	入浴	18:15	感謝の会	15:30	解散
20:00	ふり返りの時間	19:45	入浴		
21:30	消灯・就寝		荷物の整理		
		20:15	ふり返りの時間		
		21:30	消灯・就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

・今年度は、学習指導要領の改訂に合わせ、セカンドスクールにおいても「主体的・対話的で深い学び」を意識し事前学習の改善を図った。昨年度は児童が田植えに対し受動的になり、その後の世話も十分に行うことができなかつたため、今年度は事前学習の田植えを廃止した。その代わりに、今年度の初めに、飯山とはどのような場所なのかというテーマで調べ学習を行った。そして、今年度の児童の多くが飯山のアスパラガスに興味をもっていることが分かった。そこで、宿の方にご協力をいただき、アスパラガスを送っていただき、家庭科の調理実習の材料にした。

送っていただいたアスパラガスは、太くてみずみずしく、とても甘く感じた。児童は、「こんなにおいしいアスパラガスを食べたことがない。」、「アスパラガスが嫌いだったけれど、好きになった。」、「なんでこんなに甘いのだろうか。」など関心を高めたり、疑問を抱いたりしていった。さらに、観光協会と農家の方々にご協力をいただき、児童の疑問を FAX で送付し、回答をいただいた。

児童の疑問には、「飯山のアスパラガス作りのこだわりや工夫はありますか。」、「飯山では、いつからアスパラガスを作るようになったのですか。」、「なぜ飯山のアスパラガスは柔らかくなるのですか。工夫を教えてください。」、「おいしいアスパラガスの見分け方を教えてください。」などがあつた。

現地の方々から回答をいただいたことに児童は喜び、親しみを感じていた。また、児童もインターネットなどを活用して調べ学習を行い、それらの活動から分かったことや気付いたことを班ごとにまとめ、発表した。発表後、今後追及していきたい課題を設定し、さらに、セカンドスクールまでに調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・セカンドスクールで体験し、学んだこと、伝えたいことを他の学年の児童、保護者に伝えるために、グループごとにプレゼンテーションソフトや画用紙を活用して発表の準備を行い、学芸会で発表した。
- ・12月に宿の方を招いて「感謝の会」を開き、その際に、学芸会で発表した内容をプログラムに組み込んでいく。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池周遊ハイキング

各宿のお父さん方と共に、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。

ハイキングの途中、ブナに触れたり、ブナの実を拾ったり、ブナの木音を聞いたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特徴や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。森にいる生き物、生息しているきのこ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生き物や人間との関わりを実感することができた。



【聴診器を使って水の流れを聞く】

2 棚田や自然のスケッチ

田を見渡せる小高い場所からスケッチを行う予定だったが、雨天のため宿で行った。宿の窓から見える黄金色の田や、緑の木々、様々な色を見せる山々や空など、美しい景色を味わうひとときになった。



【スケッチの様子】

<学習体験活動>

1 農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀)

作業前に農業の工夫や苦勞、働くことの意義などを話していただき、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めることができた。宿のお父さん方の指導で稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。

稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。はぜかけでは、稲穂の束ね方から教えていただいた。脱穀では、時代ごとの脱穀の道具を使いながら、時代の移り変わりや、人々の苦勞を学ぶことができた。



【脱穀の様子】

全ての作業を通して、落ちている稲穂を拾って大切にすることで、「一粒のお米も無駄にしてはいけない」という思いをもてた。

2 地域についての学習(飯山について・雪国の暮らし)

学習の講師を宿の方に行っていただいた。これまでに使われてきた蓑(みの)、わらぐつ、観光業としても重要なスキーの歴史、地域で受け継がれてきた伝統芸能、雪が積もっても使える地上式消火栓、雪が落ちやすくするための急勾配の屋根など、飯山での人々の暮らし、生活の知恵や工夫を学ぶことができた。児童は、生活している方からお話を聞いて、道具の現物を見たことにより、理解を深めることができた。

3 飯山オリエンテーリング

昨年度に引き続き、全児童が飯山の伝統文化について学習するために、「寺町巡りと正受庵見学」、「飯山シャンツェ見学」、「飯山仏壇見学と体験」を3つのグループでローテーションをして見学と体験を行った。3か所見学では、全児童が飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができ、充実した学習となった。

4 課題別学習

今年度より、宿の方々が児童に伝えたいことをテーマにして活動内容を考えていただき、課題別学習を実施した。「スキー製造の歴史」、「里山、戸狩の四季」、「伝統生かした泥団子」、「さつまいも作り」、「水と水生生物」、「里山と水」というテーマは、どれも魅力的で、児童の関心を高めることができた。児童は事前に考えておいた質問をしながら、大変意欲的に活動に取り組むことができた。

<生活体験活動>

1 郷土料理作り

宿の方の指導で、「笹寿司」と「天井焼き」を作った。笹を自分たちで取りに行くことから始めた班もあった。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などの話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を示していた。



【笹ずし】

2 わらぞうり作り

最初は悪戦苦闘していたが、宿の方の指導もあり全員一足分を編むことができた。2時間半、座ったまま作業を行った分、編み上げた際には、かなりの達成感を感じていた。また、宿の方が編みながら話をして下さり、わらぞうりは昔の人々にとって大切な履物であるとともに、壊れやすいので替えを常に用意しておかなければならないものであることを知って驚いていた。



【わらぞうり作り】

○児童の感想

- ・私は、セカンドスクールに、人の気持ちを考えて行動するという目標をもって参加しました。人の気持ちを考えて、友達に係の仕事を手伝ったり、宿のお母さんの手伝いをしたり、心から挨拶したりすることができました。
- ・飯山の自然の広大さに驚きました。私はバスで山を下るときや朝の散歩で、すばらしい光景を目にしました。私の目では全て見るできないくらい広い山々、自分の行きたいように進むとても大きな川、まるでどこまでも続いているのかと思うほど大きく、金色に輝くすばらしい田んぼなど目を疑う光景ばかりでした。
- ・景色を見たり、ハイキングで木に触ったりして自然の大切さを知りました。特にブナ林の学習では、ブナにたくわえられた水が魚にも関係したことに驚き、興味をもちました。また、東京ではなかなか見ることのできない鳥や植物を見ることができて、感動しました。
- ・課題別学習で、さつまいもについて学習しました。そこで体験したさつまいも掘りは、たくさんのつるを取る作業が大変でした。農作物だけではなく、魚や肉を獲るのも大変だと思うので、作ってくれた人や獲ってくれた人に感謝して、気持ちを込めて食べていきたいです。
- ・感謝の会の時に、これまで飯山のことや、はし作り、いねかり、わらぞうり作りなど、色々なことを教えてくれたお父さんや、毎日おいしい料理を用意してくれたお母さんに感謝の気持ちを伝えることができました。お父さん、お母さんの笑顔を見ることができてよかったです。最終日の大そうじでは、自分から進んでそうじをしました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の話を通じ、関連付けながら指導することができた。

また、セカンドスクールから帰ってきた後、様々な場面において協力する姿が多く見られるようになった。学芸会の発表準備においても、よりよいものを作ろうと、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動していた。これは、セカンドスクールにおいて、「集団生活のルールを守り、信頼や友情、協力し合おうとする気持ちを育む。」というねらいに迫ることができたからと考えられる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・「飯山についての学習」を1日目の開校式後、すぐに行った。現地の景色、空気を味わい、宿のお父さんお母さんに出会ってすぐに学んだことで、児童の関心が非常に高まった。また、その後の活動の際に初日の学習と結び付けながら活動に取り組み、理解を深めている姿が見られた。
- ・飯山シャンテ見学、飯山仏壇体験、寺町巡りの飯山オリエンテーリングでは、こまめに連絡を取り合ったため、待機時間などが最小限に抑えられ、限られた時間の中で、多くの学習・体験を効率よく行うことができた。
- ・カントリーエレベーター見学は、農繁期と重なっているため、施設内の見学はできなかった。そのため、日程や活動を工夫していく必要がある。

関前南小学校

長野県飯山市

9月22日～9月28日(6泊7日)

参加人数 男子11名 女子16名
計27名

○セカンドスクールのねらい

- ・飯山の自然と触れ合い、そこで生活する人々とかかわることを通して飯山への関心を高め、自然を大切にする気持ちをもつ。
- ・長期の宿泊生活を通して、自立心や自律心を養う。
- ・薪割り・ご飯炊き・農作業体験等を通して、食物に感謝する心を育て、自分の食生活への関心を高める。
- ・飯山の豊かな自然や地域の伝統や文化との触れ合いを通して、飯山でしかできないことを体験し、現地で自ら情報を収集し、意欲的に課題解決に向け学習する。
- ・友達との集団生活や民宿でお世話になる方々との交流を通して、仲間と協力することの大切さを学ぶとともに、お世話になった人々への感謝の気持ちを表す。

○日程表

9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)		9月25日(月)	
7:30	学校集合、出発式	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
8:00	出発	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理
11:30	小布施SA、昼食	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
13:00	戸狩着、開校式	9:00	稲刈り・脱穀体験	9:00	森林伐採作業体験	9:00	茶屋池ハイキング
14:00	避難訓練	12:00	田のほり昼食	11:00	のろし台山頂で		
14:45	自己紹介(宿ごと)	13:00	イナゴとり		景色のスケッチ	11:30	光が原で昼食
15:30	箸作り	14:00	わら細工	12:15	昼食	13:00	学習のまとめ
16:30	周辺散策	16:30	健康観察・入浴	13:15	洗濯体験	15:00	もちつき体験
17:00	健康観察・入浴	17:30	薪割り・ご飯炊き	15:00	郷土食作り	16:30	薪割り・ご飯炊き
18:00	夕食準備・夕食		夕食準備・夕食	16:30	学習のまとめ	17:30	夕食準備・夕食
19:30	めあての確認	19:00	お別れ会の準備	17:30	夕食準備・夕食	18:30	健康観察・入浴
20:00	学習のまとめ	20:45	健康チェック	18:30	健康観察・入浴	19:00	学習のまとめ
20:30	健康チェック	21:30	消灯	19:00	星空観察	19:30	家族へのお手紙書き
21:30	消灯			20:45	健康チェック	20:45	健康チェック
				21:30	消灯	21:30	消灯

9月26日(火)		9月27日(水)		9月28日(木)	
6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
9:00	収穫体験	9:00	火起こし体験・かま	8:00	荷物整理
12:00	昼食		ど作り・野外炊飯	8:30	大掃除・奉仕活動
13:00	課題別学習	11:30	昼食	10:00	閉校式
16:30	健康観察・入浴	13:00	宿ごとの活動	10:30	戸狩発
17:00	学習のまとめ	15:00	お別れ会準備	12:00	昼食
18:00	夕食準備・夕食	17:00	健康観察・入浴	14:00	休憩
19:30	お別れ会準備	17:30	夕食準備・夕食	15:30	学校着・帰校式
20:00	学習のまとめ	19:00	お別れ会	16:00	解散
20:45	健康チェック	20:00	学習のまとめ		
21:30	消灯	20:45	健康チェック		
		21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科「米づくりのさかんな地域」では、自分たちの食べている米がどのように食卓まで運ばれてくるのかを調べ、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間では、バケツ稲を育てた。種もみを選ぶ→芽だし→種まき→田植え→中干し→落水→稲刈りの順に、実際に自分たちで稲を育て、米を一粒育てるだけでも大変な苦労があることを実感できる学習となった。また、「飯山探検隊」では、セカンドスクールで行く飯山市の産業・自然や郷土食について、本やインターネットを使い、調べ学習を行った。自分が設定した課題について、セカンドスクールの課題別学習の際に、事前に調べたこと等について体験し追究する見通しがもてた。
- ・セカンドスクールの目的や活動内容を、パワーポイントを使って児童と確認した。また、宿舎内で係に分かれ役割を分担し、係ごとにめあてを決め、仕事内容の確認をした。さらに、宿舎へ自己紹介カードを送り、宿の方が事前に児童を知ることができるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後にかかしていきたいことをまとめた。また、各学級の代表者の作文を文集「けやき」に掲載した。
- ・「セカンドスクール・思い出川柳」を作り、学校便りに掲載したり、宿の方に送ったりした。
- ・6つのグループに分かれて、セカンドスクールで学んだことをパワーポイントやパネルを使って学校公開で保護者に発表した。
- ・家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」では、飯山市で脱穀したお米を使ってご飯を炊く調理実習を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池ハイキング

ハイキングは、ブナ林と茶屋池の周辺を歩いた。ブナの木のほか、クマザサ、クロモジ、ウルシなど様々な植物を見ることができた。宿の方を先頭に、宿ごとに時間差をつけて出発したことで、植物や生き物に触れたり、説明を詳しく聞いたりすることができた。葉で受けた雨が木の幹を伝い、地面へと流れていく様子について説明を聞くことで、ブナの木には水を蓄える働きがあることを観察することができた。

ハイキングの終着点である標高 1100mの光が原高原では、^{くびき}頸城平野を眼下に景色を楽しみながらお弁当を食べることができた。飯山の雄大な自然への理解を深めることができた。



【ブナ林のハイキング】

2 火起こし体験(かまど作り・野外炊飯)

6日目に自分たちの力でかまどを作り、火を起こしてカレーライス作りをした。火を起こした経験がない児童がほとんどのため、2日目の夕飯づくりの際に各宿でかまどの作り方・薪割りのしかた・マッチの擦り方・薪の組み方・火の持続のしかたなどを練習した。当日は、使用できるマッチの本数を3本と決め、児童に火起こしに取り組みさせた。子どもたちは、「マッチ3本でつけるプレッシャーがいいです。」「小さな火を大きくしていくところが面白いです。」などと感想を述べていた。

それぞれの仕事をしっかり行い、全部の宿が自分たちの力で火を起こし、カレーライスを作ることができた。ご飯が炊きあがったときには「やったー。」という声がどの班からも聞こえ、協力することの喜びを得る体験となった。



【火起こし体験】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・野菜の収穫)

2日目に稲刈り体験を行った。稲の校長先生(宿のおじいさん)から、稲について様々なことを教えていただいた。鎌を上手に使って、約1時間半稲を刈り取った。刈り取った稲を4~5本ずつひもでしっかりとまとめ、脱穀作業を行った。また、千歯扱きと足踏み脱穀機を使って脱穀をした。



【稲刈り体験】

昔の人の知恵に驚きながら、何回も脱穀を行ううちに上手に使えるようになっていった。稲の穂が全て脱穀できているかを確認し、機械で穂が取れないものは手で一粒一粒つまみ取るこ

とでお米の大切さを実感することができた。最後にコンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに「おー！」という歓声が上がった。昔は家族総出で稲刈りをしていたが、今はコンバインを一人で操作して一日で収穫できてしまうほど、労働生産性が向上したことが分かった。

5日目は、各宿の畑で収穫体験をした。野沢菜や落花生など自分たちが育てたことがないものから、さつまいもや枝豆などの身近な野菜まで、丁寧に収穫することができた。自分たちが収穫した野菜を食事に出していただいた。たくさん汗を流した後なので、食のありがたみを感じながら食べることができた。

2 森林伐採体験と山頂からのスケッチ

3日目に森林伐採体験を行った。森の家の講師の方に森林伐採の目的やのこぎりの使い方、作業をするときの注意事項について、お話しいただいた。宿ごとにそれぞれの場所に分かれて、安全な山道になるように倒木を切っていく作業を行うことができた。一生懸命に切った木が倒れ、森に光が差し込むと、子どもたちは嬉しさから笑顔が溢れた。また、その後、のろし台の山頂まで登った。山頂まではアップダウンが激しかった。アップダウンが飯山城を守るための戦国時代の戦略であることを学びながら山頂を目指した。ようやく着いた山頂からの眺めに「すごーい。」という歓声が上がった。山々に囲まれた稲作地、その間を流れる千曲川が自然の雄大さを物語っていた。山頂では、感動的な景色をスケッチした。

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

長野県の郷土食であるうどん・おやき・笹ずしの3つのグループに分かれて郷土食を作った。うどん作りでは、気温や湿度が大きく関係してくるため同じ分量でも班ごとにこしの強さが変わっていた。どの班も上手にうどんをのぼしながら、包丁で切ることができた。おやきは、カボチャの餡を入れるときに餡が外に出てしまったり、生地が分厚すぎてしまったりするなど難しかった。上杉謙信に野戦食として送ったと言われる笹ずしは、自分たちが食べているお寿司のイメージとは異なり、海のない県ならではの山の幸の具材をたくさんのせたものであることを知った。それぞれの具材を食べる順番があり、具材の一つ一つに意味があることを学びながら作ることができた。作った郷土食はその日の夕飯となり、子どもたちは、「自分たちが作った郷土食は格別においしかった。」と感想を話していた。

2 課題別学習

学校に戻ってから、学習した内容をまとめて発表した。発表に向けて、現地では自ら課題を選んで学習する活動を取り入れた。自然観察グループ、文化グループ、伝統工芸グループの3つに分かれて、別々の場所で学習や体験活動に取り組んだ。

<自然観察グループ>

千曲川にある西大滝ダムを訪れた。ここでは、電力会社の方に話を聞き、ダムが果たしている役割や、自然環境に配慮した取り組みなどをお聞きした。その後、宿の方の案内でダムの上

を散策した。また、野外活動施設「森の家」を訪れ、リョウブの木を使ったバードコールを製作し、手作りのバードコールを持って野外散策を行った。

<生活文化グループ>

まず、高橋まゆみ人形館を訪れた。そこには、地元出身の人形作家高橋まゆみさんが、飯山の昔の生活を手作りの人形で再現した風景が展示されている。子どもたちは、飯山の昔ながらの情景を感じ取ることができた。その後、飯山ふるさと館に移動し、飯山が雪や温泉などの観光資源を生かしていることや、豪雪地方ならではの生活の工夫を学習した。石臼引き体験も実施し、飯山の人々の生活の知恵を実感することができた。

<伝統工芸グループ>

飯山はかねてより仏壇作りが盛んである。飯山仏壇と呼ばれ、経済産業省の伝統工芸品として指定されている。飯山市内では、仏壇店が軒を並べた雁木通りという通りがあり、趣のある風景が見られる。子どもたちは、その一店舗を訪れ説明を受けた。説明を受けた後は、仏壇が飯山の主要産業であることを感じながら雁木通りを歩いた。その足で工房を訪れ、職人の技を見学した後、彫金体験を行った。

○児童の感想

- ・茶屋池を散策することで、ブナの森というものが飯山の生活に欠かせないものであることを理解できた。武蔵野市では感じることでできない自然を思いっきり感じることもできた。
- ・野外炊飯では、協力することで、1回で火をつけることに成功した。とてもうれしかった。隣の班がうまくいかなかったので、火を分けてあげることもできた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

学校や家庭での基本的な生活や、学習のルールやマナーを、宿での生活や公共施設の見学を通して生かすことができた。また、自分で健康管理をし、7日間、大きな病気やけがをすることなく過ごすことができた。さらに、友達との集団生活や飯山の人々との交流を通して、望ましい人間関係を築くことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

お別れ会では、各宿共通のプログラムとして、北信州出身の作詞家・高野辰之にちなみ「ふるさと」の合唱を披露した。宿の方への感謝の気持ちを歌の調べにのせて伝えることができた。また、森林伐採体験、課題別学習、農作業体験においては、学習の側面を強く意識づけるために、事前学習を計画的に実施した。

今年度の夏より、各学校にタブレットPCが配備されたので、まとめの発表では、タブレットPCを活用してプレゼンテーションを行った。事前に機器に触れる時間がなかったため、編集作業に戸惑い、調べる時間を十分取ることができなかった。次年度はタブレットPCに触れる時間を十分確保して調べ学習をより充実させていく。

桜野小学校

長野県 飯山市

9月24日～9月30日(6泊7日)

参加人数 男子 73名 女子 72名
計145名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然とのふれ合いを通して、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・プレセカンドでの経験を活かしつつ、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けるとともに、情操を養い、個性の伸長を図る。
- ・学習の場を移し、体験に裏付けられた課題や困難を解決する力の向上を図る。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めることを通して感謝の念を育てる。

○日程表

9月24日(日)		9月25日(月)		9月26日(火)		9月27日(水)	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの話	9:00	宿ごと体験 (笹寿司作り)	9:15	ブナの森ハイキング
12:30	戸狩到着、開校式	10:00	稲刈り			12:30	昼食
13:30	昼食 部屋割り 里山散策 箸作り	12:30	昼食	12:00	昼食	14:00	宿ごと食体験 (餅つき・ジャムづくりなど)
18:00	夕食	13:30	脱穀	14:00	宿ごと自然体験	18:00	夕食
21:30	消灯	18:00	夕食	15:30	雪国のくらし学習	21:30	消灯
		21:30	消灯	16:30	手紙書き		
				17:30	夕食		
				19:30	星空体験		
				21:30	消灯		
9月28日(木)		9月29日(金)		9月30日(土)			
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食		
9:00	飯山市ふるさと館 伝統産業会館見学 和紙すき体験	9:00	焼き板工作	8:00	大掃除、荷物整理		
12:30	昼食	12:30	昼食	9:30	閉講式		
14:30	わら細工(亀)	13:00	宿ごと勤労体験	9:50	戸狩出発		
18:00	夕食	18:00	夕食	10:00	飯山シャンツェ見 学		
21:30	消灯	19:00	感謝の会	12:00	昼食(横川SA)		
		21:30	消灯	15:00	学校着、帰校式		
				15:30	解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の授業で行った「寒い土地の暮らし」の学習において、長野県飯山市の地理や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また「米づくりのさかんな地域」の学習では、稲作の仕事内容やカントリーエレベーターの役割について学習し、日本の食料生産の抱える問題点やこれからの農業について理解を深めた。
- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツを使った田植えを行い、稲穂が実るまでの様子を学校や家で継続して観察した。
- ・2学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」「米」「伝統工芸」などのテーマについて個人の課題を決め、調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・個別の課題についてセカンドスクール中の記録や見学の時にいただいた資料などを活用して、新聞作りに取り組んでいる。また、4年生に向けて、セカンドスクールでの1週間で体験した活動について活動ごとにまとめて紹介する予定である。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ブナの森ハイキング

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、ブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて学ぶことができた。「なぜ飯山の米がおいしいのか」ということについて、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしているということを知ることができた。森に棲む生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、様々な疑問がその場で解決された。

2 星空体験

東京では体験できない、街灯のない真っ暗な道を歩く体験を行った。武蔵野市の夜の暗さとは異なる暗闇を体験することで、暗闇の怖さを知るとともに、逆に星空や月の美しさに深く感動することができた。大自然を肌で体感し、自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

作業の前に田植えから収穫までの農作業、飯山市の地形的特徴について宿の方に話してい

ただき、米や稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈っていった。その後、児童はコンバインで稲を刈り取る様子を見学した。手刈りとコンバインの稲刈りのスピードの違いをまざまざと見て、農作業の機械化のありがたみを実感した。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。農具が発達するにつれ、効率が上がっていくことを実感していた。足踏脱穀機は足を踏むタイミングがうまくいかないと機械の回転が止まったり、逆回転になったりしてしまう。足で踏みながら手で稲を丁度良い位置に合わせるといった複雑さを味わい、また、楽しんでいた。ハーベスターは機械に稲を通すだけで脱穀ができる。ここでもまた、機械のありがたみを実感することができた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。この日の夜、宿の方との語らいの時間では、脱穀した米を精米、保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。

また、6日目に行うわら細工では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。



【ハーベスターで脱穀する様子】

<生活・文化体験活動>

1 笹ずし作り体験

宿の方の指導で、「笹ずし」作りを行った。笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、木々を分け入って笹を取りに行くところから始めた宿もあった。達成感もあったのかおいしそうに食べている様子がみられた。

2 宿ごと食体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、餅つき、おやき作り等が行われた。りんごジャム作りでは、りんごを細かく切り鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。餅つきでは米をふかしたあと宿のメンバーで餅をついて、しょうゆやあんこ、きな粉をまぶして食べた。おやき作りは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として様々な味のおやきを作った。どの宿も学校では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。



【りんごジャムづくりの様子】

3 和紙すき体験

国が定める伝統的工芸品が長野県に9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は飯山市で冬にたくさん降る雪を漂白のために活用している。現在、内山紙を製造している工場は、今回体験させていただいた阿部製紙ただ一つである。

阿部製紙では2つの体験を行った。1つは和紙すき体験、もう一つは和紙を着色するしぼり染め体験である。

和紙すき体験の前に、和紙の作り方についての説明を受けた。原料となるコウゾの皮を見て、そのあまりにも和紙とかけ離れた色に子どもたちは驚いていた。中には、コウゾを手にとって質感を確かめたり、匂いを嗅いでみる子もいた。

和紙すき体験では、繊維が均等に入るように上下左右に木枠を揺らしながら、液の中で葉書サイズの和紙をすいた。木枠を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまう。児童は工場の方の指示に従って慎重に作業をしていた。すいたものは工場に処理していただき、最終日にお土産として持ち帰ることができた。

しぼり染め体験では、和紙を小さく三角形に折り畳み、赤、黄、青、緑の染料を染み込ませた。開いたときのことを考えながら、児童は色を選んでいった。全色使う児童、1色しか使わない児童など染み込ませ方もそれぞれで、世界に一つだけのきれいな和紙を持ち帰ることができた。



【和紙すき体験の様子】

○児童の感想

- ・セカンドスクールの6泊7日は最高の思い出になりました。
- ・稲刈り体験では初めて鎌で稲を刈りました。手前に引く感覚が難しかったけど、慣れると早くできるようになりました。その後コンバインで稲を刈り取るのをみると、あっという間にたくさん刈り取っていてすごいなと思いました。
- ・ブナの森ハイキングではブナの働きについて宿のお父さんに教えてもらいました。標高の高いところにあるブナが飯山の米作りを支えていることを知りました。
- ・語らいの時間では、方言について教えてもらいました。「さようなら」は、「あんば」というそうです。たくさん使いました。
- ・笹寿司は自分が知っていた魚の寿司とは違ったけれど、すごく美味しかったです。笹ずしには食べる方向があって、間違った方向から食べると口が切れてしまうかもしれないことや、上杉謙信との関わりも宿のお父さんから聞き驚きました。
- ・セカンドスクールに行って、集合や整列など自分たちで声をかけてできるようになりました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

児童は飯山での自分で米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の姿を意識して普段の給食を食べるようになってきていることから、食に関する意識の高まりを感じる。セカンド後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では農業体験を思い起こし、学習内容を実感として深めていた。

身の回りの整理整頓をはじめ、家族や教師を頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、民宿の方々や友達にお世話になることで、自分のことは自分でできる限りやっという姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気づき、感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする態度が見られた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度より飯山市ふるさと歴史館、伝統産業会館の見学を行った。飯山市の伝統工芸や、自然に対する対策などについて調べる機会が以前のプログラムにはあまりなかった。しかし、今年度資料館見学を取り入れたことで、充実した学習を行うことができた。
- ・学校、指導員、宿の三者がどのように連絡を取り合うかについて事前に確認をした。宿で何かがおこったとき、学校側はそのことを指導員から報告を受けているが宿が把握していなかった、もしくはその逆があった、ということが昨年までの反省であがった。情報共有の流れを確認することで、今年度はスムーズに連携をとることができた。
- ・早朝に宿の付近を散歩したり、空き時間に宿の前で虫取りをしたり、といった宿ごとの判断で行う活動について、どこまで宿に裁量権があるのかについて確認をした。自生している植物は食べさせない、夜間の屋外での活動は行わない、水を使った活動はしない、ということを確認した。

中学校セカンドスクール



第一中学校

長野県北安曇野郡白馬村

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子 46名 女子 39名
計85名

○セカンドスクールのねらい

- ・学年・学級の親睦を図るとともに、集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身に付ける。
- ・教科の枠にとらわれず、自然体験的な活動や自然のふれあいを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。
- ・長野や白馬の自然や文化の特性を生かした学習の場を多様に設け、体験に裏付けられた生きた学力を身に付ける。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、2020年東京オリンピック大会開催を控えた生徒が自分たちの暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身に付ける。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めると共にセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。

○日程表

9月26日(火)		9月27日(水)		9月28日(木)	
6:50	一中集合、出発式	6:00	起床、健康チェック	6:30	起床、健康チェック
7:05	バス出発	6:30	朝食、出発準備	7:00	朝食、出発準備
11:00	諏訪SA、安曇野IC	7:50	退館式、ホテル(出発)		後片付け、荷物整理、
11:20	池田町クラフトパーク(昼食)	8:30	「ミトマト」栽培ハウス見学	8:30	宿出発
13:05	扇沢駅着、トローバス乗車出発	9:45	小谷村JA中土支所前(到着)、開校式	8:45	北原体育館集合、リハ学習
13:46	黒部ダム着【見学約2時間】	10:15	林業体験(下草刈)		白馬役場の方の講演
15:50	扇沢駅(出発)	12:10	昼食(バーベキュー)	12:00	宿帰着、昼食(各宿にて)
16:10	白馬ハイランドホテル到着、入館式	13:00	林業体験(薪割り、チェーンソー)	13:00	郷土料理・物作り体験(各宿)
18:40	夕食(ハーフイキク)	16:40	白馬村(到着)、入村式	17:00	夕食(各宿)
21:00	班長会議、班会議、健康チェック		各民宿到着後、リエンテーション	18:45	北原体育館にてレクリエーション
22:00	就寝		夕食、宿との交流	20:45	各宿帰着
		21:00	班長会議、班会議、健康チェック	21:00	班長会議、班会議、健康チェック
		22:00	就寝	22:00	就寝

9月29日(金)		9月30日(土)	
6:30	起床、健康チェック	6:00	起床、健康チェック
7:00	朝食、出発準備	7:30	朝食、出発準備
8:15	各民宿(出発)	8:50	各乗車場所(出発)バスにて移動
8:30	ゴンドラ山麓駅(到着) 八方尾根トレッキング	9:00	白馬ジャンプ競技場見学 リフト乗車、リバー学習
12:45	兔平レストハウスにて昼食	10:30	白馬五竜スキー場エスカレーター(到着) お土産購入
14:00	圃場(集合) 稲刈り体験【約2時間】 農作業体験【約1時間】	11:15	昼食
18:00	夕食(各宿にて)、後片付け	11:50	退村式
19:30	宿との交流、(各宿にて)	12:10	白馬村(出発) 調布IC
21:00	班長会議、班会議、健康チェック	17:20	学校到着、解散式、解散
22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・行動班や宿舍班の中での係を決め、その係の仕事に責任をもって取り組めるように3回の係会議を設定し、その中で様々な係の仕事を話し合って決めた。
- ・総合的な学習の時間や学級活動の時間を利用し、白馬に関する事柄をパソコン室でネット検索、図書室にて書物から資料を集めるなどして各自で白馬新聞の制作に取り組んだ。
- ・各自が制作した白馬新聞を各学級で発表し合って、これから宿泊行事で体験することへの理解を深めた。その新聞を教室前廊下に掲示し、学年全体の理解も深め合った。

2 事後の学習内容

- ・宿舍班ごとに白馬セカンドスクールで知りえたことや宿の方に教えてもらったことなどを、模造紙大のポスターにまとめ、白馬交流会で発表ができるように話し合い、準備を進めた。
- ・白馬交流会で、お世話になった宿の方々と再会し、自分たちが作ったポスターの発表を行ったりおはぎ作りを通して更なる親睦を図った。
- ・学校全体で取り組むポスターセッションにて、セカンドスクールで知った地域の課題を社会的な視点をもって問題に取り組めるようポスターを制作した。課題の提示と自分たちなりの解決方法を模索し、自分たちがどのようにそうした問題にかかわっていけるか考えさせた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八方尾根トレッキング

民宿の方々にガイドになって頂き、八方尾根トレッキングを体験することで白馬の自然や雄大さを実感し、自然の良さや大切さ



【八方尾根トレッキング】

を学ぶことができた。また、登山ではいくつかのルールやマナーがあり、それを知り実践することで社会の中での約束事やお互いを気遣う意識を確認する場にもなった。

＜社会体験活動＞

1 林業体験

林業体験では山の下草刈り等の体験をした。指導してくださった農協の方からの話にあった、「山を守ることが自分たちの生活を守ることにつながっている」ことを自分の体験として感じることができた。また、斧による薪割り体験や、チェーンソーによる丸太切りは生徒にとっては驚きと興奮の体験になった。安全に十分配慮し、傍らに指導員が常に寄り添いながら体験させていただくこの経験は、生徒にとっても何物にも代えがたい素晴らしい体験になっていた。



【薪割りの様子】

2 農業体験

コンバインなどの機械は農業の発展に大きく役立っており、機械工学的な発展も農業には欠かせないということを生徒は実感した。今年度から村内にあるミニトマトの栽培見学を行った。農家の方から栽培の大変さや収穫の喜びなどのお話を聞かせて頂き、目の前で採れたミニトマトを試食する機会にも恵まれ、農産物のおいしさに改めて驚く様子がとても新鮮であった。



【コンバインの操作】

＜生活・文化体験活動＞

1 郷土料理体験

宿泊する宿ごとに様々な郷土料理体験に取り組んだ。そば打ちの体験ではそば粉を練る作業や麺を切る作業など、本物の食材から作る喜びを感じていたようである。その他にもおやきなどの地元食材を利用した郷土料理作りの体験を通じて白馬で暮らす方々の生活の知恵や地域の人々が協力し合って食の文化を大切にしている姿を学んだようである。

2 オリンピック・パラリンピック学習

長野冬季オリンピック・パラリンピックのスポーツ文化遺産を見学するとよい経験ができた。東京では2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、どのようにして自分たちがこの大きなイベントに向き合ったらよいのかを考える機会にもなっていた。白馬村役場の方のお話やオリンピックの成瀬野生さんの話を真剣に聞く姿があった。



【成瀬野生さんの講演】

3 黒部ダム見学

日本が抱えるエネルギー問題を真剣に捉え直そうという気持ちをもつことができるよい機会になった。先人が切り拓いてきた大事業にとっても大きな関心を寄せている様子が伝わってき

た。職員の方のお話や、当時の難事業をやり遂げる様子を説明した展示パネルや映像を食い入るように見ている生徒の姿が多くあった。これからの日本を背負う生徒にとっては世界に視野を広げるよい体験学習になった。

○生徒の感想

- ・農業体験や林業体験は、自分の知識が増えていくことや、物事を率先して行う力が身に付くんだなと思いました。生活面でのマナーや民宿での活動は自分の仕事に対する責任感や自主的に行動すること、集中力などにもつながっていったと思いました。これからは学年やクラスでの係も率先して行い、行事一つ一つに責任感をもっていきたいです。
- ・普段あまり体験できない貴重な経験ができてとてもよかったです。白馬村の生活や長野冬季オリンピック・パラリンピックがどのように開催されたか知ることができた。2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるが、長野の時は環境に配慮したやり方で開催したと聞いたので、東京ではどうかという目で見ること大切なんだと思うようになった。
- ・農家の人や林業の人の苦労と社会的な役割を知ることができました。郷土料理作りなどの体験で友達との絆を深めることができたこともかけがえのない体験でした。セカンドスクールを通して友達と協力しようという思いも強くなりました。自分だけ頑張っただけで行動するのではなく周りの人にも声をかけたりして学校での様々な行動につなげていきたいと思っています。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

普段経験のできない体験がプログラムの中に多く取り入れられたことで、生徒の興味・関心が高まった。事前学習での個人新聞の取り組みの様子を見ている、真剣に資料に向き合う姿を多く見ることができた。そうした気持ちは宿舎班や行動班の中の係活動に取り組む様子からも伺うことができた。宿舎での生活面では友達とのトラブルはないとは言えず、教員へ相談に来る生徒もいたが、それでも自分たちで話し合ったり、相談し合って解決したりしようとする姿があった。自分だけの気持ちを通そうとするのではなく、お互いのことを理解し合って向き合おうとする姿勢もあった。自ら考え、主体的に取り組む自主性が、学習面ばかりではなく生活面でも見られたのはとてもよかったですと感じている。学校に帰り、こうした気持ちと姿勢を忘れずに頑張ってもらえるものと期待している。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

生徒はこの行事を通じて考えることも多かったことと思う。それは、日本の自然風土、文化を学習するということがあったら、宿泊行事として友達との関わり、自分に与えられた仕事への責任感、そしてリーダーとしての自覚を育てていくという面ではよい機会になった。また、様々な問題に対して自分たちで話し合って解決していこうとする自主性や自立心、自律の心も育てられたと感じている。

第二中学校

新潟県十日町市

5月23日～5月27日(4泊5日)

参加人数 男子56名 女子71名
計127名

○セカンドスクールのねらい

- ・ 田舎体験を通して、素朴な伝統や文化を尊重し、大切にすることを育む。また環境学習や自然体験から自然愛護の精神と意欲的に学習する態度を養う。
- ・ 農作業や家族の一員として役割を果たすことを通じ、勤労の尊さや意義を理解する。
- ・ 現地の人々と団欒することで家族愛や目上の方への敬愛の念を深め、感謝の気持ちを培う。
- ・ 係活動、集団活動に積極的に取り組み、武蔵野二中という集団の一員としての自覚を高め、よりよい学校づくりを目指す。

○日程表

5月23日(火)		5月24日(水)		5月25日(木)	
7:00	学校集合 出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:30	学校出発 関越自動車道	7:30	朝食	8:45	農家の方とのお別れ会
12:30	現地(十日町市浦田)着 昼食(浦田交流会館)	9:00	農家体験Ⅰ 農家ごと農業、自然体験	9:00	伝統料理体験 そば打ちコース
13:00	開校式	14:00	農家体験Ⅱ 午前に引き続き活動	14:00	田舎料理コース 環境学習Ⅰ
13:30	田植え体験 民泊体験1日目 民泊農家でのお手伝い	16:00	活動終了 民泊体験2日目 民泊農家でのお手伝い		森の学校キョロロ見学 キョロロの森の動植物観察
22:30	就寝	22:30	就寝	22:30	就寝
5月26日(金)		5月27日(土)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	環境学習Ⅱ ブナ林ハイキング 大蔵寺高原自然観察コース	8:45	宿舎(ちとせ)発		
12:00	昼食	9:10	環境学習Ⅳ 美人林見学		
13:00	環境学習Ⅲ	15:30	学校到着		
15:45	宿舎(ちとせ)着 荷物整理、入浴	16:00	合同学活		
18:45	夕食、係活動、班活動		解散		
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・新潟県の気候、風土、動植物など、セカンドスクールの課題から、自分で学習テーマを決定した。またクラスごとに調整を行い、書籍やインターネットを用いて学習カードにまとめた。学習カードは学習用のスケッチブックに掲載し、調べた内容が共有でき現地で活用できるものとした。(総合的な学習の時間)
- ・調べ学習をもとに、テーマに沿った現地の方へのインタビューや調べてくること検討した。(総合的な学習の時間)
- ・民泊先の受け入れ農家に送る自己紹介状を兼ねた挨拶状を作成した。(道徳)
- ・中学生としての自覚や自律をめざして、団体行動や係活動、民泊体験の場での目標やルール作りを行った。(特別活動)

2 事後の学習内容

- ・自分のテーマについて現地で調べてきた内容を画用紙にまとめ、クラスを混ぜて班ごとに発表を行った。そして、調べたテーマも発表テーマを整理しながら、発表するグループを5つに分けた。そのため、多くのテーマの発表を聞くことができた。(総合的な学習の時間)
- ・民泊農家へのお礼状を作成した。(道徳)
- ・現地でのスケッチを水彩画として完成させた。(美術科との連携)
- ・学習用のスケッチブックに学んできたことや、現地での思い出をまとめた。(総合的な学習の時間)

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 キョロロの森観察

十日町の自然や生活などを学ぶことができる科学館「キョロロの森」で、ブナ林散策、水辺の生き物観察、館内展示見学の見学を行った。ブナ林は、人工的な手が入っていない自然林であり、散策を通じてありのままの林を見学することができた。また、様々な生物や、植物を使った伝統的な遊びなどを体験することができた。水辺の生き物観察では、生徒一人一人がアミを持ち、ため池で水性動物を採集した後、インストラクターから採取した生物についての解説を聞いた。貴重な生物も含まれており、生徒たちは真剣に話を聞いていた。館内展示見学では、雪国の里山に住む生物の見学や現地の伝統的な生活で利用されてきた用具などを見学した。

2 自然観察ハイキング(大巖寺高原)

前日にキョロロで学んだ知識を土台に、ハイキングを行った。ブナや植物についての理解を深めた他、危険な生き物や触れて



【ハイキングの様子】

はならない漆などの植物についても学習することができた。

3 自然観察スケッチ(大巖寺高原)

ハイキングの後、風景画のスケッチを行った。自然豊かで雄大な景色をスケッチすることで、自然の様子をよく観察することができた。その後、学校で美術の時間に絵を仕上げ、校内で掲示を行い、保護者などにも見てもらった。

4 人工林観察(美人林)

松之山の観光名所である美人林の見学を行った。この林は人の手が入った人工林である。最終日に散策を行い、これまで学んできた知識を土台に天然林との比較を行うことができた。また、インストラクターの詳しい解説を聞くことで、自然と人の暮らしとの関連を学ぶことができた。

<社会体験活動>

1 農業体験(山菜の収穫・田植えなど)

現地の方を指導員として迎え、初日に学年全員で棚田での田植えを行った。事前学習として棚田に関してはよく学んでいたため、実際の棚田での田植えを体験し、より理解を深めることができた。また、植え方は、伝統的な手植えを行った。子どもたちは泥だらけになりながらも、苗を植え、農業の苦労や大変さを学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 伝統料理体験

伝統料理体験では、田舎料理・そば打ち・あんぼ・ちまきの4グループに分かれ、地元の食材で現地の方を講師として招き班内で協力しながら、実習を行った。講師の方と会話しながら料理を作り、実際に自分たちで食べることで食文化などをより理解することができた。

2 民泊農家のお手伝い

1日目の夕方から2日目まで各農家で農業体験を行った。事前に挨拶状を送っていたこともあり、ためらうことなく積極的に交流することができ、それぞれの家庭での交流は充実したものとなった。また、実際の家族のように受け入れていただき、現地の生活を実感することができた。



【民泊農家のお手伝いの様子】

○生徒の感想

- ・この3日間で、自分のことだけでなく、他の人のことも考え、行動することができるようになった。また、協力する回数がとても多かったことで絆も深まったと思う。今後、クラスの前に大きな壁が立ちただかっても、みんなで助け合い乗り越えていきたい。

- ・タケノコの皮むきや、いなりずし作りといった民宿での手伝いです。宿の人に教えてもらいながら、手伝いできるのがすごく嬉しく、楽しく、良い思い出になりました。
- ・私がセカンドスクールで学んだことは、ふだん私たちがふつうに食べることができている、米や野菜は農家の方々が毎年一年中苦勞しながら作ってくれているということです。これは、田植えや農家で畑仕事をした時に学びました。田植えでは「3列、3本、3cm」というキーワードを教えてもらいました。このことを意識してやったら簡単なんだろうなと思いましたが、そう簡単にはできませんでした。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

雄大な自然の中で過ごし、学習を行うことで、自然に対する畏敬の念を培うことができた。また、民泊を行うことで、家族の温かさや、思いやり、心の豊かさなど、生徒の情操が育つ心の教育になっている。また、入学間もない時期に、5日間寝食をともにすることで、生徒同士の人間関係も深まり、協調性や協力することの大切さを学ぶことができた。そのため、その後の学校生活でも人間関係がより濃くなり、クラスや友人関係が構築される足がかりになっている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

内容の大幅な変更はなく、今まで積み上げてきた地域の方々との交流は生徒にとって大変意味のあるものだと考える。今年度の課題としてはアレルギー対応があげられる。事前に関係機関や宿泊先と綿密な打ち合わせを行った。また民泊先の方と保護者をつなぎ、ともに安心して食事を行うことのできる環境を作り上げ、事故などがないように万全の対応を行った。しかし、アレルギー生徒の増加もあり、今回のような個別対応がどこまでできるのか課題がある。また現地では民泊受け入れ農家の高齢化が進み、これまでのような受け入れ先の減少がある。一方、本校では、生徒数の増加が続いており、受け入れ先の確保には課題がある。

引率した教員としては、セカンドスクールがあることによって、行く前と後では生徒たちの様子に変容が見られるように感じる。新しい友達が出来たり、人間関係が深まったりしている。また、集団宿泊学習を行うことで、集団のマナーやルール作りを行う場にもなっており、そうした点からもクラスや学年という集団に変容が見られる。しかし、アレルギーを含め、個別対応の生徒数が増えていることがあり、対応に難しさを感じる場面もあった。

第三中学校

長野県北安曇郡白馬村

10月2日～10月6日(4泊5日)

参加人数 男子53名 女43名
計96名

○セカンドスクールのねらい

- ・ 集団の一員としての自覚を持ち、責任ある行動や互いに協力し合うことの大切さを学ぶ。
- ・ 自然の中での諸活動や現地の方々との交流を通し、自ら考え、主体的に学ぶ力を付ける。
- ・ 自然や地域の特性を生かした多様な学習の体験を通して、課題を発見・解決する力を身に付ける。

○日程表

10月2日(月)		10月3日(火)		10月4日(水)	
7:30	学校集合・出発式(校庭)	6:00	起床、洗顔、朝食準備	6:30	起床、洗顔、朝食準備
8:00	学校出発	6:45	朝食	7:30	朝食、退館式
12:00	池田町クラフトパーク着 昼食、紙飛行機大会	8:40	黒部ダムエコエネルギー学習 昼食含	9:30	白馬ジャンプ競技場着 オリ・パラ学習、入村式
16:00	ホテルからまつ荘着	16:00	ホテルからまつ荘着	10:25	新田公民館着、各民宿へ
17:10	入浴	16:30	入浴	11:40	昼食
18:30	入館式、夕食	18:30	夕食	13:30	稲刈り体験
19:30	黒部ダム学習会	19:25	合唱練習	16:30	夕食、オリ・パラ学習、入浴
20:30	班長・室長会議、部屋会議	20:30	班長・室長会議、部屋会議	20:30	班長会議、宿会議
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
10月5日(木)		10月6日(金)			
6:30	起床、洗顔、朝食準備	6:30	起床、洗顔、朝食準備		
7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	農業体験(各民宿プログラム) 昼食(郷土料理体験) もの作り体験	8:45	白馬ジャンプ競技場着 オリ・パラ学習		
17:00	夕食	9:10	白馬ジャンプ競技場見学		
18:40	ウイング21着、オリ・パラ学習	10:30	退村式		
19:30	合唱発表	11:30	白馬五竜スキー場着		
20:40	班長会議、宿会議	12:15	昼食		
21:00	入浴	12:40	白馬五竜スキー場発		
22:00	消灯・就寝	17:15	学校着		
		17:30	閉校式・解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県、白馬村、黒部ダム、長野オリンピック・パラリンピックに関連するテーマを選択し、書籍やインターネット等を用いて調べたものをレポート形式にまとめ、廊下に掲示した。また、掲示した他の生徒のレポートを見て、現地で質問したい内容をしおりに記入した。
- ・白馬村の方を学校へ招き、白馬村の自然や観光、農作業、長野オリンピック・パラリンピックについての講話を聞いて学習した。
- ・黒部ダム建設当時の様子をまとめた映像を用いて、黒部ダムがどのような役割をなしているのか、建設時の苦労や困難等について学習した。
- ・社会科の課題でオリンピック・パラリンピックについて提示し、各国・地域の特色、文化、地形等について調べ、レポートにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・実施期間中、就寝前に1日のまとめとして、体験したことや学んだことを記録し、また、1日の感想をしおりの日記欄に記載した。実施後にはセカンドスクール全体を振り返って印象に残ったことや感じたことを原稿用紙2枚程度の作文にまとめた。
- ・クラスごとに農業・食文化、オリンピック・パラリンピック、黒部ダムの3つのテーマに分け、現地で集めたパンフレットや写真、実施期間中の記録を活用し、スライドショー及び展示物を作成した。作成したものはくぬぎ祭（文化祭）で展示・発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 黒部ダムエコエネルギー学習

黒部ダム展望台から見える長野県・富山県の山々、万年雪、雪解け水からなる川の流れ、そして破碎帯の水を利用した飲用水等、辺り一面自然に囲まれた黒部峡谷において、自然に触れるだけでなく、私たちの生活を支える電力の供給という大事な役割を果たしていること、また建設にあたって多くの困難と苦悩を乗り越えてきたことを学習した。

2 写真コンテスト

現地で見た景色を写真で撮り、くぬぎ祭（文化祭）で展示した。黒部峡谷や大町市、白馬村等、東京では滅多に見ることのできない自然の景色を意識して見ることに繋がった。それぞれが撮影した写真の一枚一枚に、くぬぎ祭（文化祭）来場者の多くの方々が見入っていた。

<社会体験活動>

1 農業体験

民宿近くの田んぼで稲刈りを体験した。手刈りだけでなく、バインダーやコンバインといった農作機械を操作した。手刈り体験では、計画していた時間よりも早く予定範囲の稲を全て刈

り取り、収穫作業を終えた。バインダーやコンバインを体験する際、初めは緊張しながら操作する生徒もいたが、慣れてくると、初めての体験に表情が輝いていた。また、稲刈りを教えてくださった農家の方々も、現地の子どもにも機械を操作させる機会があまりなかったが、生徒の表情を見て、現地の子どもにも体験させてみようかと話していた。



【稲刈り体験】

2 合唱披露

ウイング21（大ホール）にて、オリンピック・パラリンピック学習及び合唱発表を行った。オリンピック・パラリンピック学習では、ウイング21の施設管理をされている方にお話を伺い、当施設建設の目的、当時の利用方法、そしてオリ・パラ開催後から現在の活用方法等について学習した。合唱発表会では、お世話になった民宿の方々を招待して、感謝の気持ちを込めて「第三中学校校歌」と「僕らの奇跡」の2曲を披露した。生徒は精一杯気持ちを込めて披露し、目に涙を浮かべる生徒もいた。また、民宿の方も大変感動してくれていた。

<生活・文化体験活動>

1 もの作り体験

籐細工、麦細工、木彫りのマグネット、木製プレート等、民宿ごとにももの作り体験を行った。籐細工では、作成前に籐を柔らかくする工夫などを学びつつ、伝統的な技法でコースターやかご等を作成した。麦細工では、民宿の方が春から育ててくれた麦を使用した。生徒たちは四苦八苦しながらも、民宿の方や仲間から教わり、それぞれの個性が見られる素敵な蛍籠等の作品を完成させた。現地の材料を使用し、地域の伝統的なもの作りを知るよい契機となった。

2 農家民宿における生活体験

農家民宿では生徒一人一人が家族の一員として食事づくりや掃除等の家事を体験した。また2泊3日の生活の中で、そばやおやき等の郷土料理づくり体験や、ミニトマトの収穫・出荷準備の手伝い、芋掘り体験、まき割り体験等、白馬村の食文化や生活を体験できるよい契機となった。



【そば打ち体験】

○生徒の感想

- ・ 普段東京では味わうことのできないそば打ち体験や木彫りなどをすることができ、事前学習だけではわからなかった白馬村の良さを知ることができた。
- ・ 農家民宿の方々に、事前にいろいろな事を準備していただき、また、おいしいご飯をつくっていただいたことに感謝したいです。

- ・ウイング21の施設員さんから長野オリンピック・パラリンピックの話聞き、選手だけではなく、裏方として働いている人たちや、ボランティアの人たちも、とても大変なことが分かった。
- ・オリンピック選手の現役コーチのお話を聞き、スキージャンプという競技について知ることができました。また、良い結果を出すためには人間力が大切と聞き、これはスポーツだけでなく普段の生活にも必要なことだと思いました。今回のお話を聞いて、東京オリンピックにも興味がわきました。
- ・セカンドスクールのいろいろな学習を通して、沢山のことを学びました。家に帰った時は、自分のことは自分でやるということも身につけており、とても良い体験でした。

○ファーストスクールの教育活動との関連

白馬村の食生活や文化、自然、校歌合唱、オリ・パラ学習等、普段の授業との関連に配慮した。また、各民宿での集団生活や班、クラス、学年単位での集団行動を通してコミュニケーション能力、団結力、協調性を育むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

一昨年からは長野県白馬村でセカンドスクールを実施しているが、今年は初めて秋に実施した。プログラム内容が昨年度までと大幅に変わったため、事前準備を特に入念に行い、実施期間中は円滑に進めることができた。天候や気候の問題からプログラムの順序変更があったものの、黒部ダムトレッキング以外の体験は全て実施することができた。また農業体験や生活体験、合唱発表等を通じて現地の方々との交流を深めることができた。体験内容については生徒の多くが充実して取り組むことができた。

次年度に向けての課題としては、10月実施となり、日によっては夜間の冷え込みが早くなっているため、気候に留意しながら内容を考える必要がある。

第四中学校

長野県飯田市

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子74名 女子55名
計129名

○セカンドスクールのねらい

- ・都会にない自然に触れ、自然の大切さや自然を守る意識を深める。
- ・長野県の地理や風土、歴史などの文化を知り、そこに生きる人々の生活や考え方を体験する。
- ・日常と違う生活体験を共にすることによって、協力することの大切さや友達のよさを知り、四中生としての絆を深める。

○日程表

9月26日(火)		9月27日(水)		9月28日(木)	
7:30	市役所前駐車場集合、出発	6:00	起床	6:00	起床、朝食
11:50	飯田運動公園着、昼食	6:30	朝食準備		農家ごとに農業体験
14:10	うるぎ星の森着	7:30	朝食(オープンサンド等)	12:00	各集合場所でお礼の挨拶
14:30	テントへ移動	8:00	朝食片づけ		昼食
15:30	夕食準備(飯盒炊爨)	9:00	各テントで休憩	13:00	稲刈り(売木村)
17:00	夕食(カレー等)	11:50	昼食(弁当)	17:30	ひるがみの森着
18:00	片づけ	12:45	うるぎ星の森発	17:40	室内点検・入室
19:30	星空観察教室	13:00	各農家との対面式	18:00	夕食
21:00	班長会		農家ごとに農業体験	18:40	入浴
21:45	就寝準備	18:00	夕食・入浴	21:00	班長会
22:00	就寝	21:45	就寝準備	21:45	就寝準備
		22:00	就寝	22:00	就寝
9月29日(金)		9月30日(土)			
6:00	起床、洗面、布団片づけ	6:00	起床、洗面、布団片づけ		
7:00	朝食	7:00	朝食		
8:00	ひるがみの森出発	8:30	ひるがみの森出発		
8:50	極楽峠登山口着、登山開始	10:00	尖石縄文考古館着、見学		
12:30	パノラマパーク着、昼食、休憩	11:15	尖石縄文考古館出発		
14:40	極楽峠登山口着	11:30	昼食(おぎのや)		
15:50	ひるがみの森着	12:30	出発		
16:00	入浴	16:00	市役所前着		
18:00	夕食		解散式、学活		
19:00	学年レク大会	16:20	解散		
21:30	班長会				
22:15	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県の自然や農業、飯田市の紹介など自分で一つテーマを選び、個人新聞を作成した。
- ・農家への挨拶状や自己紹介カードを作り、事前に送付した。
- ・実行委員を中心にスローガン作りや生活のきまり（服装、持ち物、ルールなど）を作成した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を、農家班ごとの農家体験新聞にまとめ四中祭で展示した。
- ・体験学習の成果を、プレゼンテーションを行い、発表した。
- ・お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

飯田市南部の下條村にある極楽峠を登った。途中、ロープを頼りに登るところや、傾斜の急な登山路もあったが、無事に極楽峠を通過し、パノラマパークに到着した。ガイドの方から、植物や動物についての説明を聞きながらハイキングを行った。天候もよく南アルプスや中央アルプスの山々を眺めることができ、ハイキングの達成感を味わうことができた。

<社会体験活動>

1 農家体験

2日目の午後から3日目の午前中にかけて各農家に分かれ、野菜や果物の収穫や五平餅作り等の農家体験を行った。3日目の午前は雨天のため作業が制限されることもあったが、午後には全員で稲刈りを行うことができた。稲を刈るだけでなく、束にして縛ったり、運んだり、稲架にかけてりと作業ごとのグループを編成し、時間で区切り各作業を全員が体験できるようにした。当日は朝から雨が降っていたため、稲刈りは中止になるかと考えていたが、雨が止み田んぼの状態も良かったので何とか体験ができた。初めは戸惑う生徒もいたが、慣れてきた後半は作業がスムーズに進み、時間内に全ての稲刈りと、稲架掛けを終わらせることができた。



【2日目の農家体験】

2 尖石縄文考古館の見学

5日目の最終日、尖石縄文考古館の見学をした。屋外では竪穴式住居の見学をした。屋内で

は発掘の状況や歴史的価値についてビデオ学習をし、国宝である「縄文のビーナス」や「仮面の女神」などの展示物を見学した。体験コーナーでは縄文時代の土器の道具を触り使ってみたり、衣服を着用したり、縄文時代の暮らしを体感することができた。

<生活・文化体験活動>

1 キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」でキャンプを行った。テントの設営も自分たちで行い、各テントにそれぞれ宿泊した。夕食は行動班に分かれ、班員と協力しながら飯盒炊爨によるカレー作りを行った。夜はテントの中で寝袋と毛布で過ごした。夜に予定していた星空観察教室は、満天の星空の中で星座観察や、天体望遠鏡で木星の輪や月のクレーターなどを観察することができた。クラスごとに解説してくれた講師の説明を真剣に聞いていた。

2 地域の人々とのふれあい(農家泊)

売木村、阿南町、下條村の農家に、2日目の午後から3日目の午前まで一泊をして過ごし、地域の方々とふれあう時間をもった。売木村役場、信州アトム、信濃路下條の道の駅にそれぞれ集合して農家の方との対面式を行い、各農家に分かれた。生徒たちは農家独特の住まいを体験し、また農家の方々と交流を深めた。そして、五平餅や味噌を作ったり、野菜や稲の収穫をしたり宿泊をする中で、東京では体験できない長野の農村特有の料理・食物を味わう貴重な経験もできた。

○生徒の感想

- ・キャンプはやったことはありましたが、少ない人数で一つのテントを立てたことはなかったので、良い経験になりました。星の観察でも、普段見ることのできない土星などを見ることができ、キレイな星に感動しました。
- ・農家での体験学習として、ナシの紙を取る作業とかごに入れるお手伝いをしました。そこで、ナシを出荷するにはたくさんの時間が使われていることを学びました。
- ・普段から何気なく食べているお米だけど、実は農家の方が一生懸命大変な作業をしていることが、昨日、今日で分かった。なので、これからは農家の方に感謝してお米を食べたいと思う。
- ・今日は極楽峠に登って、みんなでハイキングをした。険しい道に登った。道が長くて大変だったけど、みんなで登った達成感があつた。頂上に着いた時の景色がきれいでよかった。



【4日目の極楽峠ハイキング】

○ファーストスクールの教育活動との関連

「共生」が1学年の総合的な学習の時間のテーマである。様々な活動を通して自然との共生、人との共生を考えていくことにしている。これまでの学習では、群咲・いぶき学級との交流を通して障害への理解を深めたり、道徳、学級活動を通して他者理解を行ってきた。それらの学習を通して学校における様々な共生について学習してきた。

また、教科や総合的な学習の時間では、課題解決学習を行っている。事前学習を通して各テーマについて、自分で資料を集め、まとめ、発表する活動を行った。そして、事前学習を通して抱いた疑問について、セカンドスクールで実際に見たり、体験したり、農家の方に質問をすることで、更に理解を深めたり、疑問を解決することができた。今後も、自ら課題を設定したり、疑問に感じたことについて調べたり、考えたりしながら、解決する力を身に付けさせたい。

さらに、本校はスーパーアクティブスクールの指定校となっているため、今回セカンドスクールを訪れた売木村から講師を招いて11月に講演会を行った。ウルトラマラソンで世界的に活躍しているマラソンランナーである重見高好さんの話を通して、生徒も夢に向かって努力することの大切さや、村のために献身的に活動することの素晴らしさ、他者と協力することの大切さの理解を深めることにつなげてきた。

セカンドスクール4泊5日の生活を通して、仲間の大切さや仲間に対する思いやりを考える良い機会でもあった。この体験を今後の学校生活に生かしていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

地域の方々との交流や自然の中での生活、仲間との生活を通して、「人と人との関わりや生きていく上で大切なことは何か」ということを考える良い機会になった。また、普段の生活の中での食事や暮らしている環境についても考え、身近なものに対して感謝の気持ちをもつことができるようになってきた。

発熱による体調不良やけが等が発生してしまったが、途中で帰宅させることなく過ごすことができた。キャンプやハイキングでは、生徒も協力し合うことの大切さを感じ、団結することのすばらしさや達成感を味わうことができた。

今年度実施するにあたり、農家の方の中にIターンで売木村に移住して生活をしている方と出会うことができた。そういった方との出会いや経験談は、生徒にとってとても貴重なものであると考えられる。そのため、来年度以降、こうした方の話を聞く機会を設定して、様々な経験談を聞く機会を設けることも考えたい。

今回のセカンドスクールでは、農家での宿泊や農業体験が、生徒にとってとても印象深く思い出に残り、貴重な経験になった。一方で、農家泊は1泊という短い期間だったため、より長い期間農家に滞在して多くの経験をさせ、たくさんのことを学ばせたいと感じる。来年度以降の実施に向けて、農家泊やハイキングの内容を再度見直し、「人や自然との共生」をより一層考え深めさせられるように努力していきたい。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月22日～9月26日(4泊5日)

参加人数 男子39名 女子54名
計93名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然体験を通じて、環境保全意識と自然そのものへの畏敬の心を培う。
- ・農業体験を通じて、勤労を尊重する姿勢と知的好奇心を養いながら課題解決力を養う。
- ・宿泊体験を通じて、自主自律の意識を高めるとともに協調性と人間関係調整能力を養う。
- ・交流体験を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性と、自らの考えを論理的に表現する力を養う。
- ・国際競技場見学体験を通じて、かつてのオリンピック・パラリンピックの感動を共有し、来る東京五輪への参加応援意識を高める。
- ・歴史民俗施設見学体験を通じて、歴史街道成立の一端に触れながら文化の成立過程等への関心を高める。

○日程表

9月22日(金)		9月23日(土)		9月24日(日)	
7:00	学校集合・出発式(体育館)	6:00	起床	6:00	起床
7:40	バス出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:50	大町公園到着・昼食	8:40	ホテル出発	8:00	退館式・ホテル出発
13:00	塩の道ちょうじや見学	9:00	ゴンドラ山麓駅到着	8:40	白馬ジャンプ競技場見学
14:00	大町市街中探訪	10:00	八方池登山	11:30	白馬ロイヤルホテル到着・昼食
15:45	仁科台中学校交流学习会	12:45	兎平レストハウス到着・昼食	12:45	白馬さのさか地区入村式
17:00	仁科台中学校出発	15:10	ゴンドラ山麓駅到着	14:00	親海湿原環境保全活動
17:45	ホテル到着	15:30	ホテル到着・入浴	16:30	入浴
18:45	入館式・夕食	18:45	夕食	18:30	夕食
19:50	入浴	19:30	温泉学習会	19:30	農家の方との交流
21:10	班長会議・室長会議	21:10	班長会議・室長会議	21:30	班会議
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
9月25日(月)		9月26日(火)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
8:30	農村ふれあい体験	8:00	農村ふれあい体験		
12:00	昼食	10:30	さのさかスキー場駐車場集合		
13:30	農作業(稲刈り)体験	11:00	ウィング21到着		
16:30	入浴	11:30	退村式・お別れ会		
18:30	特産品夕食会	12:20	エスカルプラザ到着・昼食		
19:30	農家の方との交流学习会	13:10	バス出発		
21:30	班会議	17:30	学校到着・解散式(体育館)		
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 1学期の総合的な学習の時間で、担当教員の实地踏査後にセカンドスクールの概要と今後の流れの説明を行った。
- ・ 1学期の社会科の授業で、長野県の自然・気候・地理・歴史・伝統・文化・産業等について触れ、夏休みの宿題で、大町市・白馬村について、調べ学習を行い、個人新聞にまとめた。
- ・ 1学期の総合的な学習の時間で、J A大北観光課の担当の方から、白馬村や大町市の魅力や特色を紹介して頂き、セカンドスクールで行う環境保全活動や農作業（稲刈り）体験、登山、農家の方との農村ふれあい体験などの学習の意義についてお話を伺った。
- ・ 1学期の総合的な学習の時間で、仁科台中学校とのポスターセッションのために、2年生と交流学習会（2年生による校外学習事後学習のプレゼンテーション）を行った。
- ・ 仁科台中学校とのポスターセッションに向けて、武蔵野市の特色やよいところを発表できるように、夏休み期間中、行動班ごとに武蔵野市に関する調べ学習を行った。2学期に準備や練習を行い、クラスでリハーサルし、2年生にも見てもらってアドバイスをもらった。

2 事後の学習内容

- ・ 行動班ごとに、交流学習を行った仁科台中学校とお礼の手紙のやりとりを行う。
- ・ 宿舍班ごとに、お世話になった農家の方々へお礼の手紙を書く。
- ・ 保護者の方や他学年等にセカンドスクールの様子を伝えるため、行動班ごとにガイドブック（個人レポートをまとめたもの）を作成する。
- ・ 今後の総合的な学習の時間のテーマである「食育」や、進路学習の「職業調べ」などに関連させて進めていく。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八方池登山

ゴンドラとリフトを乗り継いで八方池までのトレッキングは、3000m級の白馬三山や五龍岳を間近で眺めながらの自然研究散策も兼ねる。黒菱平から上部や標高2060mにある八方池周辺は、貴重な高山植物や日本有数の蛇紋岩の産地でもある。理科や社会では植物の性質や岩石の特徴、地形などを学ぶが、この八方池登山は、実際の山岳地帯の自然に触れる活動として、よい機会であった。

2 姫川源流散策

姫川は宿泊地である白馬さのさか地区の源流から58km離れた日本海に注ぐ一級河川であり、姫川源流の湧き水は「日本の名水百選」にも指定されている。様々な動植物が生育する環境である姫川源流一帯で、湧き水を直接観察しながら五感を働かせて散策する活動は、自然の豊かさや美しさを実感できる情操教育の一助となった。

＜社会体験活動＞

1 大町市街中探訪

大町市の仁科台中学校観光講座の1年生に、大町市の商店街近隣を案内してもらい、地方の街の特色や見どころ、現状や課題などを知ることで、街づくりについて考える機会を得た。

2 仁科台中学校交流学習会

大町市と武蔵野市のお互いの地域性、歴史や伝統、文化、産業などを発表し合うことで理解を深めるためのポスターセッションを行った。今年度で3年目となり、さらに交流を強め、思考力や表現力などを培う取組ができた。

3 温泉学習会

今回、現地の温泉の専門家の方に、温泉の効能や泉質、特徴など、科学的な知識や観点から詳しくお話しして頂き、温泉に対する興味や関心、理解のきっかけとなった。

4 親海湿原環境保全活動

宿泊先の農家の方々と一緒に、親海湿原の環境保全活動（湿原固有植物を侵食する葎の駆逐作業）を行った。鎌による手刈りなので、危険を伴う刃物の適切な使い方や周りへの配慮を意識することを学んだ。今年で3年目の活動なので、学校としての伝統を実感する生徒も多かった。

＜生活・文化体験活動＞

1 塩の道ちょうじや見学

松本平から北アルプス山麓を経て新潟県糸魚川に至る千国街道は、通称「塩の道」と呼ばれ、海と陸をつなぎ、様々な物資や塩や海産物を運ぶための道となった。貴重な建築物や資料によって、宿場町として信濃大町が栄えた歴史や文化を学ぶことができる博物館であった。

2 白馬ジャンプ競技場見学

1998年の長野冬季オリンピック会場となった白馬ジャンプ競技場で、役場の方から当時のオリンピックの様子や取組についてのお話をいただき、歴史的な位置付けや今後の展望などから、オリンピック・パラリンピックの意義を実感した。また、ジャンプ台や施設内の展示品からも競技の魅力が伝わってきた。

3 農村ふれあい体験

草むしりや畑仕事、農作物の収穫などの農作業体験や、蕎麦打ち体験や郷土料理体験、小物細工づくりなど、農家民宿ごとのプログラムに従って様々な農村生活を体験し、集団生活における人と人との支え合いを学び、つながりを感じる機会となった。

4 農作業(稲刈り)体験

手刈り、コンバイン、バインダーといった3つの工程を体験し、米作りの過程を学び、食料を自給自足することの意義を考えることができた。

5 農家の方との交流学習会

農村での暮らしぶりや食育、オリパラなど多岐に渡るお話を農家の方から直接語っていただ

き、生活への影響を理解したり、特産物をいただいて交流を深めたりする有意義な時間となった。

○生徒の感想

- ・現地の仁科台中学校の生徒に大町市の街を案内してもらい、歴史のある名所や子どもたちが興味のある場所を紹介してくれて面白かった。ポスターセッションでも、お互いの発表のいいところや改善点がたくさん見つかってよかった。
- ・東京では見たことのない動物（昆虫）や植物を見ることができ、自然環境の豊かさに驚いた。
- ・普段あまり話したことのないクラスメイトと班で協力して活動したり、現地の農家の方と交流したりして、人間関係の大切さを学ぶことができた。
- ・毎日食べているご飯の食材なども、多くの人の仕事によって作られているので、感謝して食べるようにしたい。
- ・自分たちで話し合っって行動したり生活したりする必要があるので、自立心が生まれた。
- ・夏休みに大町市や白馬村の人口について調べ、現地の様子から少子高齢化を実感した。街を活性化するためにはどうすればいいかを考えていきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

一昨年から実施場所を白馬村・大町市方面に変更し、現地の中学生や農家の方との交流学習、自然体験、環境保全活動、農作業体験、施設・博物館等見学などを通して、人とのふれあいや街づくりについて学び、総合的に「市民性」を育成し、生きる力を養うための絶好の機会ともなっている。理科や社会をはじめとする各教科等の知識や、普段の学校や家庭、地域での日常生活での経験をもとに、これからの人間関係や社会生活を捉え直すきっかけともなった。今後の食育や進路学習について、意欲的に取り組むための導入としてもよい活動である。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年で3年目となる親海湿原での環境保全活動や現地の田圃での稲刈り体験は、毎年長靴が必要となり、その確保が課題であったが、今年度は学校予算を調整して貸し出しが必要な生徒への対応が十分にできた。また、今年も事前学習によって生徒が見通しをもって取り組むことができたが、その時間の確保も課題である。夏休みや放課後などにも、準備や練習を行うなどしたが、他の活動とどのように両立するか、生徒・教員ともに無理のない日程調整を検討する必要がある。



【第1日：仁科台中学校生との交流学習会】



【第4日：さのさか地区田圃での稲刈り体験】

第六中学校

長野県安曇野市

9月6日～9月10日(4泊5日)

参加人数 男子37名 女子29名
計66名

○セカンドスクールのねらい

- ・主体的に考え、行動する力を育てる。
- ・相手の気持ちを考え、協力しあう心を育てる。
- ・長野の自然、文化、産業を体験する中で様々なことを学び、見識を深める。
- ・人々との出会い・交流の中で他者とのかかわりについて学ぶ。

○日程表

9月6日(水)		9月7日(木)		9月8日(金)	
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	宿舎到着 開校式	8:40	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:35	上高地ハイキング
13:30	オリエンテーリング	10:00	ちひろ美術館・田淵行雄記念館見学	12:00	河童橋 休憩
19:00	夕食	12:30	昼食	12:30	昼食
20:00	農作業体験講義	14:00	わさび掘り体験	13:20	上高地バスターミナル出発
21:30	部屋班・行動班係会議		わさび漬け作り体験	15:00	宿舎到着
22:30	消灯	17:00	夕食	19:00	夕食
		21:30	部屋班・行動班係会議	20:00	キャンプファイヤー
		22:30	消灯	21:45	部屋班・行動班係会議
				22:30	消灯
9月9日(土)		9月10日(日)			
6:30	起床	8:00	集合		
7:00	朝食		閉校式		
8:30	民泊対面式	8:30	朝食		
9:00	各農家へ	9:00	出発		
10:00	安曇野生活体験	10:00	クラフト体験 あづみの公園		
11:30	昼食作り	11:30	昼食		
14:00	安曇野生活体験	12:30	あづみの公園出発		
17:30	夕食作り	17:30	二小前しろがね公園到着・解散		
19:00	民泊先の方々と交流				
22:30	民泊				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・安曇野市についての知識と理解を深めた。
- ・「地域、産業、自然」という大きな総合学習のテーマを設け、その中から、安曇野市や長野県についてのものを選択し、事前の調べ学習を実施した。
- ・民泊でお世話になる家庭宛てに、自己紹介文を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように手紙文を書いた。

2 事後の学習内容

- ・民泊でお世話になった家庭宛てに、お礼状を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように、なおかつ相手に誠意が伝わるように手紙文を書いた。
- ・5日間で学習したこと、体験したことを行動班ごとにポスターにまとめ、ポスターセッションを行う。
- ・5日間で学習したことや体験したことの中からテーマを決め、レポートを作成する。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 上高地ハイキング

大正池から班ごとに移動を開始し、河童橋まで移動した。河童橋で休憩後、明神橋まで向かい、そこで昼食をとった。その後も予定通り、右岸コース、左岸コースに別れ、明神橋まで移動し、河童橋に帰着後、宿舎に戻った。班長を中心に各個人の役割を意識しながら行動し、集団行動を学ぶことができた。同時に、普段味わえない美しい景色など、多くの生徒が大自然の壮大さを心に残したようである。

<社会体験活動>

1 農業体験

1日目の夜に農業体験講義として、「稲作農業」と「わさび」についてお話を伺った。JAあづみの職員の方、わさび農家の方をお招きし、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義を受けた。稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具など、詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、わかりやすく説明していただいた。どの生徒もメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いていた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で2日目の体験活動に臨めるため、農業・作物に対しての意識が変わった生徒が多くいたようである。



【稲刈り体験の様子】

また、わさび掘りも冷たい水に素足で入り実際に体験することにより、わさびはきれいな冷たい水でなければ育たないということを身をもって体験することができた。

2 安曇野オリエンテーリング

ビレッジ安曇野を起点として、豊科市街地の郷土博物館、近代美術館およびビレッジ安曇野近くの憩いの池をめぐるオリエンテーリングを実施した。途中にある道祖神を多く見つけることを課題とし、安曇野の田園風景を楽しんだ。また、立ち寄り先の郷土博物館、近代美術館でも美術品や工芸品に触れることができた。

3 クラフト体験

国営アルプスあづみの公園大町松川地区において、「とろとろ石器作り」を行った。白、黒、ピンクの石を生徒が選択し、その石を削り自分のデザインした形に仕上げ、アクセサリーを作る体験である。各自時間内で一生懸命取り組み、思い思いの作品を作っていた。

<生活・文化体験活動>

1 わさび漬け作り体験

信州わさび農業協同組合の組合長自らの指導によるわさび漬け作り体験を行った。わさびを刻み、酒粕と調味料を合わせ、わさび漬けができるまでの体験活動を行った。作ったわさび漬けは各自持ち帰り、安曇野の特産物を知ることができた。



【わさび漬け作り体験の様子】

2 民泊体験

セカンドスクール中の土曜日、日曜日を使い、安曇野の農家を中心とした民泊体験を行った。天候にも恵まれ、それぞれの家庭での農作業と食事作り、その他体験活動を楽しく行うことができた。実際に宿泊することにより安曇野の方との交流も十分に図れたようである。

○生徒の感想

- ・ 空気がおいしい！水がきれい！人々が優しい！安曇野にいて飽きない！
あまり仲良くなかった人とも仲良くなることができた。
- ・ うまくいった時もうまくいかなかった時も、みんなと協力して何とかできていた。
ちひろ美術館など自分の身近な絵などが見ることができて、とてもうれしかった。
部屋だけでも楽しい時間となっていた。
- ・ 違う小学校から来た人たちと仲良くなれてよかった。民泊で稲からお米をとったりしたのが楽しかった。キャンプファイヤーを実行委員の人が引っ張ってくれたりして、みんなでスローガンが達成できたと思う。
- ・ 民泊が楽しかった。民泊の家族の方々も本当に優しく、ご飯も美味しかった。ぜひまた行きたいと思う。

- ・人間と自然は密接な関係にあることがわかった。自然をもっと増やしていく活動も必要だと思った。
- ・1日目のオリエンテーリングや3日目の上高地ハイキングを通じて、お互いに励ましあったり、協力したりすることの大切さが身に染みてわかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

主に総合的な学習の時間を使い、事前学習、事後学習に取り組んだ。事後学習では、レポート作成も行った。

事前活動では、長野・安曇野について、調べ学習を行い、各自興味を持ち、調べたことをまとめ、学年で1つの冊子を作成した。

事後学習では実際に経験してきたことを基に班でポスターを作り、ポスターセッションを行った。ポスターセッションでは、5日間で体験・経験したことの中から、自らの興味・関心に基づいてテーマ設定を行った。

レポート作成では、ポスターセッションと同じく、5日間で体験・経験したことの中やポスターセッションを行った際に新たに生まれた疑問の中から、自らの興味・関心に基づいてテーマ設定を行った。調べ学習を進め、3学期に、まとめ、考察等を行い、クラス内で発表した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

生徒も教員も様々な体験をすることができ、楽しく、充実した5日間を過ごすことができた。5日間の生活のうち、班行動を中心として生活を送ることにより、特に自主自立の力が高まったように感じる。時計を見て5分前行動を心掛ける、空いた時間を翌日の準備に活用するなどの行動が見られた。これらの力はファーストスクールである日々の学校生活にも活かされ、授業の準備等がスムーズに行われるようになった。

しかしその一方で、教員は4月から様々な行事と並行して準備を進めており、準備による勤務時間の増加は大変大きな課題であると考えられる。

今年度は天候が芳しくなく、稲刈りは一部実施となったが、昨年に引き続き、稲を持ち帰らせていただくことができ良い経験となった。前年度の課題であった、1日目、3日目及び5日目の生徒の水分補給の方法について、1日目はビレッジ到着後すぐの水分補給、3日目と5日目はペットボトル飲料を弁当につけてもらうことで解決した。5日目のクラフト体験は帰路と逆方向に向かわなければならず渋滞のおそれもあるため、次年度に向けて変更も視野に入れていきたい。

フシセカンドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月20日～9月22日(2泊3日)

参加人数 男子31名 女子29名
計60名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・初めての集団宿泊学習を迎えるにあたり、学校から近距離の場所で活動し、様々な体験をすることで、集団宿泊学習に慣れる。
- ・富士山周辺の地形や生息している動植物について、世界遺産センターや湧水の里水族館での学習や、ハイキングなどの自然探索を通して、富士山の歴史や成り立ち、周辺の特徴的な自然環境についての理解を深める。
- ・富士山及びその周辺の自然環境と、人々の暮らしや思想とのつながりについて考えさせ、世界文化遺産に登録された富士山に関する歴史的なことについて理解を深める。

○日程表

9月20日(水)		9月21日(木)		9月22日(金)	
7:45	校庭集合	6:15	起床 検温	6:15	起床 検温
8:15	出発式	6:45	朝会	6:45	朝会
	談合坂SAにて休憩	7:30	朝食	7:30	朝食
10:15	富士山世界遺産センター着 見学	9:00	紅葉台入口着 紅葉台・三湖台ハイキング	8:00	清掃 出発準備
12:00	富士山五合目着 昼食 御中道コーストレッキング	11:30	野鳥の森公園着 昼食	9:00	閉校式
14:20	奥庭駐車場着	12:30	樹海ハイキング	10:00	富士山レーダードーム館着 見学
15:30	宿舎着 開校式	13:45	富岳風穴見学	11:30	さかな公園着 昼食
16:30	入浴	15:15	宿舎着	12:30	富士湧水の里水族館見学
18:00	夕食	16:30	入浴	13:45	出発
19:00	学習の記録	18:00	夕食		談合坂SAにて休憩
20:00	就寝準備 健康観察	19:00	学習の記録	16:50	学校着 帰校式
21:00	消灯	20:00	就寝準備 健康観察		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前(1学期)に、昨年度4年生のプレセカンドスクール報告会で学んだことを想起させた。また、日程表や昨年度のプレセカンドスクールの写真を見せ、興

味をもったことなどについて話し合い、そこから一人一人大まかな課題を設定した。

夏季休業中には富士山についての概要を可能な範囲で調べ、2学期からは具体的に調べてみたいことを絞り込み、課題の解決を図るため、調査活動を進めた。活動に際しては図書室の本に加え、市内の図書館から本を借りるなどしながら情報を集めた。その後、集めた情報を整理し、互いに発表し合う活動を行った。情報を共有したことで、現地で調べてみたいことを新たに見付け、どの活動でどんなことが学べるか、見通しをもつことができるようになった児童が増えた。

- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて指導した。また、養護教諭と連携し、保健領域「育ちゆく体とわたし」の授業を行い、心身の発達に伴った健全かつ快適な過ごし方について指導した。

2 事後の学習内容

- ・3日間で学んだことや自身の成長を作文にまとめ、読み合う活動を行った。互いに読み合うことで、宿泊行事に対する考え方や適切な過ごし方などについてより深くふり返ることができた。また、学習したことを来年4年生になる、現在の3年生にも伝えたいという思いから、「プレセカンドスクール発表会をしよう」という活動を設定した。学級内で6グループに分かれ、3年生にプレセカンドスクールでの感動を伝えるために、話す順番や写真の見せ方など発表の仕方を工夫し、総合的な学習の時間を用いて発表会を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

五合目から行うトレッキングに向けて、車中では雲や地面、植物の様子の変化について注目させた。天気もよく視界が開けていたこともあり、児童は雲の流れや、すそ野の樹海の広がりにも注目して、熱心に観察していた。

五合目では山頂から吹き降ろす風が強く、気温も山麓よりずっと低いことを体感した。トレッキングでは、足元がふだん見慣れた地面とは違うことや、木々が外側に向かって反りながら生えていることなど、気付いたことをそれぞれ伝え合い、情報を共有しながら歩いた。そこから五合目ではかろうじて低木やコケ類、キノコが厳しい環境の中で生育していることを、実感をもって学習することができた。



【御中道コースのトレッキング】

2 紅葉台・三湖台ハイキング

紅葉台の入口から三湖台にかけて整備されたコースを歩いた。展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望でき、児童はそれらの位置関係から富士山の噴火に伴う溶岩流によって、樹海や富士五湖が成り立ったことなど、事前学習で身に付けた知識を確認し合っていた。



【三湖台から眺める青木ヶ原樹海と西湖】

3 富岳風穴見学・青木ヶ原樹海ハイキング

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学は3名のネイチャーガイドが同行のもと行った。樹海ハイキングでは、ガイドから植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態についてくわしく説明していただいた。動物や樹木だけでなく、朽ちた木、キノコ類、コケ類、シダ類や微生物など、全てが互いに関係し豊かな自然が育まれていることを知り、自然を大切にする意識を高めた。富岳風穴の見学では、風穴などの洞窟は溶岩の影響によって形成されたことは児童も事前学習で知っていたが、溶岩棚や縄状溶岩などを実際に見学すると自然の織り成す世界に改めて驚いた様子であった。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター見学

高速道路から降り、初めに世界遺産センターに到着し、富士山の形成について大型スクリーンによるビデオを視聴した。その後児童は、自分の課題に沿って館内にある様々な展示資料から情報を集め、熱心にメモを取る姿が見られた。

2 富士山レーダードーム館

事前学習の中で、映像資料を用いて富士山レーダーを作るために努力した人々の願いや苦勞を学習していたこともあり、展示されている難しい資料にも興味深そうに読み入っていた。また、レーダードーム館から全員に一枚ずつワークシートが配布され、レーダードームに関する問題の答えを探しながら学習を進めることができた。答えが展示資料の中で必ず説明されているので、児童は説明をよく読みながら情報を集め、知識を広げた。

3 山梨県立富士湧水の里水族館

水生に限らず富士山周辺の多くの動植物が展示されていた。展示はいずれも回遊水槽や流水水槽など自然に近い環境を整え、工夫を凝らしていた。また、ブラウジングコーナーやオープンラボコーナーなども充実しており、児童は様々な角度から観察や調査を進めることができた。最後にシアターホール



【水族館内の回遊水槽】

で「山梨にすむ魚たち」というオリジナルのハイビジョン映像を視聴した。パノラマスクリーンに映し出された映像はとても迫力があり、4年生にも十分理解できる内容で構成されていた。

○児童の感想

- ・御中道では、長袖の上に雨具を着てもまだ寒くて驚いた。五合目でもこんなに寒いことから、頂上でレーダードームを作った人たちは本当に大変だったと思う。
- ・樹海では水分をたくわえる土が少ないが、コケが土の代わりに水分をたくわえて、木の生長を助けていることを知って、生き物の強さに感動した。
- ・東京はどっちを向いても建物ばかりの景色だけど、山梨はどちらを向いても山ばかりで驚いた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでは「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って一人一人が課題を決め、現地でグループに分かれて調査活動や発表を行う。ファーストスクールと異なり、現地学習では、学習形態が状況や内容に応じて変化することや、計画の見直しが必要になることもある。第4学年から「事前学習ー現地学習ー事後学習」という大きな活動の流れを押さえ、次年度からスムーズに学習活動に取り組むことができるようにしたいと考えている。
- ・プレセカンドスクールでは教員も含めて全員がひとつの宿舎で生活をするのに対し、セカンドスクールでは分宿となるため、児童が自分たちの力で班の全員がよりよく生活するための工夫を考えていくこととなる。そのため、今回のプレセカンドスクールでは、荷物の整理整頓、入浴や食事、就寝前の過ごし方など生活面に関する知識を身に付けさせるとともに、教師が教えるだけでなく、児童同士での話し合いによる課題解決の場面も積極的に設けた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・朝の会を河口湖畔で行うこととした。朝の静かな湖畔と、そこに差し込む朝日でとてもさわやかな朝の会となった。また、湖畔までの移動を教員が引率せず、班ごとにまとまって移動する経験は、班ごとに分宿する次年度のセカンドスクールにも生かすことができる。
- ・富士山の事前学習に関して、「日本一高い山である。」「世界遺産に登録された。」などをおさえるにとどまり、学習面での必要感や探究意欲を高めることが十分にできなかった。様々な観点から見た富士山について、より理解を深めることで日本人として富士山について詳しく調べることの意義を感じさせることも重要であると感じた。

第二小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月11日～10月13日(2泊3日)

参加人数 男子40名 女子40名
計80名

○プレセカンドスクールねらい

- ・山梨県河口湖町のことについて様々な観点から課題をもって、事前調べ学習をし、体験活動を行うことによって、問題解決力を育てる。
- ・3日間の宿泊体験を通して、自分のことは自分でする態度や習慣を身に付け自立心を養う。
- ・集団行動を通して、みんなで協力し合う大切さを学ばせる。

○日程表

10月11日(水)		10月12日(木)		10月13日(金)	
7:40	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
7:50	出発式	6:30	体操・朝会・河口湖散策	6:30	朝会・体操・河口湖散策
8:00	バス出発	7:00	朝食	7:30	朝食
10:15	西湖公民館 (ほうとう作り体験)	9:00	富岳風穴	9:15	閉校式
11:45	昼食(ほうとう)	9:30	樹海ハイキング	10:30	勝沼ぶどう畑農業体験
13:30	河口湖フィールドセンター ガイドウォーク クラフト体験	12:00	昼食(三湖台)	13:00	昼食
16:20	開校式	14:00	紅葉台駐車場発	13:30	扇状地見学
16:40	室長会議	14:30	富士山世界遺産センター	16:00	学校着、解散式
17:00	入浴	16:50	入浴		
18:30	夕食	18:30	夕食		
19:30	係会議 学習の記録・葉書書き	19:30	係会議		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊学習のため、去年の活動の様子を写真や動画で見せながら、活動内容について学習した。全体を通して、プレセカンドスクールを通してどんな力を身に着けるのかを伝え、達成するための係活動を決め、準備を行った。

- ・富士山とその周辺の特色ある自然、世界遺産になった理由、山梨県の郷土料理や農産物など、実際に行く場所や体験する内容について項目ごとに調べ、関心意欲を高め、知識を深めていくようにした。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で調べてきたことをもとに、現地で体験活動を行った。一連の活動を通して、自分のテーマを決め、模造紙、紙芝居、模型等を使っての説明を個々の課題の形式に合わせてまとめている。そして、それらをもとに発表会を行う。
- ・3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を、グループごとにテーマを決めて行う予定である。来年度初めて行く宿泊学習がどういったものか、3年生が見通しをもてるような発表にする。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ガイドウォーク・複合型溶岩樹型観察(河口湖フィールドセンター)

ガイドウォークでは、14人程度の小グループに分かれて樹海の中を歩き、溶岩樹型を観察した。溶岩樹型の作られ方や、特徴的な洞窟型の形状、富士山周辺で見られる生き物や特色ある植物などを、ガイドの方の話を聞きながら実際に樹型の中に入ったり、触ってみたりして学習することができた。

2 樹海ハイキング(風穴～紅葉台展望台～三湖台)

富岳風穴では、洞窟内外の気温差を体感し、天然の冷蔵庫として活用されていたことを、体で感じながら理解することができた。樹海ハイキングでは、ネイチャーガイドの方の話を聞きながら、樹海の特徴である原生林の様子や、特有の地形や植物について学ぶことができた。また、富士山の噴火の歴史を、溶岩の様子や地形の変化から実感し、学びながらハイキングすることができた。



【三湖台】

3 河口湖散策

2日目と3日目の朝会后、湖畔を観察しながら歩いた。2日目は晴れて山々が湖面に移る様子、3日目は少し霧掛かった幻想的な風景等を見ることで、自然の美しさを感じとることができた。武蔵野近辺には湖がないため、大きさに驚くとともに、その美しさに感動する児童もいた。

<社会体験活動>

1 富士の歴史や自然について(富士山世界遺産センター)

南館では、ガイドの方に詳しく案内していただき、富士山の自然文化遺産としての価値やすばらしさについてのお話を伺った。富士山と人々との関わりや世界遺産に登録されるまでの歩

みについて学び、なぜ富士山が古来より日本人から親しまれているのについて考えることができた。北館では、小グループに分かれて、富士山の「自然」を中心とした展示内容を見て回った。また、大型スクリーンで噴火の歴史、自然、世界遺産についての映像を見て、メモを取りながら進んで学んでいた。今年は、さらに案内後に 20 分間の課題別学習の時間をとり、自らがより調べたい内容に合わせて調べを進めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験(西湖公民館)

ほうとう作り体験では、地元の方々に丁寧に教えていただきながら、郷土料理であるほうとうの麺を作った。仲間と協力してほうとうを作ったことで、「みんなで生地を踏んで作るのが楽しかった。」「家でも作りたい。」という感想があがった。また、今年は食後にまとめの時間をとったことで、ほうとう作り体験で学んだことを振り返り、体験の感動をすぐに記録することができた。



【ほうとう作り】

2 クラフト体験(河口湖フィールドセンター)

フィールドセンターでは、バードコールまたはペーパーウエイトから子どもたちが選択し、クラフト体験を行った。バードコール作りでは、普段使わない小刀を使って木の表面を削る作業があったが、指導者の丁寧な指示を聞きながら、安全に気を付けて熱心に作業に取り組んでいた。どちらの体験でも、自然の物を使って、物作りをする楽しさを実感することができた。

3 農業体験(ぶどう畑)

勝沼のぶどう畑における農業体験では、収穫・草取り・かさ拭き体験を行った。事前学習でも子どもたちは熱心にぶどうについて調べていたため、農家の方の普段どのような思いや願いから仕事をしているのかについてのお話も、興味関心をもって聞いていた。収穫体験では、房が落ちないように、互いに手伝いながら収穫することができた。また、かさ拭きや草取りなども、グループごとに協力して、意欲的に取り組んでいた。今年は、年に一度しかない葡萄酒の作業工程も見学し、加工品のことや、地域の人々が協力して作っている姿も見学できた。

○児童の感想

- ・ほうとう作りでは、みんなで協力してめんを作り、味付けなどをして、食べました。自分たちで作ったからこそ、おいしいと思いました。家でも家族に作ってあげたいです。
- ・樹海ハイキングの山道が、とても大変でした。友達とリュックを後ろから支え合って登りました。だからこそ、頂上についた時の景色がとってもきれいに感じました。
- ・ホテルでは、時間をみて行動したり、自分の仕事をしたり、自分の気持ちだけでなく友達のことを考えて生活したりするので大変でした。けれど、班長としてのやりがいを感じました。

○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールを通して、「自分たちのことは自分たちでする」ことを目標に、準備を進めた。実際に2泊3日を過ごす中で、自分の身の回りのこと以外にも、係として仲間へ声をかけたり、次の予定や時間を意識したりなど、見通しを立てて行動することの大切さを強く感じていた。「協力し合う大切さ」については、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができること等を実感していた。来年度のセカンドスクールは分宿となり、宿泊形態が異なるが、プレセカンドスクールで培った「自立心」と「仲間との協力」をもとに、セカンドスクールも仲間とともに成功させたいという意欲が高まった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ほうとう作り体験や世界遺産センターでは、振り返りの時間や学習する時間を昨年度よりも多くとった。そのことで、現地の方やガイドの方の説明から学ぶだけでなく、自ら進んで学習し、メモをとったり、学んだことをすぐに振り返ったりすることができた。
- ・ホテルでの過ごし方は昨年度の反省を生かし、開校式で再度ルールの確認を行い、さらに到着後すぐに室長会議を開き、マナー意識を呼びかけた。しかし、貸し切りで、初めての宿泊により気持ちが高ぶり、マナーを守って生活できない児童もいた。なぜマナーを守って過ごすことが大切なのかを見通しをもって考えさせることで、児童自身が守ろうとする意欲をより高める必要がある。

第三小学校

新潟県南魚沼市

5月24日～5月26日(2泊3日)

参加人数 男子40名 女子28名
計68名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・プレセカンドスクールについて知り、興味や関心をもつ。
- ・調べ学習の基礎となるパソコン操作や資料の読み取りができる。
- ・資料を適切に選択し、自分なりにまとめることができる。
- ・目的や相手に応じて書き方や伝え方を工夫することができる。

○日程表

5月24日(水)		5月25日(木)		5月26日(金)	
8:00	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:30	出発	6:30	おにぎり作り	7:30	朝食・荷物整理
11:15	南魚沼到着	7:30	朝食	8:00	片付け・宿の片付け
11:30	開校式	8:20	朝の会	9:00	機織り体験
12:15	各民宿 避難訓練	9:00	上越国際スキー場トレッキング	12:30	昼食
12:30	昼食	11:30	各民宿で昼食	13:30	閉校式
14:00	田植え体験	12:30	座禅体験・見学	13:50	現地出発
16:30	検温・入浴	14:00	農業体験	16:30	学校到着・帰校式
17:30	ぬか釜体験	16:00	交流会準備		
20:00	交流会準備	16:30	入浴など		
20:30	学習の記録	19:30	交流会・学習の記録		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・実施前に、昨年の活動の様子を写真で見ながら2泊3日の流れを確認し、意欲をもたせた。
- ・南魚沼市の地理、歴史や伝統、暮らしなど、興味をもったことについて調べ学習を行い、課題を追求した。
- ・班長、副班長、生活係などの係ごとに集まり、仕事の確認をした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中で学んだことや今後の生活に生かしたいことをふりかえり作文にまとめた。
- ・総合的な活動の時間に3年生に向け、「プレセカンドスクールを伝えよう」という活動を行った。グループごとに発表方法を考え、発表した。
- ・11月に民宿の方々に来ていただき、自分たちで田植えをした稲から収穫した米をぬか釜で炊いて食べる活動を体験した。お世話になった民宿の方々と再会して、感謝の気持ちを伝えた。



【伝える会の様子】

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 上越国際スキー場トレッキング

雨天のため、短いコースでの実施となったが、景色や、植物、そして空気のよさなどから自然に親しむことができ、達成感を味わうことができた。

宿の方々などが現地の方にガイドをして頂いた。植物や景色などについて自分たちではなかなか気付けないことを教えてもらい、子どもたちも真剣に聞いていて、充実した内容となった。

2 田植え体験

民宿の方に講師になっていただき、田植え体験を行った。植え方を教わり、実際に体験してみると、意外に上手く植えられなかったり、田んぼに足をとられてしまったり、思うようにできない子どもが多くいた。田植え体験を通して、米作りの大変さや農家の方々の工夫などを知り、食べ物に感謝する気持ちをもつことができた。

また、体験の前に、自分たちが植えた苗が育ったものを、秋に収穫して食べることができると知り、より意欲的に体験に行った。



【田植え体験の様子】

<社会体験活動>

1 塩沢つむぎ機織り体験・雁木通り散策

塩沢つむぎ機織り体験と雁木通りの散策をクラスごとに交代で行った。越後地方に伝わる伝統工芸の塩沢つむぎについて、歴史や織り方、糸の種類、生地ができるまでの行程について説明していただき、機織り体験を行った。糸を一本一本丁寧につむぎながら織ることができた。雁木通りの散策では、地元のガイドに案内して頂き、街並みや雪国の暮らしの工夫を知ることができた。

2 民宿の方との交流会

民宿の方々との交流会を行った。子どもたちが主催をして、事前に学校で準備をした出し物や運動会で踊ったエイサーを披露し、最後には、感謝の気持ちを表すためにメッセージカードや色紙などのプレゼントを渡した。短い期間であったが、子どもたちなりに工夫をして感謝の気持ちを表すとともに民宿の方々と交流を深めるよい機会になった。

○児童の感想

- ・私が一番体験して身にしみた事が一日目の「田植え体験」です。どろが重たくて、最初の方は足がスローモーションになっていたほどでした。枝などが交っていて痛かったです。イネが曲がらないよう、真っすぐ力を入れてやりました。自分の稲になるのはどれか、楽しみです。
このようないい体験ができたので、来年は一週間と長いので、もっとおもしろくなりそうです。
- ・私は、プレセカンドスクールで宿にとまった三日間が楽しかったです。なぜかというとお父さん、お母さんがやさしかったからです。また行きたいです。五年生になったら一週間になるので、がんばりたいです。
- ・ぼくが一番思い出にのこったのは、朝と夜に出てくる、美味しいご飯です。
えいようバランスもよく、とくにコロッケと米と味噌汁と魚と納豆が美味しかったです。おかげで三日間、元気に、面白く過ごせました。
ほかにもはたおり体験やざぜん体験、田植え体験もあり、がんばりました。たくさん体験できたことに感謝します。楽しかったです。

○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールでは、6つの班に分かれてそれぞれの宿に宿泊した。その中で、生活のルールを守ったり、仲間と協力して生活したりする体験ができた。次年度のセカンドスクールも同様に分宿をするので、今年度の宿泊体験や集団生活で学んだことを十分に生かすことができる。また、宿ごとに決める、班長・掃除係・食事係などの仕事内容も同様なので、今年度の改善点をセカンドスクールに生かす。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・グループ活動を通して、友達同士で声を掛け合い、互いの関係が深まった。集団として時間やルールを守るという意識をもつことができた。
- ・民宿や現地の方々、指導員さんなど多くの大人と関わりをもつことで、様々な人に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもって生活するようになった。
- ・帰校後1週間後に運動会であった。宿ごとの感謝の会で、運動会の表現「エイサー」を披露することができてよかった。
- ・2泊3日の期間では、宿の方々との交流時間が十分に取れるとは言えない。
- ・宿泊する施設の数を減らし、6つの宿にした。宿の様子を見に行きやすく良かった。

第四小学校

群馬県利根郡片品村

9月6日～9月8日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子38名
計72名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・宿の方々をはじめ、地元の方々との触れ合いを通じて知りたいこと、調べたいことなどの課題を見付け、解決のために追究する。
- ・自然に親しみ、自分から進んで体験することによって、知識だけでなく、体感を伴った理解をする。
また、課題解決の方法を知り、自ら解決できる力を付けることができる。
- ・児童同士で関わり合う機会を通して、相手を思いやる心を持ち、コミュニケーション能力を伸ばす。

○日程表

9月6日(水)		9月7日(木)		9月8日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村到着・開校式	8:30	各宿出発	8:00	荷物整理・清掃
12:00	昼食	9:30	尾瀬ハイキング出発	8:30	うどん作り体験
12:40	各宿出発	12:20	山の鼻・昼食	11:00	昼食
13:00	農作業体験	14:35	尾瀬ぶらり館見学	12:15	閉校式
15:45	各宿に移動し顔合わせ	15:35	各宿着	13:00	片品村出発
16:30	宿周辺散策	15:55	宿の方へお礼の手紙を書く	16:00	学校着・到着式・解散
17:00	入浴	17:00	入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食		
18:50	健康観察	18:50	健康観察		
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	消灯	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡片品村について、パンフレットや図書資料、インターネット資料を活用して調べ学習を行った。個々の課題設定は「尾瀬の動植物」「片品村の暮らし・名産品」など実際に

訪れた際に見たいもの、知りたいことをテーマに行った。調べた情報を紙面にまとめ、ガイドブックを作成した。作成したものを読み合い、理解を深めた。

- ・しおりの活用の仕方とプレセカンドスクールのめあて、スケジュールや持ち物について、しおりを全体で読み合いながら確認した。また、係ごとに集まり、宿における役割の確認を行った。
- ・集団での宿泊に関する心構えや約束について、指導員を中心に児童同士で話し合いながらグループごとのめあてを立てた。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動について振り返り、作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールでの思い出を俳句・川柳に表現し、学校だより「だいし」に掲載した。
- ・プレセカンドスクールに対する3年生の興味・関心を高めることを目的として、現地での体験等を新聞にまとめた。
- ・2学期末に行った3年生への報告会では、課題別に班を編成し内容を考え、ポスターや寸劇等で発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 農作業体験、環境保全型農業についてのお話

遊楽木舎にて、「トマトの収穫体験」、「雑草ぬき体験」、「土や肥料についての学習」を行った。化学肥料や農薬を使わないで土づくりを行う環境保全型農業への興味・関心が広がった。今年度は、天候の都合でトウモロコシ収穫ではなくトマトの収穫体験を行った。収穫体験後にトマトの出荷場を訪れ、流通の仕組みを学ぶことができた。収穫から出荷までを流れで知ることができた。自然との共存や土・水の大切さ等、児童らにとってよい学びとなった。

2 尾瀬ハイキング

小雨が降る中、霧がかかる尾瀬の自然の中を散策した。今年度から尾瀬ガイド資格を持つガイドが1班に1人付いたことで、足元が不安定な中でも子どもは安定したペースで進んでいくことができた。雨天により、牛首までは行くことができなかったが、ガイドの方から植物や生き物についての説明をじっくり、詳しく聞きながら歩くことができ、豊かな自然を感じていた。帰路は上り坂が続いたが、ガイドの方のお話を聞いたり、友達同士励ましの声を掛け合ったりすると、全員無事に鳩待峠(はとまちとうげ)まで歩ききることができた。



【尾瀬ハイキング体験】

<社会体験活動>

1 うどん作り体験

事前に宿の方に小麦粉からのうどんのたねづくりの体験をお願いし、全ての児童が小麦粉からのうどん作りを体験した。粉からうどんを作るという体験は、ほとんどの児童が初めてであったため、活動中、歓声や驚きの声がたくさん聞かれた。「手でこねる」「足で踏む」「平たく伸ばす」「麺を切る」といった4つの過程を、宿のお父さん、お母さんが付き添い、安全に行うことができた。



【うどん作り体験】

2泊3日の間に宿の方ともすっかり打ち解け、よく説明を聞き、会話を楽しみながら温かい雰囲気の中で体験活動をすることができた。できあがったうどんを食べている表情は、どの子どもも充実しており、自分で作ったものを食べる充実感や友達と協力して作ったおいしさを実感することができた。

○児童の感想

- ・農業体験では、同じ土でも栄養分が違うことで土のやわらかさや色が変わることを学びました。また、草むしりをしないと植物の間で病気が生まれることも知りました。草むしりをした後は軍手が真っ黒になったのでおどろきました。
- ・ハイキングでは尾瀬でしか見られないような貴重な植物を見られました。ガイドさんから、くろもみじの木が、つまようじに使われていることや、冬には雪がとても深く積もることなどいろいろなことを聞き、学びました。また行きたいです。
- ・一番楽しかったことは、うどん作りです。今まで袋の中に入っているうどんは作ったことがあったけれど、小麦粉からうどんを作ったことははじめてでした。自分たちで作ったうどんはとてもおいしかったです。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールに合わせて、プレセカンドスクールでも分宿制を取り入れている。短期間の宿泊体験であっても、宿の方々との触れ合いを大切にする心や、すすんで自然と親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置き活動に取り組みませた。今後も基礎的な集団生活を学ばせ、セカンドスクールにつなげていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・トマトに適した土づくりを、ビニールハウスの草取り体験、収穫体験、選果場の見学等を通して生産から流通への一連の流れを学習することができた。
- ・農作業体験は、3つのグループに分かれ、一作業あたり30分程度の体験を行った。ゆとりのある時間設定だったため、来年度も同じような時間設定、活動で継続する。

- ・昨年度、野外活動にふさわしい服装で参加することができなかった児童がいたため、しおりにイラストを入れ、保護者説明会で着用する服装や持ち物について説明し、準備の徹底を図った。次年度は、実物を提示することで更に活動の目的にふさわしい服装や持ち物の徹底を行う。
- ・1班に1人、尾瀬観光ガイド資格のある方に案内してもらった。少人数グループでの散策となったため、尾瀬の動植物の説明を受け、学びを深めながら安全にハイキングを行うことができた。次年度も引き続きガイドを依頼する。
- ・尾瀬観光の案内で学びを進めながら安全にハイキングも行うことができた反面、丁寧な説明や立ち止まったの活動等によって時間が足りなくなってしまった。2日目の行程を見直し、時間設定をゆとりのあるものとする。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月27日～9月29日(2泊3日)

参加人数 男子 43名 女子 37名
計 80名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山を含めた山中湖付近の自然について、現地で実際に見たり聞いたりしながら学習することを通して、他教科に生かすことができるようにする。
- ・集団生活の決まりを守り、友達と活動することを通して、共に協力して生活しようとする態度を育てる。
- ・大自然の中で豊かな経験を積み、心身を鍛え、感性を高め、学んだことを学習や生活に進んで生かすことができるようにする。
- ・総合的な学習の時間の活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。

○日程表

9月27日(水)		9月28日(木)		9月29日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山世界遺産センター	8:40	荷物整理	8:15	大掃除・荷物整理
12:00	富士山五合目着・昼食	9:10	屋内ネイチャーラリー	9:30	閉校式
12:30	富士山トレッキング	11:40	昼食	9:50	宿舎発
15:45	宿舎着	12:30	宿舎発	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
19:00	絵はがき作成 学習のまとめ	13:00	さかな公園	12:00	昼食(手作りほうとう)
19:45	健康観察・係活動	14:05	交流プラザきらら (山中湖畔散策)	12:45	忍野八海見学着
21:30	就寝	15:00	宿舎着	13:20	忍野村発
		19:00	室内レク	16:00	学校着・帰校式
		19:45	健康観察・係活動		
		21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然との触れあい～」をテーマにかかげ、富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の成り立ち、富士山の自然、富士山のごみ問題などがあり、テーマごとに調べた。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをプレセカンドスクールマイガイドブックとしてまとめ、友達と交流した。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、新聞でまとめた。
- ・帰校後、係ごとに、反省や感想を出し合った。その内容を今後の学校生活に生かすことを確認して終えた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

解説員により、武蔵野市では見られない珍しい木々や植物について詳しい説明を受けた。森林限界を実際に目で見て確認することができた。また、磁石を用いた簡単な実験を通して、溶岩の性質について学習することができた。10人程度の班に1人の解説員がついたことにより一人一人の質問にも丁寧に答えていただけた。



【富士山トレッキングの様子】

2 ネイチャーラリー

雨天のため、宿舎の体育館で行った。8つのコーナー（やり投げ、匂い当てクイズ、ネットくぐり、サルの重さ当て、魚釣り、富士山クイズ、竹ぼっくり、木の実を探せ）を班ごとに順番にまわり、体を動かしたり体験したりすることで、自然に触れることができた。後半は、富士山周辺の野生動物の講義を受けた。野生動物と共に生きていくためにどうしたらよいのかを考えることができた。

3 忍野八海見学

クラスごとに違うルートで見学した。ガイドの方より池の名前の由来や歴史などについて詳しい説明を受け、興味深く聞いていた。児童も事前学習で忍野八海について学んでおり、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

<学習体験活動>

1 富士山世界遺産センター

30分の環境学習プログラムにおいて、富士山レンジャーの方から富士山の環境についての講義を受けた。富士山と東京スカイツリーとを比較したり、クイズに答えたりするなど楽しみながら講義を受けることができた。また、富士山が抱えるごみ問題の現状を知ることができた。私たちが抱える課題を理解した上で、活動をスタートすることができたことは有意義であった。

2 さかな公園

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。児童が普段行くような海水魚の水族館ではなく、淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあった。事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚に感動したりすることができた。シアターで「アユの冒険」の映像資料を観たり、生き物を実際に触る体験活動をしたりすることで、より富士五湖や周辺の川に住む魚へ理解や興味が深まった。

<生活体験活動>

ほうとう作り

クラスごとに、2つの民宿に分かれて活動を行った。民宿の方に教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。できあがったほうとうを民宿の方に調理していただいた。野菜も豊富に入っており、好き嫌いも心配されたが、全員が完食した。自分で作ったほうとうの味は格別だった様子である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理についての理解を深めた。



【ほうとう作りの様子】

○児童の感想

- ・実際に富士山に行ってみて、想像していたことと違うことがたくさんあった。写真ではわからなかったことを知れてよかった。
- ・ネイチャーラリーでは、自然の物でたくさん遊べて楽しかった。木の実の種類や富士山の動物のことを知ることができた。
- ・ほうとうを初めて食べた。自分たちで作ったほうとうは、とても美味しくたくさんおかわりをした。また作って食べたい。
- ・係活動や班での生活は、大変なこともあったけど、協力できたことがよかった。友達のことを考えたり、周りを見たりして行動することができるようになった。

○セカンドスクールの教育活動との関連

セカンドスクールの実施に向けて、生活面の向上と友達との協力に重点を置いて指導を行った。生活面では、気持ちのよいあいさつ、5分前行動、自分の荷物の管理など普段の学校生活

の積み重ねを重視した。その積み重ねの上で、布団たたみや、活動の準備など自分のことは自分で行ったり、衣服の調整など体調管理も自分自身で行ったりすることで、自分で考えながら生活することができた。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。協力という面では、学習班、行動班と、どの活動も班ごとに行ったことで、自分がよければ良いという自分中心的な考え方ではなく、みんなで出来るようにと考えて行動することの大切さを学んだ。互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿が多く見られた。また、担任などの大人が関わり過ぎないことで、子どもたちが自分たちで新たな人間関係を築きあげていた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山世界遺産センターで利用した環境学習プログラムの時間が延び、展示物を見る時間が確保できなかった。富士山世界遺産センターの滞在時間を見直していく。
- ・ネイチャーラリーの雨天プログラムを今年度から、室内ネイチャーラリーに変更した。体をたくさん動かして自然に触れることができてよかった。
- ・富士山から宿舎までの時間が予定よりも長くかかることが分かり、宿舎に帰ってからの絵はがき作成は時間的に難しかったため、次年度は、絵はがき作成の時間帯を見直す必要がある。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月21日～6月23日(2泊3日)

参加人数 男子66名 女子69名
計135名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・プレセカンドスクールに向けて自分で知りたいこと、知らせたいことを決め、実際に体験し、さらに詳しく調べて伝え合う。
- ・学校で学んだことや日常生活ではできないことを体験して学びを深める。
- ・世界遺産の富士山周辺の自然に興味をもち、セカンドスクールにつながる自然観察の視点を育む。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら生活する態度を育てる。
- ・保護者の元を離れる中で、自主的・自発的に生活する態度を育てる。

○日程表

6月21日(水)		6月22日(木)		6月23日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:45	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:50	「よく見よう、じっと見よう 自然のつながり」	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
12:45	昼食	7:15	朝食	7:30	朝食
14:30	宿舎着、開校式	8:00	宿舎発	8:45	「作ろう 味わおう 郷土料理」
14:40	草木染め	10:10	「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」	12:00	昼食
16:30	避難訓練、学習のまとめ、	12:30	昼食	12:45	閉校式
17:30	班長会	13:15	「見つけよう プナ森の不思議」	13:15	宿舎発
18:00	夕食	17:00	宿舎着	14:40	学校着、帰校式、解散
19:00	「富士山の自然に関する話」	17:30	班長会		
20:15	入浴、1日の反省、荷物整理	18:00	夕食		
20:50	健康観察、就寝準備	19:00	学習のまとめ		
21:20	消灯	19:30	「富士山の自然に関する話」		
		20:00	入浴、班ごとの振り返り		
		20:50	健康観察、就寝準備		
		21:20	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動・集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料をもとに確認を行った。特に、朝、素早く起きることや公共の入浴施設での入浴のマナーについて重点的に指導した。
- ・課題解決学習とするために、富士山の自然・文化・産業・人々のくらしをキーワードに検索を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究して調べることで、現地で学びたいことの明確化を図った。
- ・生活班の係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを行って、やるべき活動を明確化させ、責任感をもたせた。
- ・草木染めの焙煎液となるハルジオンを学校周辺で摘んで集め、絹のハンカチに絞り加工を施した。普段生活している武蔵野市と山梨県の伝統工芸を関わらせることにより、双方の地域のもつよさや特徴にさらに目を向けさせた。

2 事後の学習内容

- ・国語の「新聞を作ろう」の単元と関連させ、屋内ネイチャーハントや草木染め、宝永火口登山、ブナ林のトレッキング、ほうとう作り、宿泊体験や友達との交流などから伝えたい内容をしぼり、分かったことや調べたこと、考えたことを新聞にまとめた。自分の学習課題についての追究結果、それをどのようにまとめると自分が伝えたいことが強く伝わるか割り付けを工夫しながら体験活動を整理し、自分の学びに繋げていった。
- ・班ごとに発表練習を行い、3年生に学習発表会を実施した。学習課題が同じ友達同士で集まり、3年生に伝わる言葉を選びながらまとめ、発表することができた。「3年生に伝える」という相手意識をもつことで、友達同士で意見を交換しながらよりよい発表の方法を粘り強く工夫する姿が見られた。
- ・理科の学習単元である「季節と生き物」では、武蔵野市の自然について調べるとともに「プレセカンドスクールで行った山中湖」というように、自分たちの住む地域と常に比べる視点をもって学習に取り組むことができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 「よく見よう じっと見よう 自然のつながり」(屋内でのネイチャーハント)

雨天であったため、屋内でのネイチャーハントを行った。地元の NPO 法人のインストラクターが各班につき、生物の多様性や自然の生態系について詳しい説明をしてくださった。「周囲にくるみの木がないのに、リスが食べたくるみの殻が落ちているのはなぜでしょう」「幹の模様からこの木に名前をつけてみましょう」などの問題では、インストラクターからのヒントや視点を基に班で話し合っって考える姿が見られた。翌日のトレッキングにつながる視点をもつことができた。

2 「草木染め」

事前に武蔵野市でハルジオンを摘み、山梨県へ郵送した。また、山梨県の特選品である絹でできたハンカチに、割りばしや輪ゴムを使って、折り絞り、カゴ染めなど様々な絞りを入れた。1日目、炊事場に着くと焙煎液の草の匂いが漂ってきた。子どもたちはすぐに「何のにおいだろう?」と嗅覚を働かせ、大鍋の中にできている焙煎液に目を付けた。五感を敏感に働かせて反応を示す子どもが多くおり、自然を十分に味わっていることが伝わった。武蔵野市のハルジオンを使って作っていただいた焙煎液にハンカチを漬ける。煮立った焙煎液は熱く、子どもたちは慎重に攪拌していた。その後鍋からハンカチを取り出し、水でよく洗う。その工程を繰り返し、最後にミョウバン水につけて色を定着させた。そーっとハンカチを広げた瞬間、浮かび上がったさまざまな絞りの模様、子どもたちの表情が輝いた。ハルジオンから美しい黄色が生まれること、自然の力、染め物の技術の素晴らしさを体感することができた。



【焙煎液にハンカチを浸す】

3 「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」（宝永第2火口までのガイドウォーク）

富士宮五合目駐車場から宝永第2火口までガイドウォークを行った。前日の雨で少しぬかるみのある山道を、インストラクターと一緒に一列に並んで歩いた。木の根が張り出しているところもあり、足を引っかけてしまいそうな道だった。しかし、前日の学習班の振り返りの中で「お互いに声をかけ合う」など、班行動のめあてをたてたこともあり、友達の様子を気遣いながら活動する様子が見られた。曇天の中だったが、自然の中を登山する気持ちよさを味わうことができた。インストラクターの方が各スポットに立ってその都度説明をしてくださったため、どの学級の子どもたちも十分にレクチャーを受けることができた。



【歩いている中で出会った大きな木を囲む】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

地元の方と共に活動をした。事前にうどんとほうとうの違いなどを調べている子どもたちであったが、実際に地元の方のお話を聞きながら作る作業を通して実感を伴った理解に繋がった。活動を開始すると包丁を使って野菜の皮むきをする担当、麺をこねる担当などすすんで役割分担をして協力して作業を進める姿が見られた。指導員がクラスに2人付き、子どもたちの様子を見ながら一緒に活動できたため、安全に進めることができた。



【協力して丁寧に美味しくなるように】

○児童の感想

- ・宝永山の第一火口の直径は2kmだと知り驚きました。実際に見てみると本当に大きくて、やっぱり本物を見るとすごさが伝わるなと思いました。
- ・ほうとう作りがとても楽しかったです。できたてはあつあつで、山に囲まれた寒い地方の食べ物だからなのかと考えました。
- ・1日目は、めりはりをつけた生活ができませんでした。2日目からは、生活係が声をかけてくれて、みんなで協力して荷物整理をはやく終わらせることができました。協力の大切さに気付きました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普通の学校生活に繋げることを意識付けし、学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習を行った。また、現地で培った自然を観る目、味わう心はセカンドスクールに対する意欲付けになった。学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方などを学んだ。
- ・友達との集団生活の中で、一人一人役割を担って活動する経験をするにより、子どもたちの自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓など生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けての自信につなげることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・同じインストラクターが3日間付き添ってくださり、子どもたちの様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにも繋がる「自然を観る目」を養うことができた。また、活動と学習をより深く結び付けることができた。
- ・各学級に2人指導員を配置したため、安全面の確保や個別の支援などを十分に行うことができた。
- ・荒天時のプログラムは去年の反省を受け、変更していた。今回使わせていただいた生物多様性センターや富士世界文化遺産センターは学習アクティビティーが充実しており、子どもたちの自然に対する興味関心が大きく広がった。今年は4学級とクラス数が多かったため、各施設を2学級ずつ交代しながら訪問した。このような学校事情にも柔軟に対応していただけたことが有り難かった。
- ・活動内容が多く、少し時間に余裕がなく感じた。活動内容を精選し、振り返りの時間も十分に取れるようにする。

境南小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月9日～10月11日(2泊3日)

参加人数 男子49名 女子40名
計89名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山や河口湖などの自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる。
- ・地形や気候を生かした農業体験を通して、農家の人々の工夫を理解する。
- ・富士山や河口湖などの自然について自ら調べる課題を設定し、その課題を解決する。
- ・地域の伝統食に触れ、伝統食に込められた知恵や工夫を知る。
- ・集団行動をする中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・家族とはなれて生活する中で、自主的・自立的に生活する態度を育てる。

○日程表

10月9日(月)		10月10日(火)		10月11日(水)		
7:55	学校集合・出発式	6:30	起床・検温・洗顔	6:30	起床・検温・洗顔	
8:15	学校出発	7:00	朝の会(体操・散歩)	7:00	朝の会(体操・散歩)	
9:45	談合坂SA	7:40	朝食	7:40	朝食	
10:20	風穴見学	8:40	ホテル発(バス)	8:30	片付け・清掃	
12:30	野鳥の森公園着 (昼食)	9:00	富士山世界遺産センター見学	9:00	閉校式	
13:00	クラフト体験	10:20	富士山世界遺産センター出発	9:15	ホテル発(バス)	
15:45	野鳥の森公園発(バス)	10:40	西湖公民館着	10:30	勝沼ぶどうばたけ着	
16:00	ホテル着・開校式 入室・荷物整理 避難訓練・入浴 学習のまとめ	ほうとう作り体験	12:10	昼食(ほうとう)・休憩	三森さんのお話 農業体験 ・収穫・かさ拭き・草取り	
16:30	入浴	13:00	紅葉台ハイキング 紅葉台展望台、三湖台	12:30	昼食(弁当)	
19:00	夕食	15:30	紅葉台駐車場発(バス)	扇状地見学	13:20	勝沼ぶどうばたけ発
19:45	家族にはがきをかく	16:00	ホテル着	14:30	談合坂SA着	
20:45	健康観察	学習のまとめ 荷物整理	16:30	入浴	15:30	学校着
21:30	消灯	19:00	夕食	19:00	帰校式、解散	
		19:50	ナイトウォーク			
		20:30	健康観察			
		21:30	消灯			

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール、集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、5分前行動を意識して、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・生活班の係ごとに役割を話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、学年全体で共有し、プレセカンドスクールで実行できるようにした。
- ・自発的・自主的に活動できるよう、班長を中心に考えたスローガン「努力、協力、自然にふれあい、安全に」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し思い出に残るものにしようと話し合った。
- ・境南タイム（総合的な学習の時間）に現地で行う調べ学習の内容について児童それぞれがテーマを設定し、事前学習を行った。
- ・調べ学習のテーマを決定する前に「日本の自慢 富士山」と題し、以下の内容を学習した。
 - ①富士山はどうやってできたのだろうか？
 - ②溶岩樹形とはどういうものだろうか？
 - ③富士の樹海とはどんなところだろうか？
 - ④富岳風穴とはどんなところだろうか？
 - ⑤富士山のある山梨県とはどんなところだろうか？

2 事後の学習内容

- ・課題別の学習では、宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流などを入れ、プレセカンドスクールの思い出を振り返り、同じ課題のグループごとに新聞にまとめた。
- ・10月下旬にプレセカンド体験発表会を行い、各自が現地で体験したことや本やインターネットで調べたことから発表資料を作成し原稿を作った。そして、自分の伝えたいことを模造紙にまとめ、次年度にプレセカンドスクールを体験する3年生に宿泊体験の様子や自然体験のすばらしさなどを伝えた。

○特色ある活動内容

<生活・文化体験活動>

1 クラフト体験

山を守るために伐採した木々等の中から好きな材料を選び、工作を楽しんだ。すべての材料が山の自然を守るために出たものだと知ると、どの児童も驚いていた。



【クラフト体験の様子】

2 ほうとう作り

キャンプ場近くの西湖公民館でほうとう作りを行った。地元の方々から、細やかにアドバイスをもらいながら、18班全てが時間通りにほうとう作りを終え、食べることができた。子供たちにとって初めての体験だったが、準備や受け入れ態勢が整っており、楽しく安全にほうとう

作りを行い、郷土食を味わうことができた。

<自然体験活動>

1 富岳風穴見学

富岳風穴は青木ヶ原樹海の中の遊歩道の先にある溶岩洞窟である。急勾配の階段を下りて行き、低い天井に気を付けながら奥に進むと、そこは気温0℃の暗闇。溶岩樹形や縄状溶岩、氷柱などが見られる。総延長201メートル、高さは8.7メートルにおよぶ横穴で、所要時間20分程である。子どもたちはこの季節に氷が残っているのを実際に見て、その寒さに驚いていた。こうした溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたと説明書きを見て納得した様子であった。

2 樹海ハイキングコース

風穴から氷穴まで樹海の中を歩く20分ほどのハイキングコースを歩いた。火山で流れ出た溶岩の上に木々が生え、根が横に伸びている様子や、ガスが抜けて大きな穴が空いているところを見て、自然の威力を実感することができた。

3 紅葉台ハイキング・三湖台

自然を生かした登山道では足元を確認したり、木々を支えにしたりして頂上を目指した。頂上では、西湖や青木ヶ原樹海、富士山の絶景が出迎え、多くの児童が感動していた。



【紅葉台ハイキング】

4 ナイトウォーク

理科の学習で使った「星座早見盤」を活用し、河口湖周辺を歩きながら星空を観察した。東京では味わえない、星空の景色から「うわぁ綺麗だな。」「見て見て、〇〇だよ。」など子どもたちからたくさん声があり、星空に感動していた。

<社会体験活動>

1 ぶどう畑での農作業体験

まず、農業体験でお世話になる方の紹介、ぶどうの種類の話や勝沼の気候を生かしたぶどうについての話を聞いた。気候や地形によって見た目も味も違うぶどうができることを知り、ぶどうへの興味・関心が高まった。

次に、草取りと笠拭きとぶどう収穫を行うためにクラスごとに分かれて体験学習へと入った。現地の指導員の方の指導で安全に作業ができた。子どもたちは説明の通り、ぶどうを傷付けないように気をつけながら収穫した。

収穫や草取り、笠拭きの作業を体験することによって、子供たちは、普段自分たちが食べているぶどうが多くの人の手間をかけなければならないということや、安全でおいしい農作物を育てる工夫を体感することができた。さらに、働いている方々の努力や苦勞、食べ物の大切さ



【ぶどう畑で笠拭き体験】

について考えることができ、有意義な活動になった。

○児童の感想

- ・ 富士風穴は、とても寒くて、すべりやすい場所でした。本当に天然冷蔵庫の役割をしていることを学びました。
- ・ 富士山世界遺産センターで学んだことは、富士山の神様は、女の神様しかいないということです。女の神様と知ってとても驚きました。
- ・ 農業体験を通して、普段何気なく食べているぶどうには、人々の苦勞が積み重なってできたことを深く知りました。
- ・ 一番勉強になったことは、ぶどうのかさの役割です。今までの私は、ぶどうのかさは雨をふせぐということだけで使われているのだと思いましたが、害虫よけや、葉っぱに農薬をかけるときにぶどうの実に農薬がつかないようにするなどという理由で使われていることを知りました。
- ・ 富士五湖は富士六湖とも言われていることを学びました。六つ目の湖は赤池というところだと知りました。
- ・ プレセカンドスクールを通して、学んだことは自分で行動することです。理由は、自分で考えて行動することを求められたからです。

○セカンドスクールとの関連について

友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことを全体で確認し、意識して行動するよう指導した。また、課題追究型の学習過程で、学習課題の調べ方や資料の表現方法などを学んだ。それがセカンドスクールにも生かされると考えている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 富士山世界遺産センターでは、富士山の成り立ちを知るための映像や職員による講話がとても有効だった。富士山への興味・関心が高まるように様々なことを教えてもらえた。
- ・ ぶどう畑の方に農業や土地の特徴に関して話をしていただいたことを、事前学習と事後学習に深く結び付けることができた。
- ・ 紅葉台登山では、昨年度の反省を生かし、緩やかな斜面のコースを選び、登山を行った。大きな遅れをとる児童もおらず、今後も児童の実態に合わせた登山コースを選択する必要がある。
- ・ 伝統食であるほうとう作りを体験することは地域の知恵や工夫を知ることができるよい学習であるが、事後学習において食育と関連付けた授業の展開を行うとより効果的であると考えられる。

本宿小学校

山梨県南都留郡山中湖村

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子27名 女子39名
計66名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士河口湖町の自然や文化、友達や土地の人々とのふれあいや普段できない体験を通して、自然やその土地の文化を学ぶ。
- ・富士河口湖町の気候や自然、風土の中に身をおくことにより、主体的に活動し、その土地の良さを学ぶ。
- ・宿泊生活等を通して、自立に必要な知識・技能を身に付けるとともに、共同で生活できる力や協調性も身に付ける。

○日程表

10月4日(水)		10月5日(木)		10月6日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:00	談合坂SA(トイレ休憩)	7:20	食事係朝食準備	7:20	食事係朝食準備
9:30	山中湖IC	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	富士山五合目トレッキング	8:30	宿舎発	8:30	部屋の掃除、荷物の整理
12:00	昼食	9:00	東大演習林フィールドワーク	8:45	閉校式
14:30	宿舎着・開校式	11:30	昼食	10:30	ぶどう狩り
14:45	荷物整理、避難訓練	12:30	青木ヶ原樹海ハイキング 富岳風穴見学	12:00	昼食
15:00	ほうとう作り	16:30	宿舎着	13:00	ぶどう畑発
17:30	夕食	17:00	入浴	13:30	山中湖IC
18:30	入浴	18:00	夕食	14:00	談合坂SA(トイレ休憩)
19:30	自然の話	19:30	月・星座観察	15:00	調布IC
20:30	健康観察、明日の準備	20:30	健康観察、明日の準備	15:30	学校着・帰校式
21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯	16:00	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県に関する課題をいくつか設定した。それぞれが興味をもった課題について個人で調べ学習を行い、わかったことを各クラスで発表した。
- ・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール・マナーについて指導した。特に、集団行動を楽しく行うには、時間を守って行動することや、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。

2 事後の学習内容

- ・実際に見聞きたり、体験したりしたことをグループごとにまとめた。
- ・「プレセカンドスクールのことを3年生に伝えよう」というテーマでそれぞれが工夫した発表を行った。寸劇を入れたり、粘土でほうとうの作り方を実演したりと、3年生にもわかりやすく伝えることができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

富士山5合目が気温2度で、この時期にしては、とても寒い中の登山となった。しかし天候はよく、富士山の山頂を見ながら登山ができた。活動は4グループに分かれて1グループに1人ガイドが付いて歩き、途中変わった色や形の火山岩を見て高山の特徴を学習した。

また、森林限界を見ることができ、富士山特有の植物の観察でき、大自然に触れて十分満足できたようである。



【富士山五合目トレッキング】

2 東大演習林フィールドワーク

班ごとに林の中を歩き、自然に関する問題について考えた。その問題を考えることで、木や動物が環境に合わせて生きていることを学習した。また、グループで問題を考えることにより、チームワークが生まれた。歩いている時も、動物の足跡を探したり、林の中に隠されている人工物を見つけたりするなど自然を楽しんでいた。

3 青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

4グループにわかれ、1グループにインストラクターが1人付き活動を行った。ここでは、青木ヶ原樹海の自然について学習を行った。樹海の特徴である溶岩の上に木がむき出しになっている様子や、溶岩樹形を眺めながら普段立ち入ることのない樹海をゆっくり歩いた。大室山

まで歩き、樹海との木の根っこの様子を比較することができた。

富岳風穴は上から見学し、穴の大きさを感じることができた。天然冷蔵庫として利用されていたこともある氷池などを見て、人々の生活における溶岩洞穴の役割を理解した。

4 ぶどう狩り体験

山梨県でぶどうの栽培が盛んな理由やぶどうの栽培をするときの工夫などの話を聞いた後、ぶどう狩り、草取り、ぶどうのかさふきの3グループに分かれて作業を行った。

ぶどう狩りだけではなく、草取りやかさふきの作業を行ったおかげで、ぶどうを栽培する際の苦勞を知ることができた。また、採ったぶどうはおうちの方へのお土産になるので、子どもたちはおうちの方のために美味しそうなぶどうを選んでいた。



【ぶどう狩り】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

班ごとに現地講師の指導のもと、具になる野菜を切る活動、麺を作る活動を行った。仕事を分担しながら協力して作業を行う姿が数多く見られた。粉から麺を作る作業はほとんどの児童が初めて体験する様で、始めは恐る恐る手を入れていた子もいたが、時間がたつうちに、だんだんと作業にも熱が入ってきていた。出来上がったほうとうは夕食としていただいた。普段あまり食が進まない児童もよく食べていた。



【ほうとう作り】

○児童の感想

- ・ほうとう作りで野菜係をしました。始めはピーラーで指の皮をむくかもしれないと心配でしたが、けがなくできて良かったです。
- ・生地をこねるのが固くて難しかったです。みんなで作ったほうとうは美味しかったです。
- ・プレセカンドスクールを通して、前よりも自然が大好きになり、興味をもちました。
- ・ぶどう畑では、草むしりもして、草をたくさん集められて楽しかったです。最後の日で疲れていたけれど、お昼ご飯の時に新鮮なぶどうを食べさせてもらってすごく美味しくて、元気になりました。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールに向けてということで、集団行動、自立など多くのことを指導することができた。プレセカンドスクールでは、3日間の日程の中で充実感を味わわせるために体験活動を多くし、プログラムを組んだ。

来年度のセカンドスクールでは長期間家庭を離れるため、それに向けて身辺自立ができるよう指導にあたった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・一つの宿舎に泊まったことは、児童一人一人の自立の様子を担当が見取り、支援することができ、来年度の分泊に向けて大変成果があった。
- ・現地スタッフが3日間一環したテーマで児童に指導してくれたので、大自然を体験しながら学べる姿勢が身に付いた。
- ・樹海ハイキングや風穴見学の際のインストラクターのお話は、非常に興味深く聞いている児童もいた反面、4年生にとっては専門的で難しい内容も含まれていた。体験学習を効果的に行うためにも現地スタッフとの事前の綿密な打ち合わせや事前学習が必要である。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子22名 女子21名
計43名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山周辺の自然や現地の人々の暮らしに関して課題をもち、見学や体験、交流を通して、自らすすんで課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・初めての宿泊行事を通し、集団生活の基本的な力を身に付けるとともに、友達のよさに気づき、豊かな人間関係を育てる。
- ・自分でできることはすすんで行ったり、友達と協力して課題を解決したりすることを通して自主性や協調性を育てる。

○日程表

10月4日(水)		10月5日(木)		10月6日(金)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:20	朝食
		9:30	青木ヶ原樹海トレッキング	8:25	閉校式
11:00	紅葉台ハイキング	10:10	富岳風穴見学	9:30	共選場見学
		11:15	ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農業体験
14:00	富士山世界遺産センター	14:00	富士山科学研究所	12:30	昼食
15:00	宿舎到着・開校式	16:00	河口湖畔散策		
17:30	夕食	17:30	夕食	15:30	学校到着
18:30	入浴	18:30	入浴	16:00	解散
19:30	学習の記録	19:30	学習の記録		
19:45	班長会議	19:45	班長会議		
20:00	検温、健康観察	20:00	検温、健康観察		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・昨年度のプレセカンドスクールの写真を見ながら、2泊3日の一連の流れを確認した。その後、児童一人一人が見学場所を中心に課題を見付け、富士山周辺の地理、文化や歴史、暮らし、産業などについて本やインターネットで調べ学習を行った。また、事前に調べたことについて3、4人のグループでタブレットを使って中間報告を行い、実施前に違う課題についての情報を共有した。

- ・班長、副班長、保健係、食事係、整とん係で分かれ、係の仕事について話し合ったり、生活班での宿の過ごし方について確認したりした。

2 事後の学習内容

- ・来年度、プレセカンドスクールに行く3年生に、プレセカンドスクールの様子を伝える発表会を行った。どんなことを体験し、学んできたかを伝えるため、課題ごとにグループに分かれ、作成したプレゼンテーションソフトをタブレットで操作し、発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 紅葉台ハイキング

1日目、ハイキングを行った。残念ながら天候が悪く、青木ヶ原樹海や湖、富士山は見えなかったが、富士山周辺の自然を肌で感じ、草木や花などを観察しながら三湖台まで登った。

2 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目、青木ヶ原樹海のトレッキングと、富岳風穴の見学を行った。青木ヶ原樹海トレッキングでは、樹海の中をゆっくりと歩き、富士山の溶岩が生み出した不思議な形の木の様子を観察したり、様々なキノコや植物を見付けたりした。富岳風穴では、階段を一段一段降りるごとに気温が低くなることを感じる事ができ、自然の不思議さを実感した。風穴の中では、その涼しさを利用して天然の冷蔵庫として使われていたという説明書きを見て、人々の生活における溶岩洞窟の役割を理解することができた。



【青木ヶ原樹海トレッキング】

3 河口湖畔散策

2日目、河口湖畔を観察しながら歩いた。水際まで行き、周りにある石や岩が溶岩であることも見て学ぶことができた。児童は、河口湖の大きさに驚いていた。

<社会体験活動>

1 共選場見学・ぶどう農業体験

3日目、菱山共選場にて、農家から集められたぶどうがどのように仕分けられ、出荷されるのかを見学した。ぶどうの品種についてや、色や形などで等級に違いがあることなど、事前学習で児童が疑問に思っていたことを質問し、解決することができた。

その後、ぶどう農家の方やJAフルーツ山梨の方の指導のもと、加工用のぶどうの収穫体験を行った。ぶどうの上手な切り方や商品にならないぶどうの見分け方を丁寧に教えていただきながら、収穫したぶどうを10kgずつコンテナに積んで運んだ。友達と声を掛け合いながら



【ぶどう農業体験】

450 kgのぶどうを収穫することができた。実際に作業を体験したり、農家の方に話を聞いたことで、農作物を育て収穫するまでには多くの工夫や努力があることを学んだ。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り体験

2日目、西湖公民館にて、山梨県の郷土食であるほうとう作り体験を行った。地元の方々から教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばし、大きな包丁で切って麺を作った。班の友達と協力しながら自分たちで作ったほうとうの味は格別だったようで、どの班も完食した。体験を通して、地元の方と触れ合いながら伝統的な食文化を学ぶことができた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・富士山噴火のマグマによって植物がなくなってしまったはずなのに、現在の富士山の周りには思っていたよりも自然がたくさんあったことに驚きました。
- ・ぶどう農家体験をすることで、ぶどうの作り方や作るときに大変なことなど直接話を聞くことができてよかったです。収穫はとても大変だったけれど、450 kgも収穫できて楽しかったです。
- ・みんなで協力してほうとうを作って食べたことはとても楽しかったです。思っていた以上に麺を打つには、力が必要であることが分かって、職人さんの大変さが分かりました。
- ・ぶどう農家体験やほうとう作り体験で、地域の人から話を聞くことができて嬉しかったです。
- ・5分前行動や友達と協力することの大切さを学びました。プレセカンドスクールで学んだことを来年度のセカンドスクールや学校生活に生かしていきたいです。

○セカンドスクールとの関連について

- ・一つの宿舎で集団生活を行ったことで、児童一人一人の様子を担当が見取り、支援することができた。見取ったことをもとに、セカンドスクールの班編成などに生かしていく。
- ・生活面においては、5分前行動、共同で使う場所での使い方など集団生活のルールを守ること、自分のことは自分でやることの大切さ、難しさを実感していた。日を追うごとに、友達と声を掛け合い、協力しながらできることが増えたのでこの経験をセカンドスクールに生かしていく。
- ・学習面においては、自ら課題をもち、事前に調べたことと実際に体験したことをまとめ、発表するという学習過程をとった。来年度のセカンドスクールでも行っていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度からほうとう作り体験を行った。地元の方に教えていただきながら、ほうとうを作ることで山梨県の伝統的な食文化を学ぶことができた。
- ・児童一人一人に役割をもたせることで責任感が生まれ、互いの関係も深まった。また、集団生活のルールやマナーを再確認する機会となり、来年度のセカンドスクールに向けての自信につなげることができた。
- ・事前学習・事後学習では、今年度から導入されたタブレットを活用することでそれぞれの調べたことを効率的に共有することができた。
- ・紅葉台ハイキングは、コースが短く予定時間より早く終了した。また、悪天候により三湖台では樹海や湖、富士山が見えなかった。次年度も自然体験活動として実施するが、天候によって左右されずに、富士山の自然について学習する活動を確保するため、富士山科学研究所でのプログラムを増やす。

井之頭小学校

群馬県利根郡片品村

10月11日～10月13日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子41名
計75名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・自然に親しみ、野外活動の楽しさを体験する。
- ・過程を離れ生活する経験の中で、自立の心を養う。
- ・自然の中で心と体をきたえる。
- ・集団生活について学び、互いに協力しあう態度を育成する。

○日程表

10月11日(水)		10月12日(木)		10月13日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
8:30	バス乗車、出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	尾瀬わくわく体験郷到着、開校式	8:30	りんごの収穫体験	8:30	農作業体験
13:00	豆腐・こんにゃく作り体験	10:00	片品川水源見学	9:30	田舎料理作り体験
16:40	各民宿着	13:00	昼食	11:15	昼食
17:15	学習のまとめ・健康観察	14:00	植物採集・押し花作り	11:45	宿の方とのお別れの集い
19:00	上毛かるた体験	16:00	学習のまとめ	12:30	閉校式
19:30	民宿の方と交流	17:00	健康観察	12:45	片品村出発
21:30	就寝	18:00	夕食	15:30	到着式・解散
		19:00	上毛かるた体験		
		21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間を活用し、群馬県と片品村について調べ、これから訪れる地域の概要をとらえた。その後各自の興味や関心に基づき学習課題を設定した。「自然環境」「動植物」「湧水」「田舎料理」「特産品」「祭り」「文化」等一人一人が課題を選択し、本やインターネットを活用し調べ学習を進めた。出発前にしおりを使って各自の課題をはっきりとさせ、当日への活動意欲を高めた。
- ・社会科「くらしと水道」の学習を行った際、水源林について学習した。水源林のはたらきについて学び、利根川源流についても地図で確認した。
- ・理科「星の明るさや色」の学習を行い、星座の位置や名称などについて学習した。

2 事後の学習内容

- ・学習課題に沿って、体験をもとに考えをまとめ、リーフレットに成果を表し、まず学年内で発表を行った。自分の学びの中から、どんな内容をどうやって学芸会で伝えるか、一人一人が自分自身で言葉を選び決定して発表を行った。全児童と保護者に向けて伝えることもできた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 りんご狩り体験

りんご園の農家の方に協力いただき、木から直接りんごをもぎ採る体験を行った。たわわに実ったりんごの木から、自分の食べたいりんごの実二つを選びもぎ採った。甘く良いにおいのするりんごにすぐかぶりつく子、自分の宝物のようにみがく子など様々であったが、どの子も大切に一つのりんごを食べていた。もう一つのりんごは、宿に持ち帰り食事の際に一緒に出していただくようにした。

2 片品川水源見学

社会科の時間に「水源林」について学び、実際に片品村の水源を見に行くことで学びを深めた。川の水の始まりは、どのようになっているのか、斜面の土の中から突然に水が湧き出ており、この水が利根川として流れていくことを驚きと共に理解することができた。水源の水の冷たさや、澄み切った美しさ感動し、たくさん木々や腐葉土が積もりふかふかの地面、自然のままに生えているいろいろなきのこ、橋のない川を渡る体験など、武蔵野市では体験することができないありのままの自然を実感することもできた。また、片品村振興公社の方にガイドになっていただき、野生動物について話してもらったり、熊よけの爆竹をならす実演などをしてもらったりしたことで、都会とは違う自然の環境を理解することができた。

<社会体験活動>

1 豆腐・こんにゃく作り体験

現地講師の指導で、片品村特産の大白大豆を使った豆腐を作る児童と、群馬県特産のこんにゃくを作る児童に分かれ体験活動を行った。どのように作られるのか知らない児童がほとんどのため、実際に原料を見て、原料を細かくすることからの調理作業に興味津々で意欲的に体験していた。現地講師の技術に驚



【豆腐・こんにゃく作り体験】

いたり、いつも見ている食べ物の形になったことに喜び

を感じたりしていた。課題テーマに選んでいる児童は質問等しながら、班で協力し根気よく作業することができた。作った豆腐とこんにゃくは、各宿へ持ち帰り、その日の夕食や次の日の朝食としておいしく味わった。

<生活・文化体験活動>

1 農作業体験

片品村の特産品である花豆をはじめとしていろいろな豆の殻むきや茎を運ぶ農作業体験をした。花豆の殻むきは収穫した量が多く、一つ一つのさやから豆を取り出す作業の大変さを実感していた。殻をむいたばかりのつやつやした豆の美しさに感動し、宿のお母さんに頼み自身のみやげに一粒持ち帰る子もいた。



【農作業体験】

2 上毛かるた体験

現地講師の指導で、資料を使いながら上毛かるたのしくみや伝統、ルール等を理解した。その後、各宿で実際に宿のお母さんや現地講師に読み札を読んでもらいながら、班の子どもたち同士でかるたを取り合い、楽しむことができた。このかるたが群馬県の文化を表していることを感じ取り、自分から読み札を覚えようと意欲的に取り組んでいた。



【上毛かるた体験】

○児童の感想

- ・武蔵野市は、自然が多い市かなと自分では思っていたのですが、大きな山とたくさんの自然を見てびっくりしました。川を見たときは、さわってみると冷たくて、どうして冷たくなっているのか不思議に思いました。
- ・私は始めは、プレセカンドスクールに行きたくないと思いました。でも写真を見たり、説明を聞いたりしているうちに、だんだん楽しみになってきました。プレセカンドスクールの3日間はあっという間で、もっと片品村にいたかったです。でも3日間いろいろなことが体験できてよかったです。5年生になったらセカンドスクールがあるので、そこでも協力してすごしたいです。
- ・水源たんさくで山に登ると、思ったより大変でした。でも色々な花、きのこが見られてうれしかったです。私は調べ学習で花を調べていたので、参考になりました。また他の山も登ってみたいです。
- ・豆腐作りでは、おばあちゃん先生のプロの手さばきに驚きました。でも、すごく手間がかかって、昔の人はこんなに大変な仕事を毎日やっていたのだなと思い、驚きました。
- ・一番楽しかったのはりんご収穫体験です。なぜかというと、りんごの木を近くで見るのは初めてだったし、自分が収穫できるからです。農家の方に「下の方が透き通っているりんごがいい」と教えてもらったので、そのりんごを探しました。

○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールと同じ、民宿に分泊する形をとる中で、初めての宿泊行事を体験するができ、より身辺自立の意識を高め、友達と協力して生活することの大切さを感じることができた。また、短い期間ではあったが、生活のルールを守って友達と協力して生活をする経験を成功した体験が、次のプレセカンドスクールに向けての自信と意欲へと繋がった。
- ・プレセカンドスクールでは3日間の日程の中で体験活動を多くし、充実感を味わわせることを目的としプログラムを組んだ。どの体験活動も、児童一人一人が事前に課題を明確にし、調べ学習をしてきた内容と関連しており、この一連の学習の流れが来年度の課題別学習につなげることができている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

体験活動は武蔵野市では経験できないものばかりで、児童に感動や発見を促し、知的好奇心や探究心を引き出すことができた。今年度は、自然観察や押し花作り、田舎料理等班ごとに協力して行動する活動を多くし時間も十分にとった。小集団の中で声をかけ合いながら決まりを守って行動する様子や宿のお父さんやお母さんとの関わり合いを深める様子が多くみられ、一人一人の自主性を大いに高める体験活動とすることができた。

個別の配慮が必要な児童については、事前に詳しい配慮点や指導体制を確認した。様々な状況に適切に対応し、安全に十分に配慮しながら無理なく活動を予定通り進められたことは大きな成果である。次年度も指導体制については十分な配慮が必要である。

また次年度に向けての課題は、指導員との連携である。指導員の方々は一生涯懸命動いてくれるため、それぞれの活動のねらいや宿での振る舞い等について事前に細かに打ち合わせをすることがさらに必要である。指導員を早期に決定し日程を調整することで、子どもたちとの事前の交流を深めたり、保護者会で保護者と顔を合わせて話をしたりすることが十分にできるとよい。

関前南小学校

東京都西多摩郡檜原村

9月13日～9月15日(2泊3日)

参加人数 男子28名 女子24名
計52名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・ 檜原村の自然とのふれ合いを通して自然のすばらしさを感じ、自然を大切にする気持ちをもつ。
- ・ 宿泊生活を通して、自立心や自律心などの集団生活について学ぶ。
- ・ 檜原村の豊かな自然、それを生かした産業など、檜原村での体験を基に、自ら情報を収集し、意欲的に学習する。
- ・ 友達との集団生活や民宿の方々との交流を通し、協力することの大切さを学び、お世話になった人々に感謝の気持ちを表す姿勢を身に付ける。

○日程表

9月13日(水)		9月14日(木)		9月15日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・健康観察・清掃	6:30	起床・健康観察・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストインク [®] コテージ [®] 着 ・開校式	8:00	民宿出発	8:30	民宿出発
10:40	林業体験	8:30	都民の森着	9:00	井上食品こんにやく工場見学
12:30	昼食	9:00	三頭山ハイキング	10:00	シクラメン栽培見学
13:15	水生昆虫観察	10:30	三頭大滝見学	10:30	井上食品発
15:15	製材作業見学	11:30	昼食	10:50	檜原小学校着
16:45	各民宿着・入浴	12:40	木工教室		・交流会
18:00	夕食	15:00	都民の森出発		・学校案内
19:00	民宿の方との交流	15:15	数馬分校記念館見学	12:15	昼食
20:00	学習の記録・明日の準備	16:15	各民宿着・入浴	13:20	檜原小学校出発
21:00	消灯・就寝	18:00	夕食		払沢の滝見学
		19:00	学習の記録・明日の準備	14:30	払沢の滝出発
		21:00	消灯・就寝	16:45	学校着
				17:00	帰校式
					解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 社会科の授業で、檜原村の地形や気候、生活のようすなどについて学習した。
- ・ 総合的な学習の時間に、自分が探求したい課題を見付け、課題ごとにグループをつくり、課

題解決の見通しをもたせた。図書資料を使ったり、インターネットで調べたりして、現地で何を見たり聞いたりしてくるのか、課題を明確にさせた。

- ・宿での係を決めたり、宿での過ごし方について話し合わせたりした。また、出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。
- ・檜原小学校との交流に向けて、学校や武蔵野市を紹介するための準備をしたり、相手校の児童と楽しく交流できるような活動計画を立てたりした。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間において、「檜原村を伝えよう」をテーマに、事前に調べたことや体験したことをまとめ、グループごとに、3年生児童と保護者を対象にしたプレゼンテーションを行った。
- ・探究した課題
 - 「林業」：林業の現状や間伐の方法の紹介
 - 「シクラメン」：シクラメンの育て方や様々な種類の紹介
 - 「川」：檜原村にある滝や川の特徴についての紹介
 - 「都民の森」：三頭山の周辺の地形や自然の紹介
 - 「水生昆虫」：秋川で観察した水生昆虫の種類と特徴の紹介
 - 「こんにゃく」：こんにゃく製造過程や工場働く人々の努力と工夫の紹介
 - 「檜原村の暮らし」：檜原村の1年間の生活のようす
 - 「気候・農業・農産物」：気候を生かした農業と特産物の紹介
 - 「檜原村の観光・伝統」：檜原村に伝わる伝統芸能や合掌造りの紹介
 - 「檜原村の交通」：檜原村の道路の様子やバスの運行について
- ・社会科において、「わたしたちの東京都」の「山の自然を生かした人々の暮らし」で山地として檜原村の生活のようすについて学習した。プレセカンドスクールでの体験活動やゲストティーチャーの話により、学習の理解が深まった。
- ・国語科において、「説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」の学習では、檜原村について見出しや項目の立て方を工夫してリーフレットにまとめた。また、檜原村でお世話になった方々や檜原小学校の児童にお礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 林業体験

地元の林業に携わる講師の方々から間伐の仕方について指導を受けた。間伐することの大切さを学ぶとともに、ロープのかけ方やのこぎりの入れ方を教わりながら、倒す方向を定



【林業体験の様子】

めて間伐体験を行った。森林の保全や管理、植林の大切さについて話を聞いた。児童7名あたり一人の講師で、山に入り、きめ細かい指導を受けながら間伐の体験活動ができた。

2 水生昆虫観察

河原で水生昆虫を採集して観察した。川の水温を体感しながら、石の下の生き物を採集することにより、環境と生き物の暮らしについて考えることができた。

3 三頭山ハイキング

三頭山ハイキングでは、中腹の森林の中を歩き、三頭大滝を見学した。途中で見付けた様々な動植物や動物の痕跡について、都民の森のガイドの方から詳細な説明を受けた。

<社会体験活動>

1 檜原村の自然の学習

都民の森の森林館では、ガイドの方から檜原村の四季の変化の様子や野鳥について説明を聞いたり、自然に関する展示を見たりして、檜原村の自然への理解を深めた。

2 数馬分校記念館見学

檜原小学校数馬分校記念館で昔の檜原村の学校生活の様子や昔使っていた民具についての説明を聞き、だるまストーブ等の実物や旧校舎のジオラマを見ることができた。

3 地元の特産物についての見学

檜原村の特産物であるシクラメンの栽培とこんにやく製造の様子を見学した。こんにやく工場では、檜原村特産のこんにやく作りについて話を聞くことができた。また、でき上がったこんにやくを試食させてもらい新鮮なこんにやくを味わった。

<生活・文化体験活動>

1 地域の人々とのふれあい

檜原村の地域の人々と様々な場面でふれあい、地域のよさを感じることができた。また、1日目の夜に各宿で宿舎の方と交流した。各宿で、檜原村の特産物であるこんにやくやジャガイモスープ、ルバーブジャム作りをした。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は児童にとって貴重な経験となった。

2 地元の小学校との交流

檜原小学校の児童と交流した。体育館で自己紹介やドッジボールをした。その後、校内を案内していただき、児童数や、木材を生かした校舎の様子など、自校との違いを知ることができた。また、昼食も一緒に食べ交流を深めた。



【檜原小学校との交流の様子】

○児童の感想

- ・ 林業体験では、木にロープをかけるのがむずかしかったです。なかなかロープが木の上の方に上がっていきませんでした。ゲストティーチャーの方は、かんたんにできていました。の

こぎりで「うけ口」という切り口をつけてから、「おい口」を切りました。こうすると、木がたおれやすくなります。みんなでロープを引っ張ると、木がミシミシ、ザザー、バリバリと音を立てて、決めておいた方へたおれました。とても達成感がありました。

- ・三頭山のハイキングは、ガイドの方が、いろいろな木や花の名前を教えてくださいました。動物の足あとも教えてくださいました。それが、シカの歩いたあとだとか、クマがつくったたなだとか、教えてもらわなければ、分かりませんでした。
- ・わたしは、こんにやく工場で、はじめてこんにやく玉からはえているこんにやくを見ました。それまでは、こんにやくが植物からできていることを知りませんでした。こんにやくをボタン、ボタン時間をかけてねっているところが心に残りました。できあがったばかりのこんにやくは、とってもおいしかったです。これからは、もっといっぱいこんにやくを食べようと思います。
- ・檜原小学校との交流では学校紹介とドッジボールをしました。すぐに、檜原小学校の4年生となかよくなりました。学校の中は、教室やろう下に木がいっぱいはってあって、木の香りがしました。屋上から山がすぐ近くにみえたところがよかったです。

○セカンドスクールとの関連について

- ・初めての宿泊を伴う学習なので、体験活動の心構えや集団生活の指導に重点を置き、持ち物の準備や片づけ、部屋の整理整頓などができるよう意識付けをした。
- ・現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝の言葉が言えるよう指導した。
- ・課題のつかみ方からプレゼンテーションに至るまでの学習の流れが理解できるよう指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・林業体験学習は、実際に間伐を行い、木が倒れるところを目の当たりにしたことが、林業についての理解を深めるうえで、大変有意義であった。一方、講師の人数が当初の予定と違っていたため、その場で班を再編成しなければならなかった。今後は、再度確認を行うことによって、より円滑な体験活動ができるようにする。また、林業についての児童図書を用意して、事前学習に活用できるようにする。
- ・三頭山ハイキングでは、全員が無事に歩くことができた。足を痛めていた児童は、三頭大滝から森林館へ引き返すようにした。また、途中で足を痛めた児童は、別の足への負担の少ないコースで森林館に戻るようにした。下見を十分に行い、ガイドの方からはコースについての助言を受けながら、児童にとってより安全なコースを選択することができた。今後も、児童の体調管理を確実にし、天候やコースの状況を考慮しながら、より安全なハイキングコースを選べるようにする。
- ・シクラメンの栽培やこんにやくの製造についての学習は、日常生活で目にする植物や食品についての理解を深めるという意義があった。今後は、冬季にシクラメンの栽培活動を行った。食育として給食時にこんにやくを取り上げたりすることによって、事前学習の充実を図るようにする。

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月13日～9月15日(2泊3日)

参加人数 男子69名 女子72名

計141名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・ 宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。
- ・ 富士山や山中湖周辺の自然に触れ、自然を大切にしようとする気持ちを育てる。
- ・ 富士山や山中湖周辺での活動を通して文化、人々に触れ、私たちの生活を支えてくれる人や自然などに感謝する気持ちを育てる。
- ・ プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。

○日程表

9月13日(水)		9月14日(木)		9月15日(金)	
7:35	校庭集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	富士山世界遺産センター見学	9:00	宿舎発	8:15	大掃除
		9:30	村営キャンプ場着	9:00	閉校式
11:45	昼食		ネイチャーラリー	10:00	忍野村着
13:00	御中道トレッキング	12:00	きらら着、昼食	10:30	ほうとう作り体験
16:00	宿舎着、開校式		写真撮影、山中湖散策	12:45	忍野八海散策
16:30	入浴	13:40	富士湧水の里水族館	13:30	忍野八海発
		16:00	絵手紙書き	16:00	学校着、帰校式
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:15	絵手紙書き	19:00	室内レク		
20:20	係活動	20:00	係活動		
21:00	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 総合的な学習の時間における単元「プレセカンドスクールを成功させよう」で、児童一人一人が富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。

- ・主なテーマとして、富士山の形成過程や歴史、富士山の自然、富士五湖、山中湖の自然、山梨県の食文化、忍野八海などについて調べた。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをポスター形式でまとめ、友達と交流した。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間における単元「プレセカンドスクールの体験をまとめよう」で、調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、作文やポスター、新聞にまとめた。
- ・プレセカンドで学んだことや考えたこと、楽しかったことなど、それぞれに工夫を凝らした発表を3年生に行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 御中道トレッキング

麓では不安定な天候の予報であったが、五合目は雨が降ることもなく、予定どおり御中道コースのトレッキングができた。時折、富士山山頂も望めた。御中道コースは平坦であり、2時間のトレッキングも元気にできた。昨年度までついてきた自然解説員の方の解説がなく残念ではあったが、植物や景色、音など、児童は武蔵野市との違いを肌で感じる事ができた。



【近くで見ると赤い富士山】

2 ネイチャーラリー

山中湖村営キャンプ場を借りて、富士山ネイチャークラブによるネイチャーラリーを行った。キャンプ場という整備された環境の中で、木登り、パチンコ鉄砲、綱渡り、宝物探しなど9つの自然体験活動を行った。自然の音を聞く活動では、活動場所の中心から少し離れた場所で横になり、静かな場所で心を落ち着かせ、自分の周りの音を聞く活動を行った。自然の音と、遠くを走る自動車や飛行機の音など人工的な音も聞こえてくる。自然と一体感を味わえる体験活動だった。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

富士山御中道コースのトレッキングに向けて、事前に富士山の自然と歴史、文化などについて見学した。滞在時間が1時間という短い時間の中、解説員の解説を聞き、学びを深めた。北館が富士山の自然を中心に構成されているのに対し、南館は富士山周辺の文化を中心に構成されている。



【昨年6月に開館した南館】

富士山が信仰の対象であったという富士山の文化という視点は児童にとって新鮮に感じられた。

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に棲む魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったり、富士山の湧水に手を入れたりする体験的な学習もできた。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

学級ごとに、4つの民宿に分かれほうとう作りを行った。宿の方に教えていただきながら、小麦粉と水を混ぜ、こねて、伸ばして、と班員で協力しながら行った。昼食には学級のみんなで作ったほうとうを入れたほうとう汁を食べた。普段よりもたくさん食べる姿が見られるなど、自分たちで作ったほうとうは格別の味だったようだ。



【班員で協力してこねている様子】

2 忍野八海見学

ほうとう作りの後、忍野八海を見学した。湧池では、水深が7mあることを知り、水のきれいさを実感した。また、富士山の湧き水がとても冷たいことを手で触って感じる事ができた。

○児童の感想

- ・富士山には外国人もたくさん来ていて、日本の大事な場所なんだなと思った。
- ・私たちが住んでいる武蔵野市とは見えるものや聞こえてくる音が違った。
- ・富士山は遠くから見ると青く、登って見ると赤かった。
- ・五合目には植物はあまりないと思っていたけれど、たくさんの植物や動物がいることを知ってびっくりした。
- ・普段あまりしたことがない木登りなどができて楽しかった。
- ・忍野八海で触った富士の湧き水がとても冷たくてびっくりした。
- ・ほうとうは、自分たちで作ってみんなで食べたから、とてもおいしかった。
- ・班のみんなで生活して、協力することの大切さを学んだ。この経験をセカンドスクールにも生かしたい。
- ・世界遺産センターでは富士山の文化や歴史が知れてよかった。
- ・富士山模型でのプロジェクションマッピングで富士山の見られる姿の違いを知ることができてよかった。
- ・富士湧水の里水族館では、富士山の湧き水にすむ魚を知ることができてよかった。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けて、「友達と協力すること」「自然や人に感謝すること」を学年テーマに掲げ、学習を続けてきた。一人一人が係を担当し、責任をもって活動できた。団体を行動することの大切さを理解し、望ましい態度で活動することができた。活動場所では班長・副班長があいさつや司会進行、お礼の言葉を述べる場面を設け、「自分たちで作り上げるプレセカンドスクール」を実践した。多くの児童が「自分たちは今、何をすべきなのか」ということを考えながら行動できた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度、1日目の晴天プログラムで世界遺産センターでの活動は1時間ほどであった。昨年度できた南館は富士山周辺のことについて学ぶにはとても良い施設であるため、もう少し活動時間を捻出できるとよりよい学びにつながったと思われる。
- ・今年度は、富士山の文化を取り扱う南館の説明を十分に聞かせるために、南館のみの解説員の配置とした。南館に入るグループを決めておくことで一度に説明を聞く児童の数を減らすことができた。来年度もあらかじめ依頼しておく。
- ・御中道トレッキングにはボランティアの自然解説員をつけられなかった。クラスに1～2名の解説員をつけることで活動を充実させることができる。
- ・教員と生活指導員で、体験活動で注意を要するポイントや児童の状況などについて事前の共通理解を深めておくことで、さらに充実した活動ができるようになる。
- ・宿の選定に検討が必要である。(児童数増加への対応、アレルギー対応など)

平成30年3月発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

平成二十九年 度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

平成三十年三月

武蔵野市教育委員会